



KOCHI UNIVERSITY
CAMPUS DESIGN 2010

高知大学キャンパスマスタープラン
—きらりと光る夢のあるキャンパスの創造—

平成23年 3月
国立大学法人 高知大学

目 次

● 高知大学の理念と基本目標	P 1
● 高知大学 組織図	P 2
● 施設整備の基本方針	P 3

朝倉団地

§ 1 キャンパスの現状	
キャンパスの立地条件	P 6
キャンパスの現状ゾーニング図	P 7
現状施設配置図	P 8
経年別現状施設配置図	P 9
現状屋外環境図	P 10
耐震化推進状況図	P 11
§ 2 キャンパス計画	
キャンパスの計画ゾーニング図	P 12
計画施設配置図	P 13
計画屋外環境図	P 14
キャンパスモールの構成	P 15
§ 3 キャンパスのインフラストラクチャー	
エネルギー供給計画	P 16

物部団地

§ 1 キャンパスの現状	
キャンパスの立地条件	P 17
キャンパスの現状ゾーニング図	P 18
現状施設配置図	P 19
経年別現状施設配置図	P 20
現状屋外環境図	P 21
耐震化推進状況図	P 22
§ 2 キャンパス計画	
キャンパスの計画ゾーニング図	P 23
計画施設配置図	P 24
計画屋外環境図	P 25
§ 3 キャンパスのインフラストラクチャー	
エネルギー供給計画	P 27

小津団地

§ 1 キャンパスの現状	
キャンパスの立地条件	P 28
キャンパスの現状ゾーニング図	P 29
現状施設配置図	P 30

経年別現状施設配置図	P 31
現状屋外環境図	P 32
耐震化推進状況図	P 33
§ 2 キャンパス計画	
キャンパスの計画ゾーニング図	P 34
計画施設配置図	P 35
計画屋外環境図	P 36
§ 3 キャンパスのインフラストラクチャー	
エネルギー供給計画	P 38

岡豊団地

§ 1 キャンパスの現状	
キャンパスの立地条件	P 39
キャンパスの現状ゾーニング図	P 40
現状施設配置図	P 41
経年別現状施設配置図	P 42
現状屋外環境図	P 43
耐震化推進状況図	P 44
§ 2 キャンパス計画	
キャンパスの計画ゾーニング図	P 45
計画施設配置図・断面図	P 46
計画屋外環境図	P 49
§ 3 キャンパスのインフラストラクチャー	
エネルギー供給計画	P 50

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画	P 52
-----------------	------

自助努力による新たな整備手法

■ 自助努力による新たな整備手法	P 57
------------------	------

キャンパスのデザインガイドライン

■ キャンパスのデザインガイドライン	P 58
--------------------	------

キャンパスのサイン計画

■ キャンパス サイン計画	P 65
---------------	------

理 念

本学は、教育基本法に則り、国民的合意の下に、地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究の充実・発展を推進します。

基本目標

高知大学は、人と環境が調和のとれた共生関係を保ちながら持続可能な社会の構築を志向する「環境・人類共生」（以下「環・人共生」）の精神に立脚し、地域を基盤とした総合大学として教育研究活動を展開する。教育では、普遍的で幅広い教養を持った専門職業人を養成する。

研究では、南国土佐を中心とした東南アジアから日本にかけての黒潮の影響を受ける地域、すなわち黒潮流域圏の特性を活かした多様な学術研究を推進する。もって地域社会の課題解決を図り、その成果を国際社会に発信する。そのため以下の基本目標を掲げる。

1. 教育

高知大学は、幅広い教養と高度で実践的な専門能力を身に付け、地域社会や国際社会の健全な発展に貢献できる人材を育成する。とりわけ、地域が直面する諸課題を自ら探求し、学際的な視点で考えるとともに、「環・人共生」の精神に立ってその解決策を提案できる人材の輩出を今期中期目標期間の重点的教育目標とする。

このために、学士課程教育では人文科学・社会科学・自然科学・生命科学にわたる普遍的で幅広い教養と各分野の専門基礎力及び社会で活躍するために不可欠な人間性・社会性・国際性を涵養する。また、大学院教育においては、自らの専門分野において、国際的に通用する知識・技術・表現力を持った人材を育成する。

2. 研究

高知大学は、高知県を中心とした南四国や近縁の黒潮流域圏の地域特性に根ざした先導的、独創的、国際的な研究を推進し、そこで培われた知見やノウハウや人材を国内外の諸地域にも敷衍させることにより、地域社会、近隣社会と国際社会に貢献する。具体的には、自然及び環境保全と、住民の安全・健康とクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）の向上を目指した研究を推進し、人と環境との調和のとれた発展に貢献する。研究のキーワードは、「海」、「環境」、「生命」とする。

研究体制としては、個々人の自由な発想に基づく個人研究をベースとしつつ、1) 研究拠点で行う研究拠点プロジェクト、2) 自然科学系・人文社会科学系・医療学系・総合科学系の各学系が行う学系プロジェクト、3) 海洋コア総合研究センターや総合研究センター等で行う組織的研究において、研究者間交流を活性化して研究水準の高度化を図る。

3. 地域連携・国際化

高知大学が有する人的資源（教職員・学生）、知識、情報、研究成果などの知的資源を駆使することで、高知県を中心とした地域社会への貢献を深化・発展させ、地域に欠くことのできない大学として存立基盤を強化する。

これまでに培ってきた教育研究上の成果をアジア・太平洋地域の諸国、特に、開発途上国へ還元することにより、国際社会への積極的な貢献を図る。また、地域に根ざした特色ある国際交流の推進を通して、高知大学の国際化のみならず、活力ある地域社会の発展にも寄与する。

キャッチフレーズ

「5つの能力で社会の力に！ 4つのCで高知から世界へ！！」

Chance

人間関係を作る力など社会性の不足や権利と責任のバランスの喪失、規範意識の希薄化、あるいは他人への思いやりの不足が叫ばれている中、自らの能力向上に向け、たゆまぬ努力を惜しまない人材を育成します。

Challenge

人間性、社会性に富み、活力のある人材の育成を目指します。

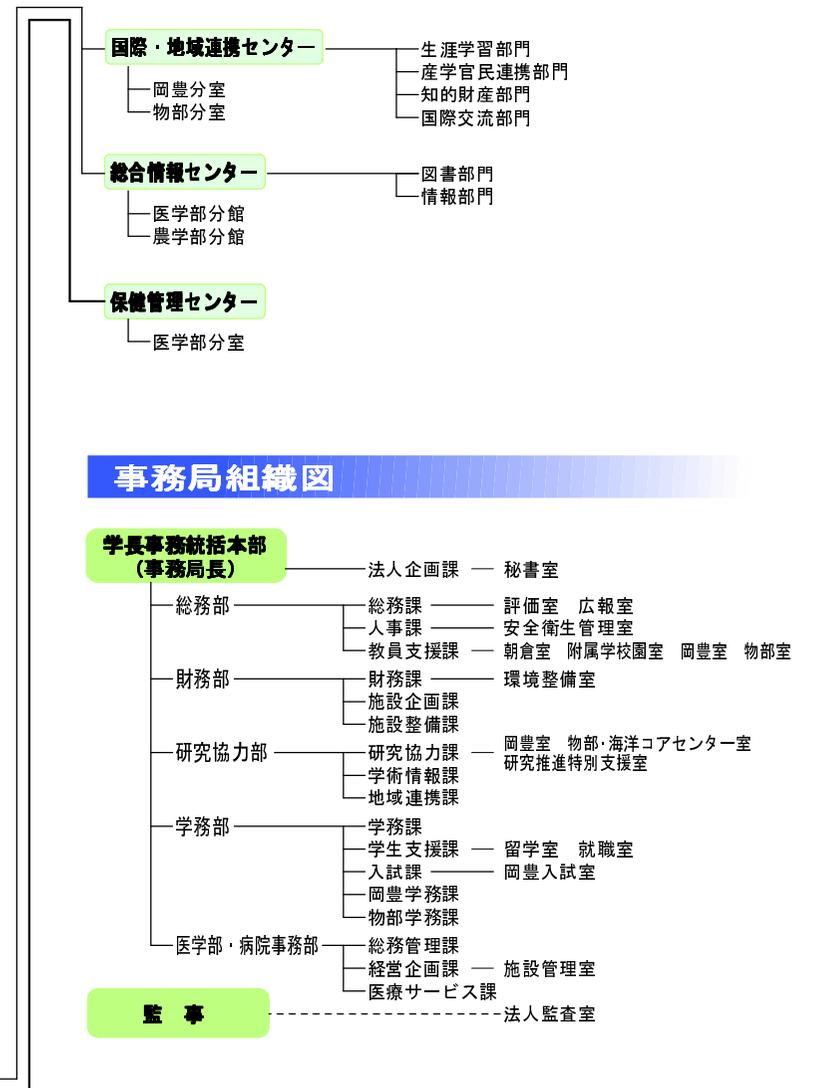
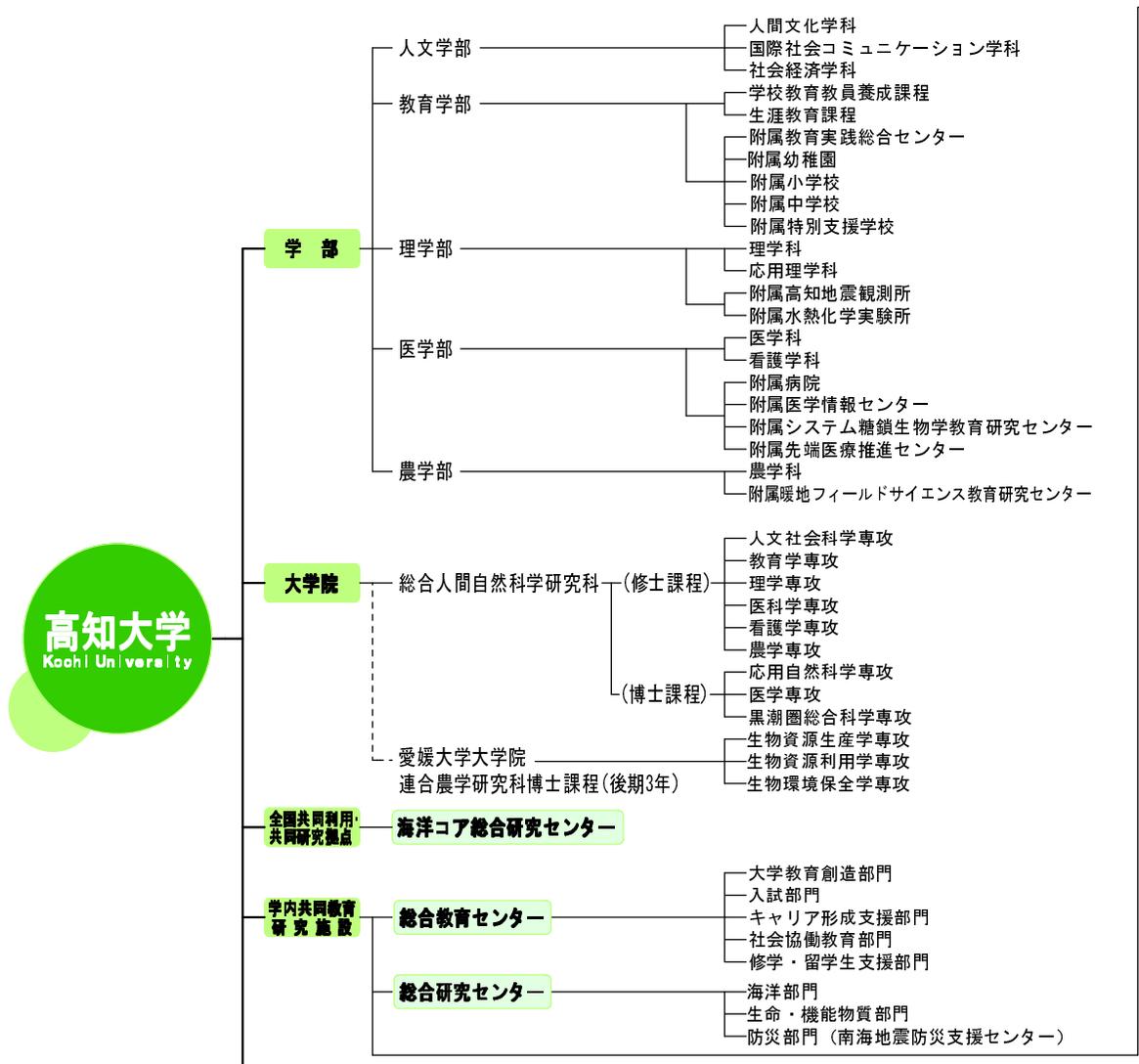
Change

教養教育、専門教育や正課外教育あるいはインターンシップを通じて
5つの能力（表現力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、異文化理解能力、情報活用能力）を身に付けさせます。

Create

21世紀の知識創造社会で活躍できる人材を輩出します。

教育・研究組織図



施設整備の基本方針

- 施設整備は、第二期中期目標・中期計画に基づき、将来構想に沿った施設整備マスタープランを策定し、計画的な施設・設備の整備を推進する。また安全な公共施設として認知される大学として、学生達に豊かなキャンパスライフを提供できる大学整備を目指す。
- その具体的な行動として、環境に配慮した整備、既存設備の省エネ化、全学一元の施設マネジメントの実施、また施設の劣化等の状況と、安全性・信頼性を確保するための予防的修繕（プリメンテナンスの導入）を図りながら着実な施設整備を進めていく。
- 第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画（平成23～27年度）の柱に基づき、施設機能の高度化・多様化など質的向上への戦略的な整備、地球環境に配慮した教育研究環境、耐震化をはじめ安全・安心な施設環境を構築する。
- また先端医療の充実に向け、地域と密着した先端医療の推進と医療人の育成を果たすため、築30年となる附属病院の再開発整備を推進し、社会ニーズに呼応した病院機能の強化、世界レベルのがん拠点病院として整備とする。

第二期中期目標・中期計画（平成22年～27年）

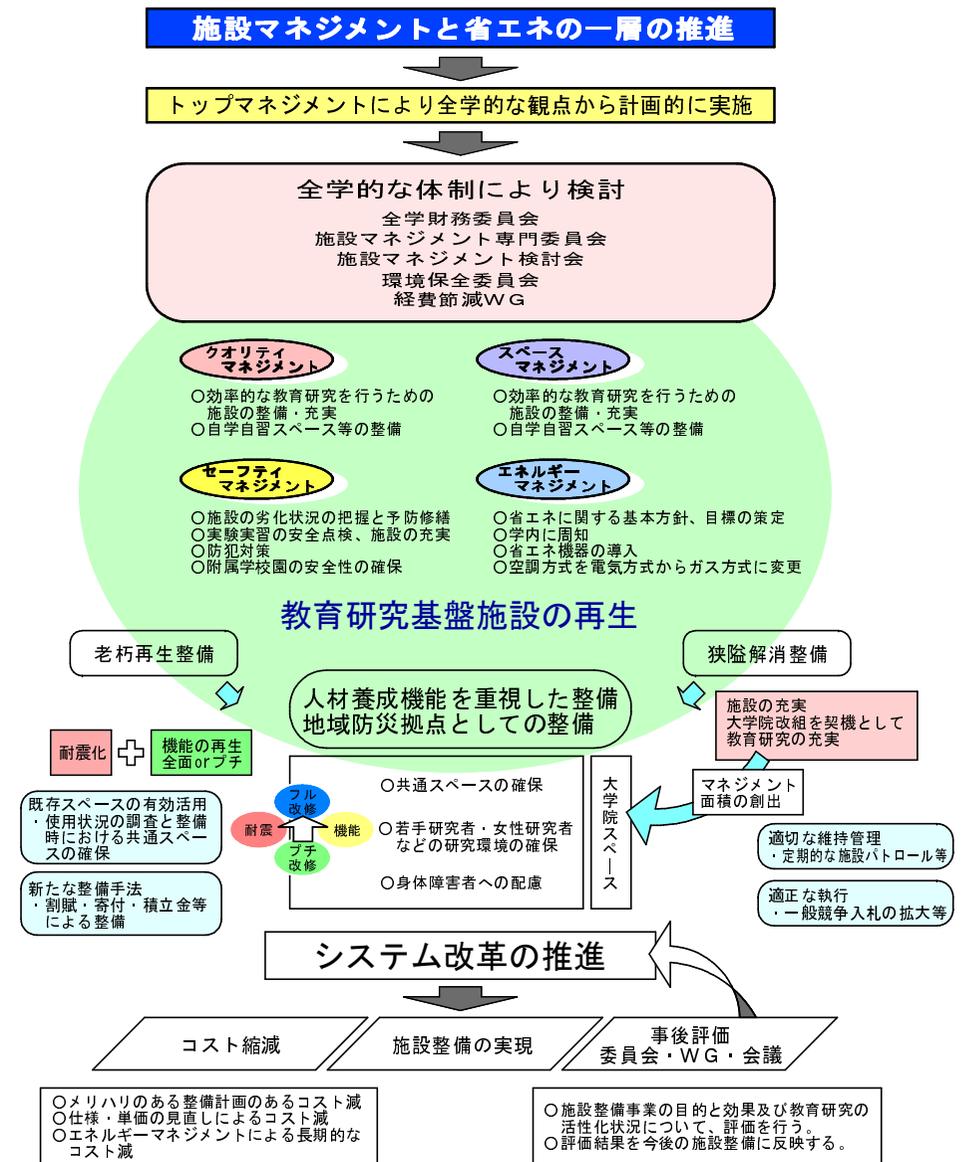
1. 施設設備の整備等に関する目標

教育研究活動、キャンパス環境、先端医療の充実を図るために計画的な施設整備を推進するとともに、施設マネジメントによる施設の有効活用を行う。

抜粋 ①施設整備マスタープランや将来構想に基づき、キャンパスの環境施設整備を計画的に進めるとともに、環境に配慮した整備を行う。

2. 安全管理に関する目標

学生達に豊かなキャンパスライフを提供する大学、安心して教育研究に専念できる大学、地域住民からも安全な公共施設とされる大学として、安全管理体制を充実する。また大学の危機管理を徹底し、防災対策を講じる。

施設マネジメント概念


第二期中期目標・中期計画の施設整備計画

第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画の検討について（平成23～27年度）

国立大学法人等施設を取り巻く現状と課題

- ◆第2次5か年計画の整備目標（540万㎡）に対して残り約3割（141万㎡）の整備が残存。本計画では耐震化を目指した1s値0.4以下の施設も42万㎡残存。
- ◆このほか、以下のような課題を抱えている状況。
 - ・安全上・機能上問題を抱える老朽施設は約650万㎡（全施設の約25%）。研究スペース等の不足や医療環境の悪化、地球環境問題への対応など様々な課題。
 - ・毎年度当初予算は減少しており、補正予算で対応しているものの、計画的かつ十分な整備が困難。諸外国と比べても投資水準き低い状況。

○各大学等が個性と魅力あふれるキャンパス環境を整備していくことができるよう目指すべき姿等を整理。

教育機能の発展 研究機能の発展 産学官連携の強化 地域貢献の推進 国際化の推進 環境問題への貢献 キャンパス環境の充実

○今後重点的に必要な施設を整備（第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画の柱を提示）



国と国立大学法人等の役割分担を踏まえつつ、以下のとおり、必要な公財政措置の確保が不可欠。

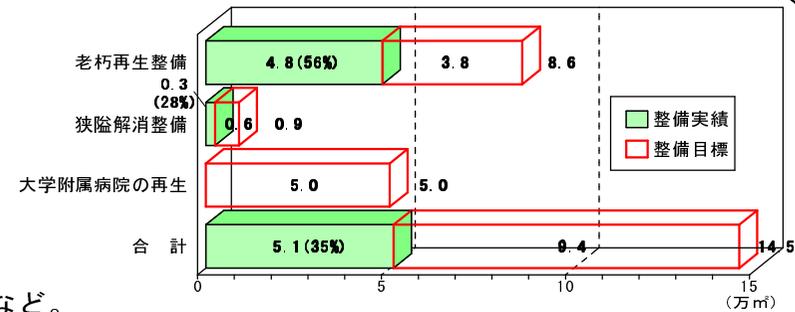
- ◆第2次5か年計画の整備目標達成のためには、残り141万㎡の整備が必要。最終年度となる平成22年度までに目標達成に向け必要となる施設整備予算の確保が必要不可欠。
- ◆現在保有する施設を維持するための改修や改築の費用だけでも毎年約2,200億円（試算）以上の予算が必要であり、安定的整備を実現する施設整備予算の充実が不可欠。

第二期中期目標・中期計画の施設整備計画

第2次5か年計画に次ぐ新たな施設整備計画の検討について（平成23～27年度）

高知大学の施設を取り巻く現状と課題

- ◆整備目標（14万5千㎡）に対し、残り約65%（9万4千㎡）の整備が残存、しかし本計画で耐震化を目指したIs値0.4以下の施設は、22年度に整備した農学部1号館改修により終了した。
- ◆今後も引き続き老朽再生、狭隘化等の対応へ課題が残り、加えて次期5か年計画では附属病院の再生整備（約5万㎡）の計画的な整備を図る。
- ◆このほか、以下のような課題を抱えている状況。
 - ・安全上・機能上問題を抱える老朽施設は約9千㎡。
 - ・研究スペース等の不足や医療環境の悪化、地球環境問題への対応など。



施設マネジメントと省エネの一層の推進

トップマネジメントにより全学的な観点から計画的に実施

全学的な体制により検討

- 全学財務委員会
- 施設マネジメント専門委員会
- 施設マネジメント検討会
- 環境保全委員会
- 経費節減WG

クオリティマネジメント

- 効率的な教育研究を行うための施設の整備・充実
- 自学自習スペース等の整備

スペースマネジメント

- 効率的な教育研究を行うための施設の整備・充実
- 自学自習スペース等の整備

セーフティマネジメント

- 施設の劣化状況の把握と予防修繕
- 実験実習の安全点検、施設の充実
- 防犯対策
- 附属学校園の安全性の確保

エネルギーマネジメント

- 省エネに関する基本方針、目標の策定
- 学内に周知
- 省エネ機器の導入
- 空調方式を電気方式からガス方式に変更

今後重点的に必要な施設を整備

教育研究環境の高度化・多様化 (Strategy)
(施設機能の高度化・多様化など質的向上への戦略的な整備)

- 教育研究に対応した計画的な整備
- 既存施設の保有面積の不均等
- 国際交流会館の整備
- 附属病院の再開発

地球環境に配慮した教育研究環境の実現 (Sustainability)
(環境負荷が少なく持続的発展が可能なサステナブル・キャンパスへの転換)

- 省エネルギー推進方針の策定
- エネルギー使用量の把握対策
- CO₂排出量の削減
- 学内エスコ事業（仮称）の推進

安全・安心な教育研究環境の確保 (Safety)
(耐震化をはじめ安全上著しい支障がある老朽施設・基幹設備の解消)

- 南海地震対策
- 老朽化した建物の営繕的改修
- 老朽化したライフラインの整備
- ユニバーサルデザインの推進

↑
クオリティアップ

↑
基本的条件の整備



高知大学キャンパスマスタープラン

—朝倉団地—

§ 1 キャンパスの現状【朝倉団地】

キャンパスの立地条件

キャンパスの立地状況

○団地周辺の状況

市街地中心より西へ約6kmのところに位置し、正門前は交通頻繁な場所である。

北側には土佐電鉄（市電）及び、JR土讃線（窪川－高松）が走っているほか、国道33号線が松山まで抜けている。

南側は、小学校、中学校、私立高等学校及び住宅地が所在する。

西側は、由緒ある朝倉神社を始め、朝倉城跡、古墳等が散在する。

東側は、住宅、支所、郵便局及び高知大女子寄宿舎などが所在する。



朝倉団地 航空写真

所在地

○所在地：高知市曙町二丁目5-1

○学部等：人文学部、教育学部、理学部、共通教育、福利厚生施設
附属図書館、附属特別支援学校、理学部附属地震観測所
理学部附属水熱化学実験所、国際・地域連携センター
保健管理センター、事務局

キャンパスの法的指定等

○法的規制

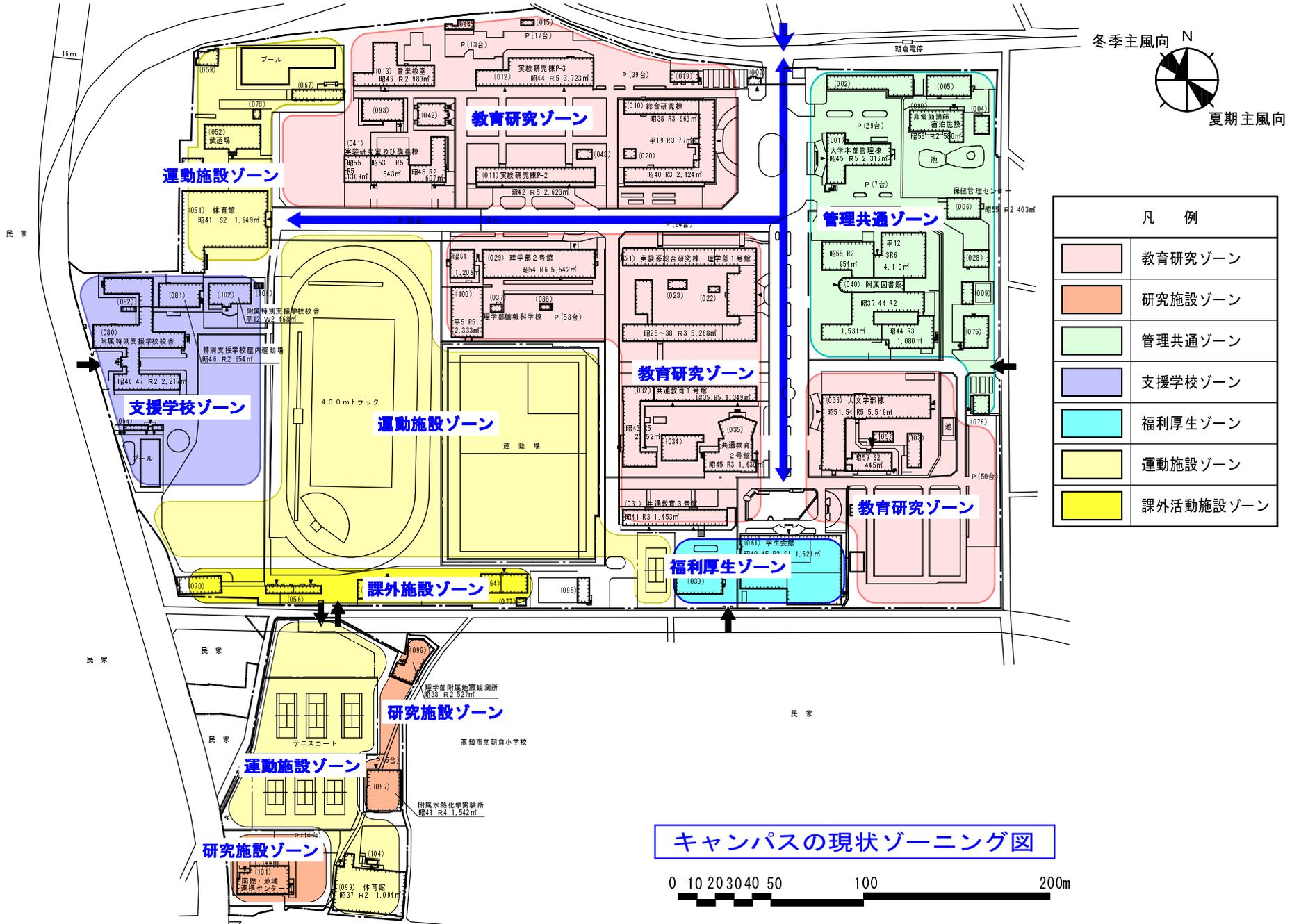
- ・耐力度調査上の地域区分
 - 地震地域係数 二種
 - 地盤種別 一種
 - 積雪寒冷地域 その他
 - 海岸からの距離 8 km以内
- ・日影規制 4時間、2.5時間
- ・都市計画区域内 市街化区域
- ・用途地域 第1種中高層住居専用地域
第2種中高層住居専用地域
第1種住居地域
- ・地域地区 ー
- ・公害防止地域 大気汚染、騒音、悪臭、水質汚濁

土地及び建物面積

○土地面積		159,518㎡
○建物面積	建築面積	26,654㎡
	構造別	
	R	64,242㎡
	S	6,293㎡
	W	481㎡
	B	599㎡
	延べ面積	71,615㎡

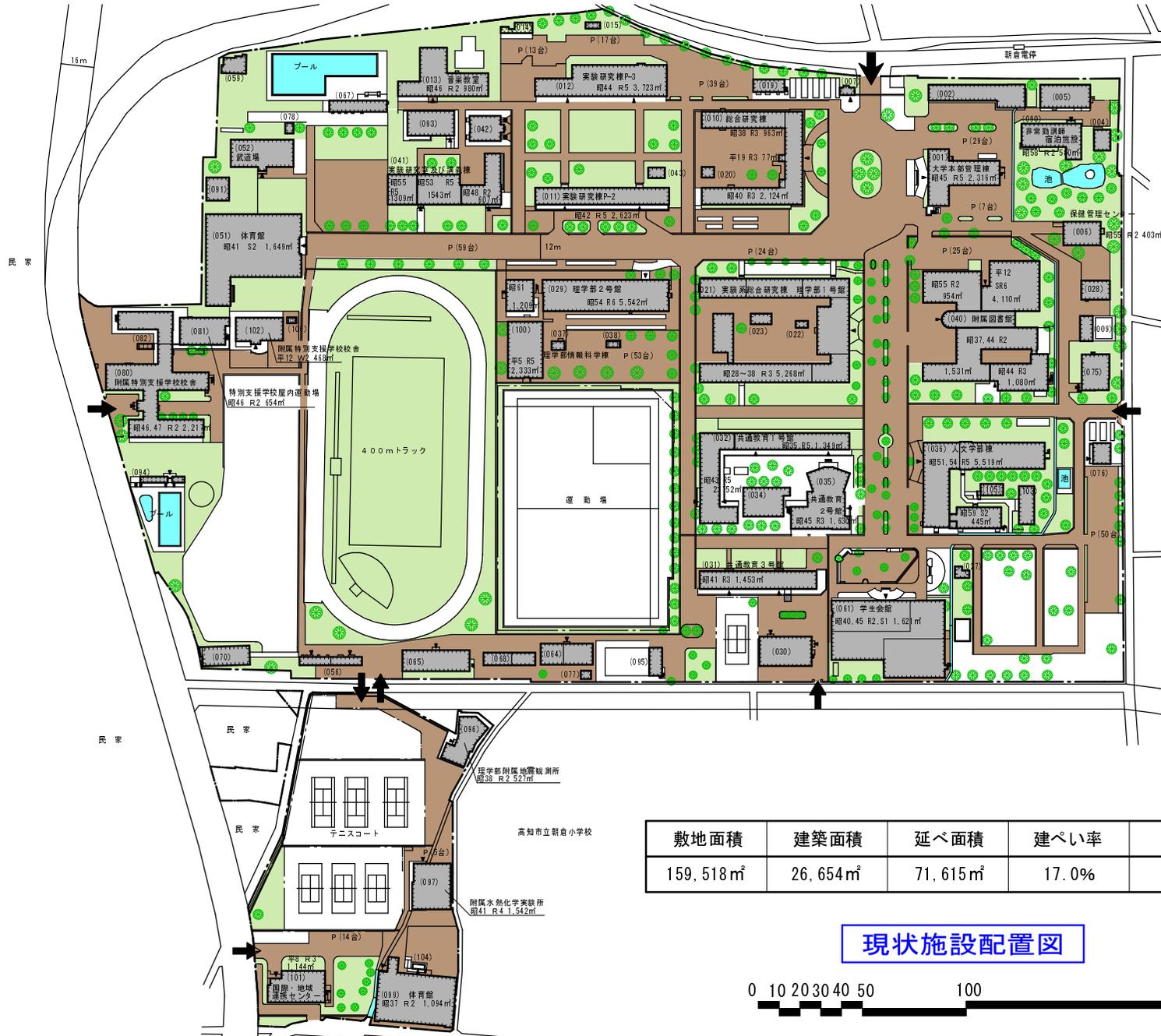
建ぺい率、容積率

○建ぺい率	17.0%	(60%)
○建物面積	45.0%	(200%)



キャンパスの現状ゾーニング図

0 10 20 30 40 50 100 200m



- (002) 自動車庫 昭41 S1 337㎡
- (004) 物産庫 昭47 S1 30㎡
- (005) 若イラー室 昭46 R1 264㎡
- (007) 門衛所 昭43 R1 28㎡
- (009) 給水設備機室 昭54 R1 72㎡
- (014) 飼育実験室及び温室 昭44 B1 61㎡
- (015) 薬品庫 昭44 B1 21㎡
- (019) 物産庫及び作業室 昭55 S2 180㎡
- (020) ボンゴ室 昭54 R1 30㎡
- (022) 薬品庫 昭37 B1 19㎡
- (023) 生物飼育実験室 昭47 R1 50㎡
- (027) 温室 昭36 B1 32㎡
- (028) 物産庫 昭46 R1 125㎡
- (030) 福利厚生施設 昭47 R2 106㎡
- (034) 階段機室 昭34 S1 278㎡
- (037) 室薬液室 昭56 R1 25㎡
- (038) 危険薬品庫 昭56 R1 19㎡
- (042) 講義室 昭53 R1 185㎡
- (043) 機機室 昭53 R1 40㎡
- (052) 武道場 昭42 S1 400㎡
- (056) 課外活動共用施設 4 昭45 R2 240㎡
- (058) 弓道場 昭39 S1 90㎡
- (064) 課外活動共用施設 1 昭51 S2 502㎡
- (065) 課外活動共用施設 3 昭54 R2 648㎡
- (067) プール附属家 昭48 B1 149㎡
- (068) 課外活動共用施設 2 昭48 S2 334㎡
- (070) 課外活動共用施設 5 昭45 S1 212㎡
- (075) 留学生センター 昭57 R2 453㎡
- (076) 中央電気室 昭57 R1 85㎡
- (077) 電気室 昭57 R1 20㎡
- (078) 電気室 昭57 R1 20㎡
- (082) 非常電源機機室 昭52 B1 20㎡
- (090) 非常電源機室 昭58 R2 580㎡
- (091) 物産庫 昭57 S1 121㎡
- (093) 教育実践総合センター 昭60 R2 531㎡
- (094) 附属特別支援学校プール附属家 平 1 B1 57㎡
- (095) 排水処理施設 平 2 R2 88㎡
- (103) 大学院研究室 平12 S1 134㎡
- (104) 屋外校舎 平14 S1 14㎡
- (105) 倉庫 平18 S1 60㎡
- (106) 早期教育相談室 平19 S1 13㎡

敷地面積	建築面積	延べ面積	建ぺい率	容積率
159,518㎡	26,654㎡	71,615㎡	17.0%	45.0%

現状施設配置図



§ 1 キャンパスの現状【朝倉団地】

駐輪場台数

エリア	台数	
教育研究	BA-1	10台
	BA-2	44台
	BA-3	88台
	BA-4	24台
	BA-5	58台
	BA-6	29台
	BA-7	96台
	BA-8	40台
	BA-9	138台
	BA-10	222台
	BA-11	195台
	BA-12	203台
	BA-13	174台
	BA-14	332台
	BA-15	258台
	BA-16	64台
	研究施設	BA-21
BA-22		10台
BA-23		20台
管理共通	BA-23	20台
合計		2403台

屋根無し
屋根無し
屋根無し
屋根無し

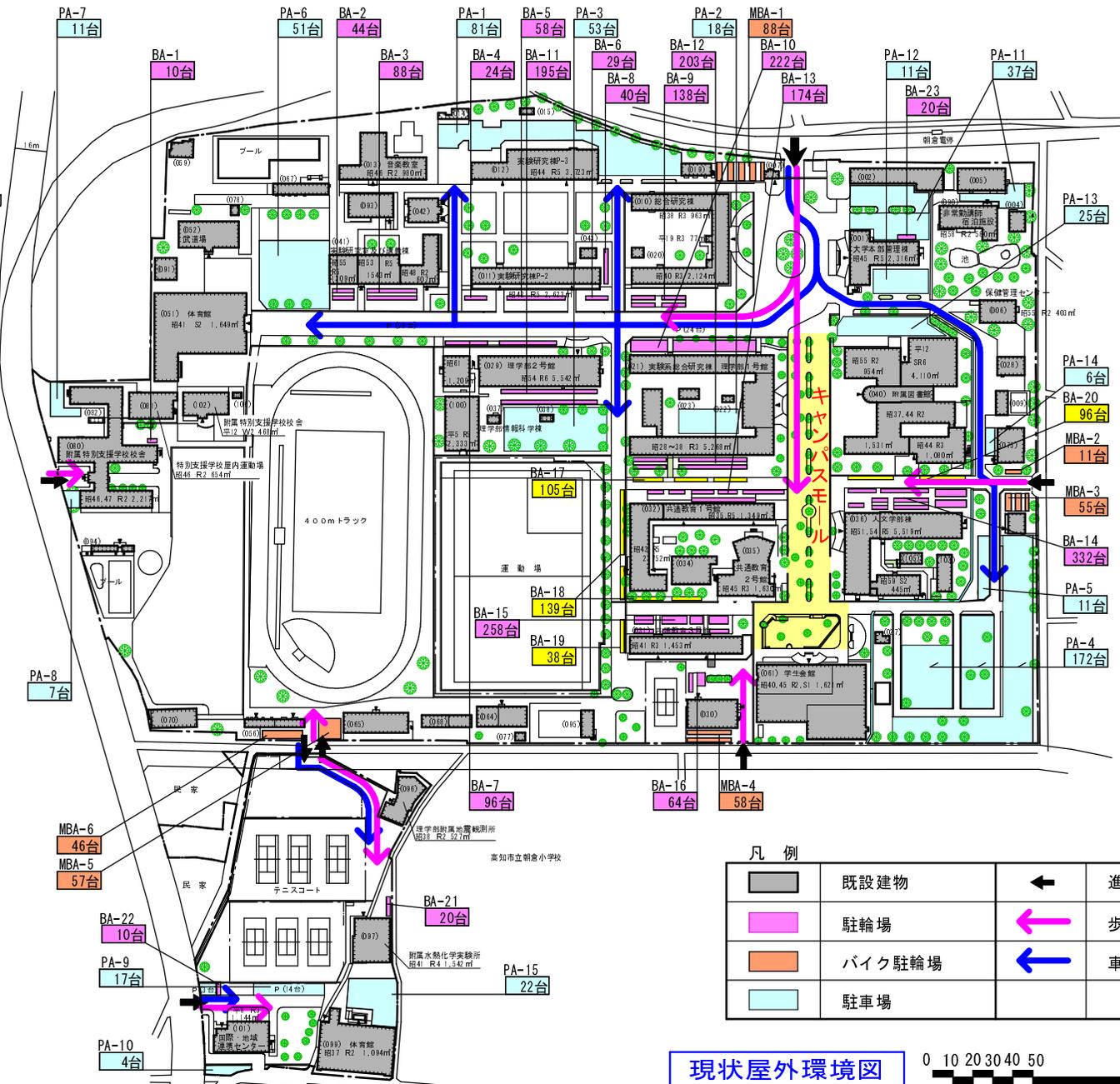


バイク駐輪場台数

エリア	台数	
教育研究	MBA-1	88台
	MBA-2	11台
	MBA-3	55台
	MBA-4	58台
課外活動	MBA-5	57台
	MBA-6	46台
合計	315台	

駐車場台数

エリア	台数		
教育研究	PA-1	81台	
	PA-2	18台	
	PA-3	53台	
	PA-4	172台	
	PA-5	11台	
	PA-6	51台	
	PA-7	11台	
	PA-8	7台	
	研究施設	PA-9	17台
		PA-10	4台
		PA-11	37台
	管理共通	PA-12	11台
		PA-13	25台
		PA-14	6台
		PA-15	22台
合計	526台		

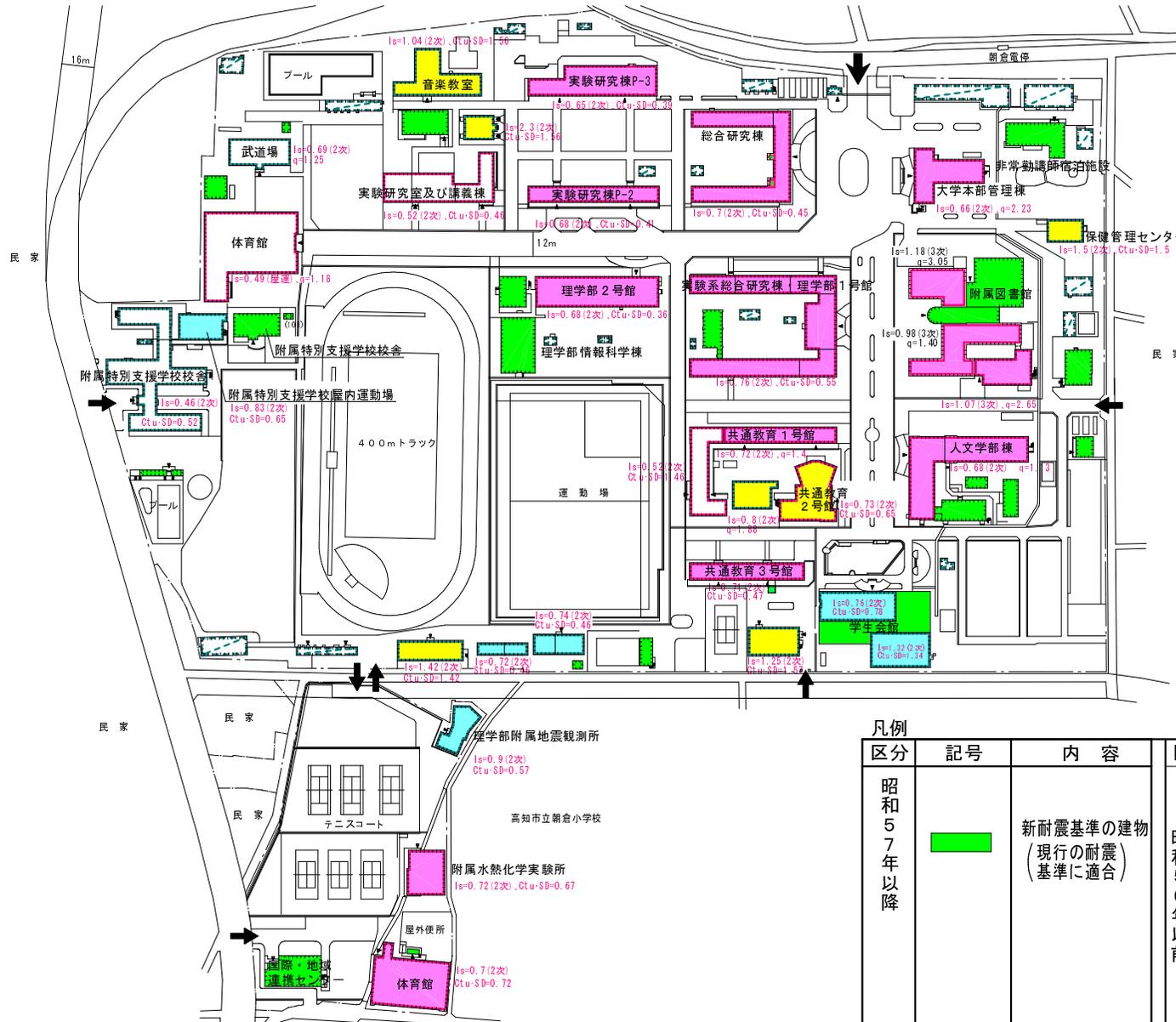


凡例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	バイク駐輪場		車両動線 (学内・サービス)
	駐車場		

現状屋外環境図



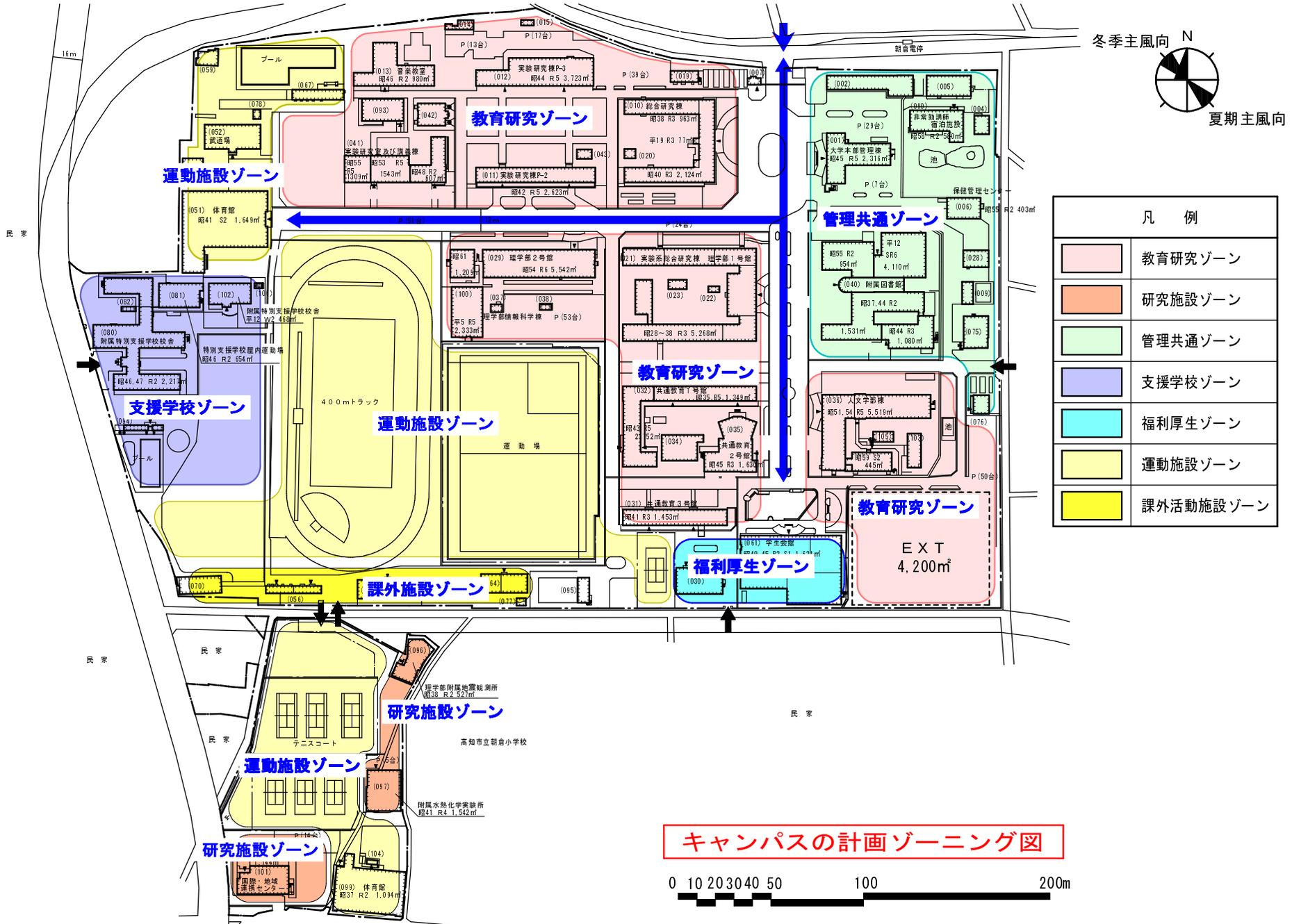


耐震化推進状況図

耐震化率 84.9%

平成22年度末現在

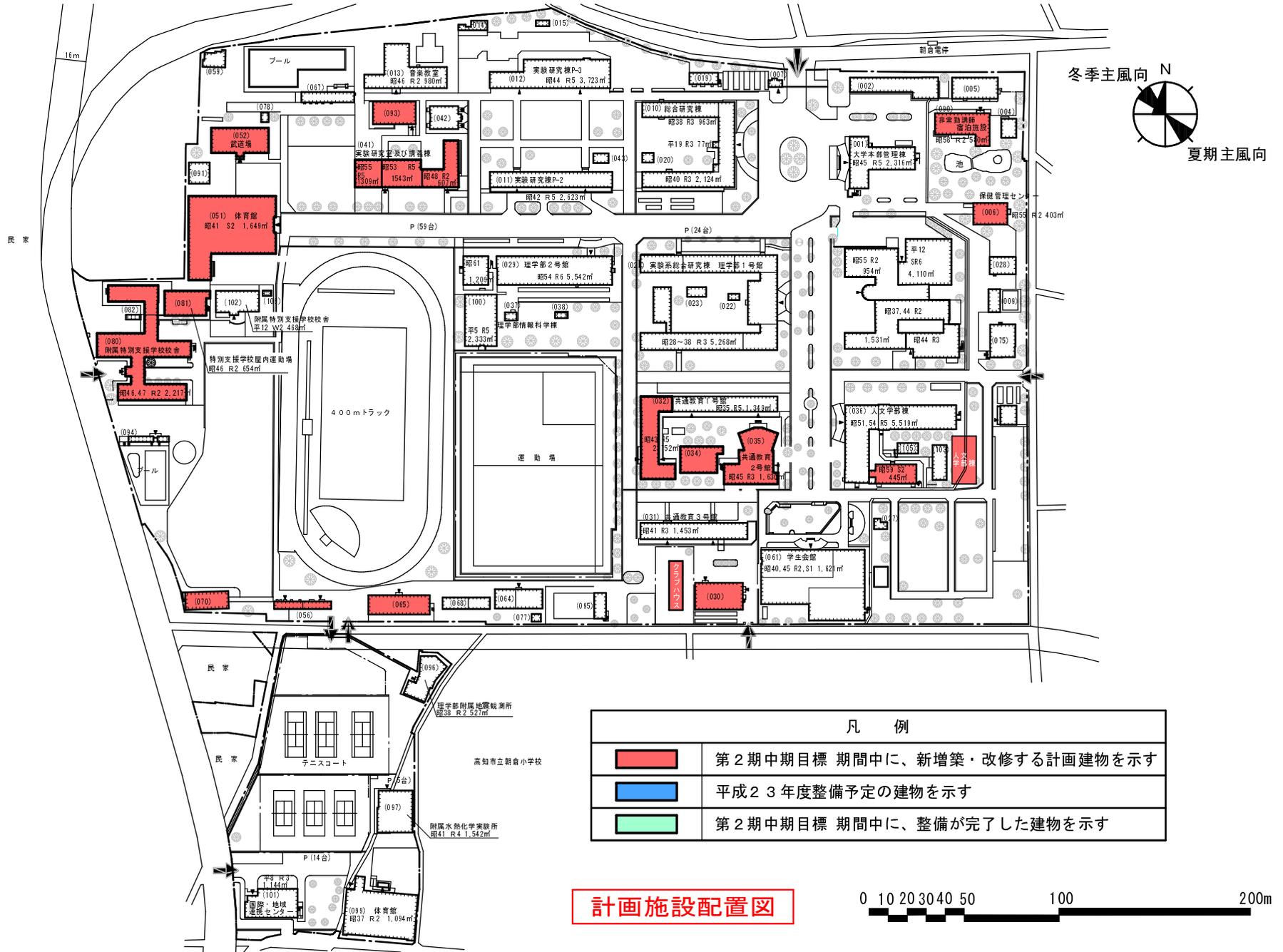
凡例			平成22年度末現在		
区分	記号	内容	区分	記号	内容
昭和57年以降	[Green Box]	新耐震基準の建物 (現行の耐震) (基準に適合)	昭和56年以前	[Red Dashed Box]	未診断建物
				[Pink Box]	耐震診断済み建物 (耐震未改修)
				[Magenta Box]	耐震改修済み建物
				[Yellow Box]	耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要
				[Blue Dashed Box]	診断・耐震改修をする 予定がない小規模建物等
				[Blue Box]	未診断建物
昭和56年以前	[Green Box]	新耐震基準の建物 (現行の耐震) (基準に適合)	[Pink Box]	耐震診断済み建物 (耐震未改修)	
			[Magenta Box]	耐震改修済み建物	
			[Yellow Box]	耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要	



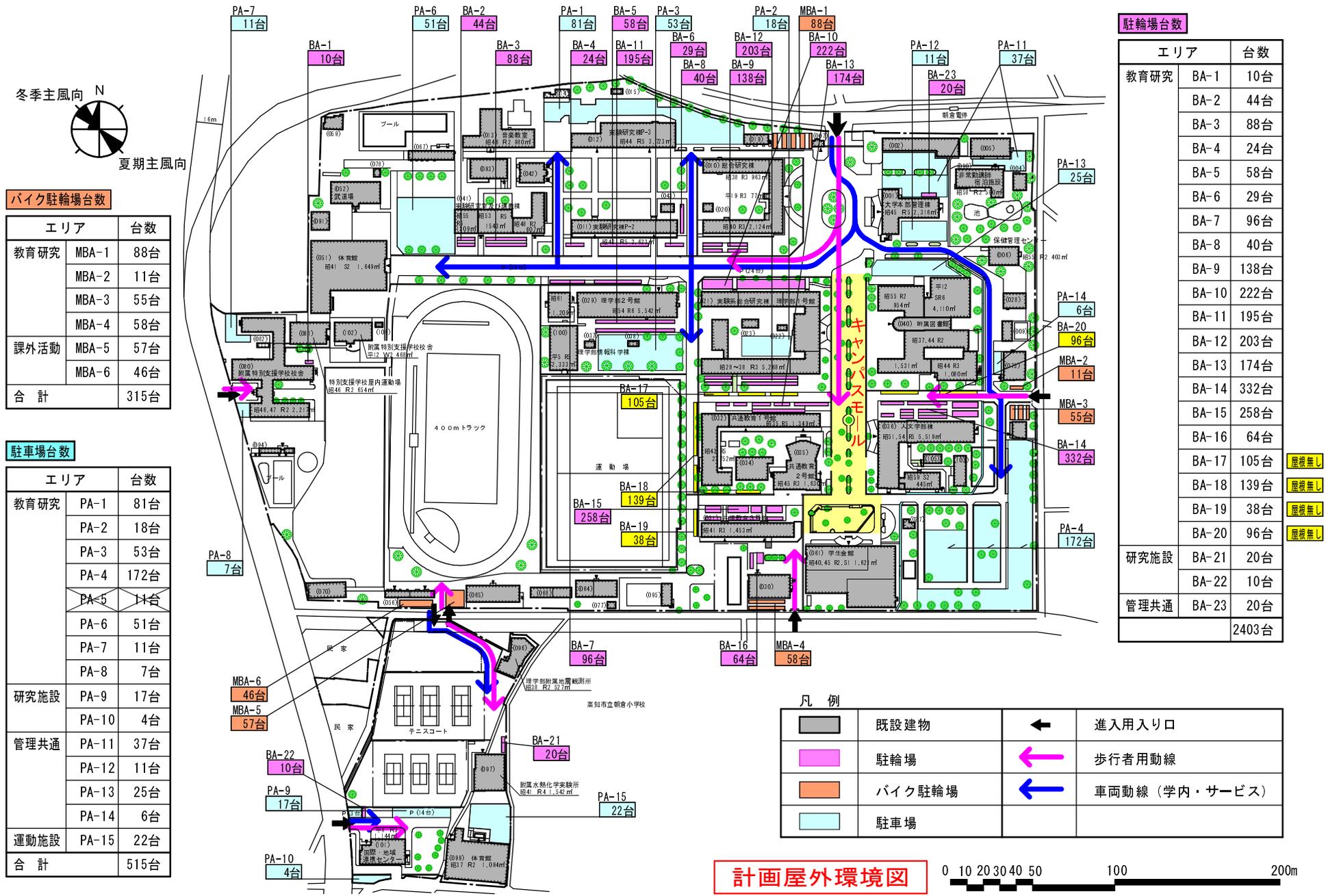
凡例	
	教育研究ゾーン
	研究施設ゾーン
	管理共通ゾーン
	支援学校ゾーン
	福利厚生ゾーン
	運動施設ゾーン
	課外活動施設ゾーン

キャンパスの計画ゾーニング図





§ 2 キャンパス計画【朝倉団地】



バイク駐輪場台数

エリア	台数
教育研究	MBA-1 88台
	MBA-2 11台
	MBA-3 55台
	MBA-4 58台
課外活動	MBA-5 57台
	MBA-6 46台
合計	315台

駐車場台数

エリア	台数
教育研究	PA-1 81台
	PA-2 18台
	PA-3 53台
	PA-4 172台
	PA-5 11台
PA	PA-6 51台
	PA-7 11台
	PA-8 7台
	PA-9 17台
	PA-10 4台
研究施設	PA-11 37台
	PA-12 11台
	PA-13 25台
	PA-14 6台
運動施設	PA-15 22台
	合計 515台

駐輪場台数

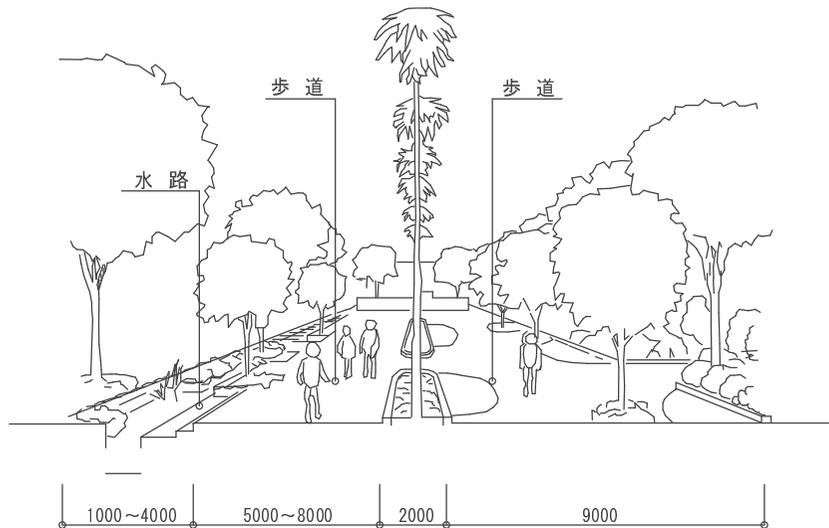
エリア	台数	屋根無し
教育研究	BA-1 10台	
	BA-2 44台	
	BA-3 88台	
	BA-4 24台	
	BA-5 58台	
	BA-6 29台	
	BA-7 96台	
	BA-8 40台	
	BA-9 138台	
	BA-10 222台	
	BA-11 195台	
	BA-12 203台	
	BA-13 174台	
	BA-14 332台	
	BA-15 258台	
	BA-16 64台	
	BA-17 105台	屋根無し
BA-18 139台	屋根無し	
BA-19 38台	屋根無し	
BA-20 96台	屋根無し	
研究施設	BA-21 20台	
	BA-22 10台	
管理共通	BA-23 20台	
合計	2403台	

○高知大学朝倉キャンパス改修基本構想（平成19年度策定）により、既存の環境を極力活かしながら、規制や管理方法の工夫を行い、改修・整備（つくる）から保全・活用（つかう）へ、ハード（施設）からソフト（仕組）へと転換を図ることとし、コスト縮減と環境負荷低減につなげる計画とする。

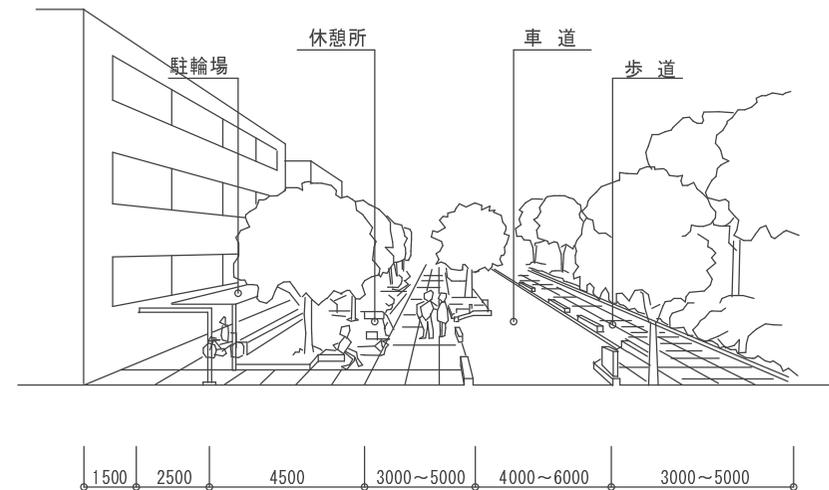
◇キャンパスモールの考え方

- ・ロータリーは、ゲート・サインを改良し東西幹線路は、歩車共存道路として歩道とバリカーなどを整備する。
- ・南北幹線路は、キャンパスモールとして改良し、ベンチなどの休憩施設や用水路付け替えによる流路を水景施設として整備し、散策・休憩機能を持ったアメニティー空間・イベント広場とする。
- ・教育学部の中庭は、散策休憩に利用できる樹林地として改良し、緑地の確保により環境負荷に配慮する。
- ・学生会館北側の駐輪場と植栽地は、休憩広場として改良し、緑陰樹とベンチなどを効果的に配置する。

～水と緑に風格と個性が映える快適空間の再生～



キャンパスモール空間イメージ図（南北幹線路）



歩道共存道路空間イメージ図（東西幹線路）

構内に現存する施設や緑地及び自然的・社会的な環境資源の特性を活かし、風格の継承と個性の創出を快適空間の再生につなげ、以て、エコキャンパスの実現とキャンパス・ライフの質的向上を図る。

キャンパスモールの構成

エネルギー供給計画

設備計画

- 地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。
- 設備機器更新の際は、高効率型機器を導入し省エネルギーを図る。
- 自然エネルギーの利用を図る。

1. エネルギー供給（現状）

1) 電気設備

- ①引込み 埋設管路式で電気室に引き込み
- ②回線数 高圧（6.6KV）2回線
- ③変電設備容量 高圧変電設備（4,790KVA）
- ④デマンド電力 1,576KW
- ⑤契約種別 業務用高負荷率型電力（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式・ピット配線

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 個別方式（空冷ヒートポンプ形エアコン（ガス）方式）
- 2. 供給設備
 - ①水源 井水 使用量500t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
 - ②給水方式 高架水槽（一部加圧ポンプ方式）
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 合併処理槽
 - ②雨水排水 用水路へ放流
 - ③実験排水 合併処理槽
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 都市ガス（天然ガス）（一部LPガス）

2. 情報通信設備（現状）

1) 電話設備

デジタル電子交換機

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

1. エネルギー供給（計画）

1) 電気設備

- ①引込み 埋設管路式で電気室に引き込み
- ②回線数 高圧（6.6KV）2回線
- ③変電設備容量 高圧変電設備（5,440KVA）
- ④デマンド電力 1,700KW
- ⑤契約種別 業務用高負荷率型電力（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式・ピット配線

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 個別方式（空冷ヒートポンプ形エアコン（ガス）方式）
高効率形空調機の更新により省エネ及びデマンドの軽減を図る
- 2. 供給設備
 - ①水源 井水 使用量500t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
 - ②給水方式 加圧ポンプ方式
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 公共下水へ放流
 - ②雨水排水 公共下水へ放流
 - ③実験排水 公共下水へ放流（定期的に検水）
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 都市ガス（天然ガス）

2. 情報通信設備（計画）

1) 電話設備

内線増を計画する

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）



高知大学キャンパスマスタープラン

— 物部団地 —

§ 1 キャンパスの現状【物部団地】

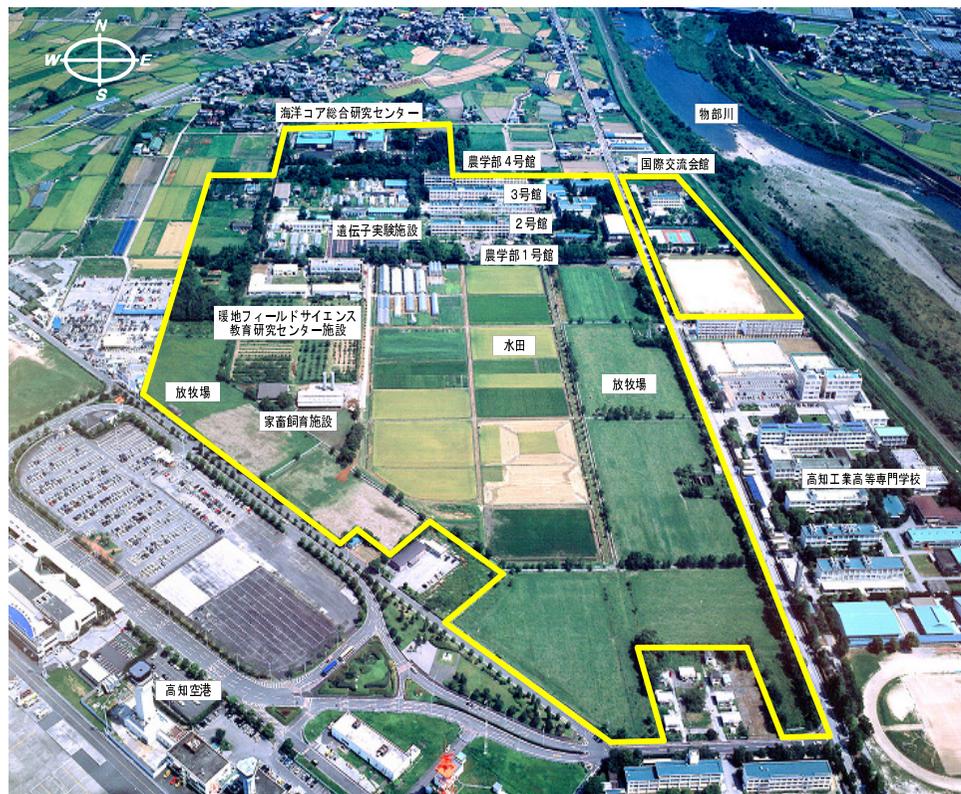
キャンパスの立地条件

キャンパスの立地状況

○団地周辺の状況

高知市中心地より東へ約14kmの南国市物部に位置し、空港の騒音を除くと閑静な田園地帯である。

南西側は、牧柵を経て高知空港へ隣接している。東側は道路を経て高知工業高等専門学校がある。北及び西側は住宅及び田畑が連なり室戸へ通じる



物部団地 航空写真

所在地

○所在地：南国市物部乙200

○学部等：農学部、附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
附属図書館（物部分室）、福利厚生施設、国際交流会館
学生寄宿舍、海洋コア総合研究センター、遺伝子実験施設

キャンパスの法的指定等

○法的規制

・耐力度調査上の地域区分

地震地域係数	二種
地盤種別	一種
積雪寒冷地域	その他
海岸からの距離	5 km以内

・日影規制

なし

・都市計画区域内

市街化調整区域

・用途地域

—

・地域地区

—

・公害防止地域

大気汚染、騒音、悪臭、水質汚濁

土地及び建物面積

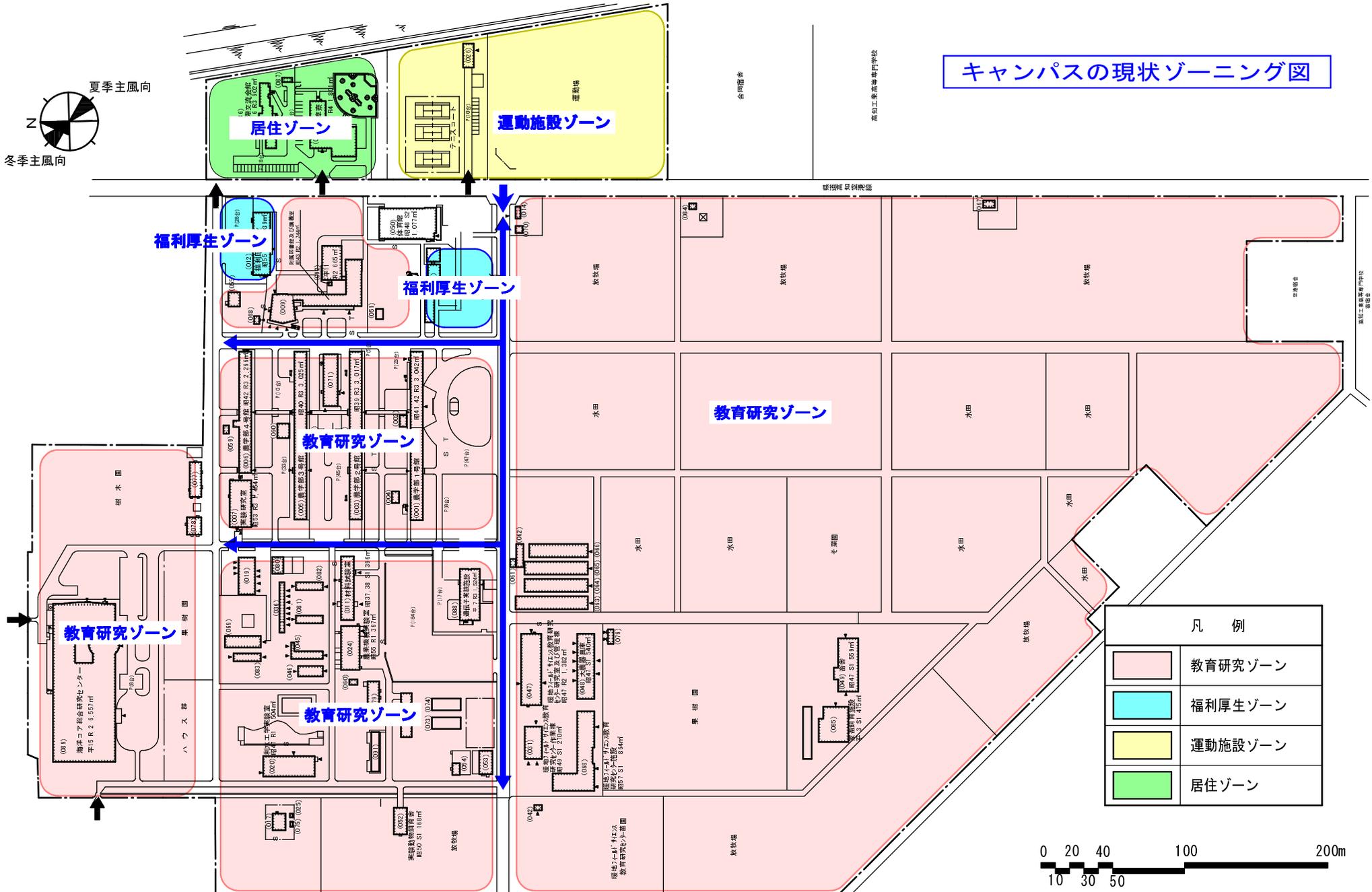
○土地面積		365,686㎡
○建物面積	建築面積	24,285㎡
	構造別	
	R	30,601㎡
	S	9,192㎡
	W	20㎡
	B	498㎡
	延べ面積	40,311㎡

建ぺい率、容積率

○建ぺい率 7.0% (6.0%)

○建物面積 11.0% (20.0%)

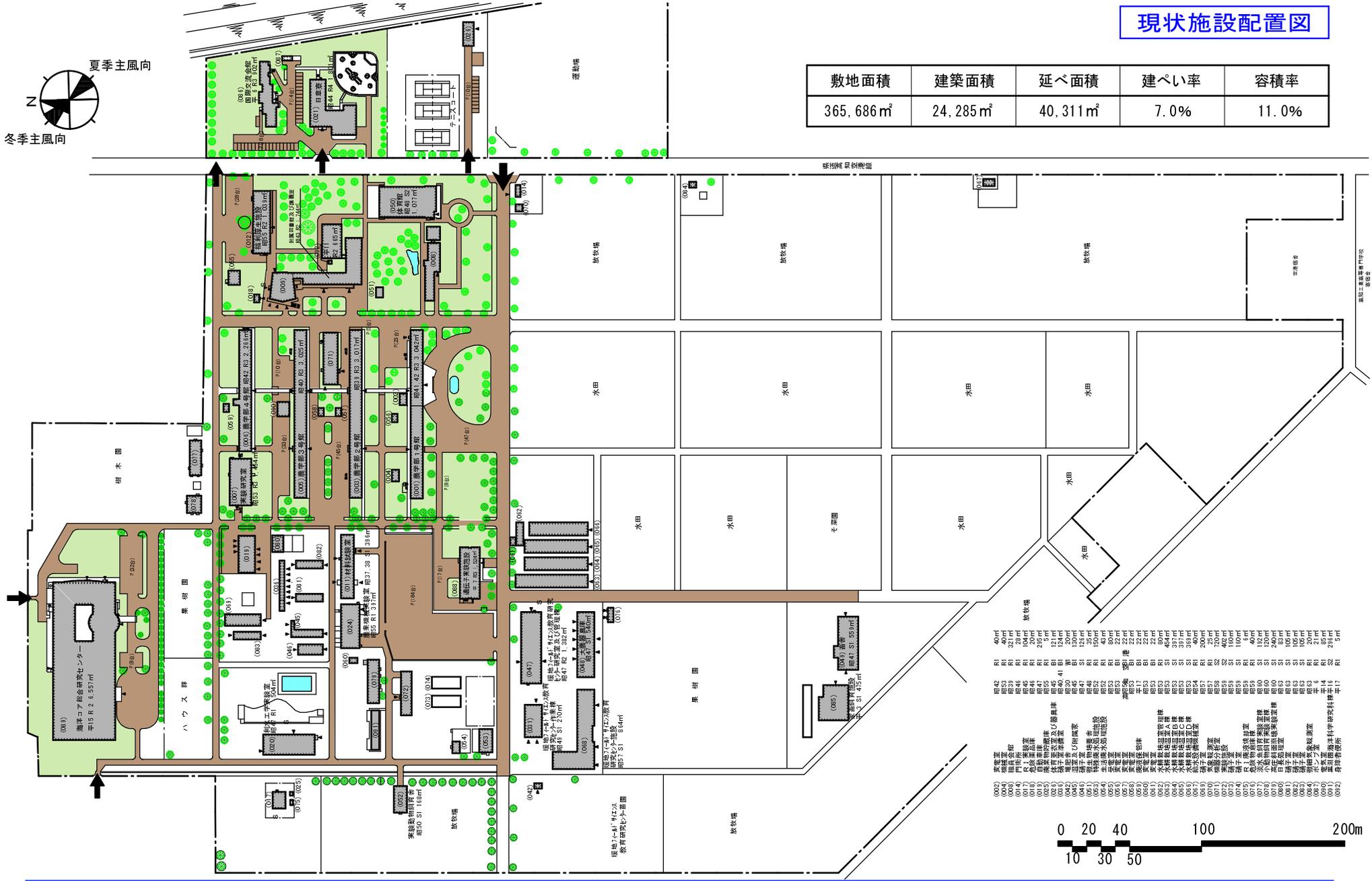
キャンパスの現状ゾーニング図

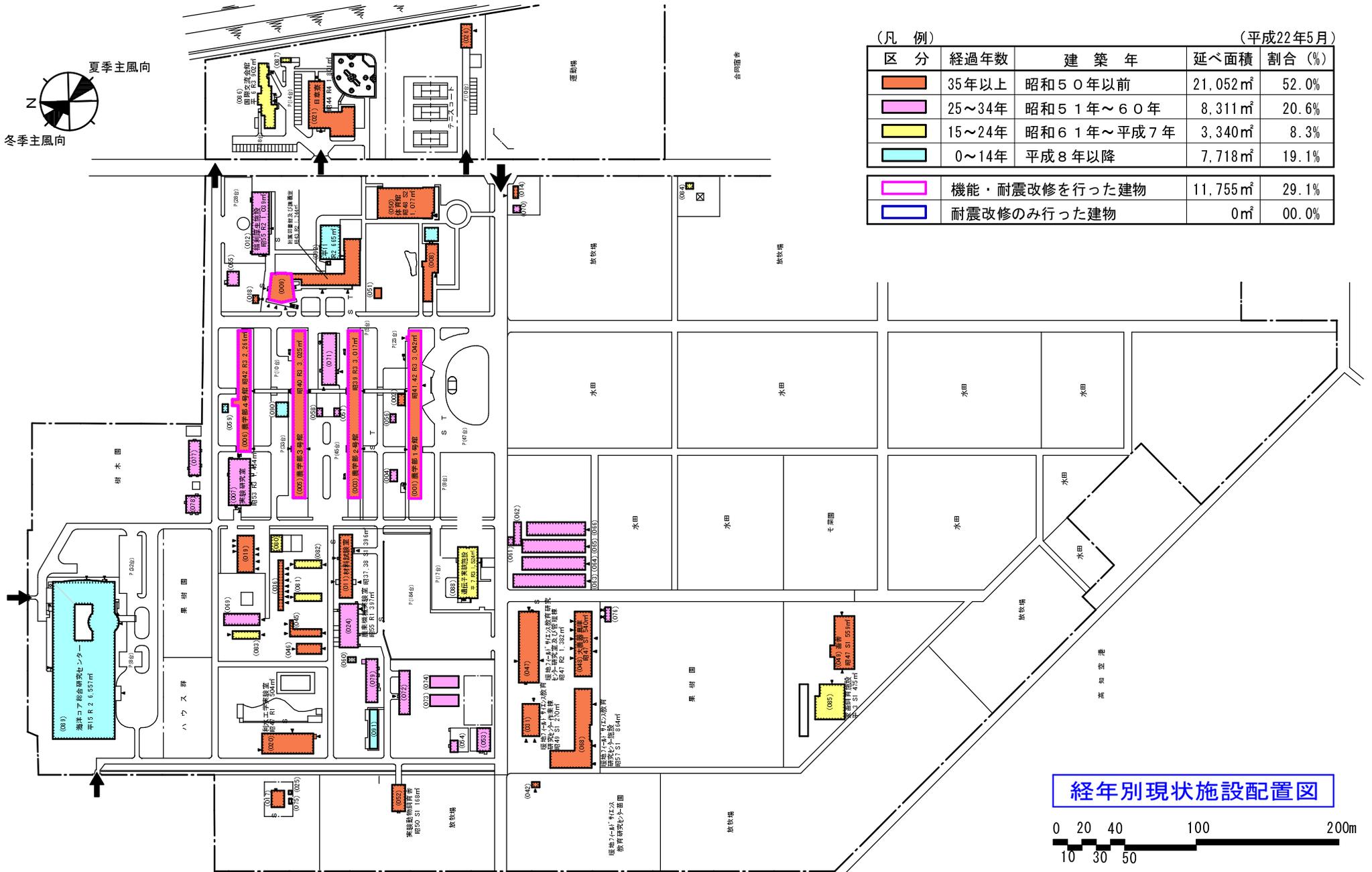


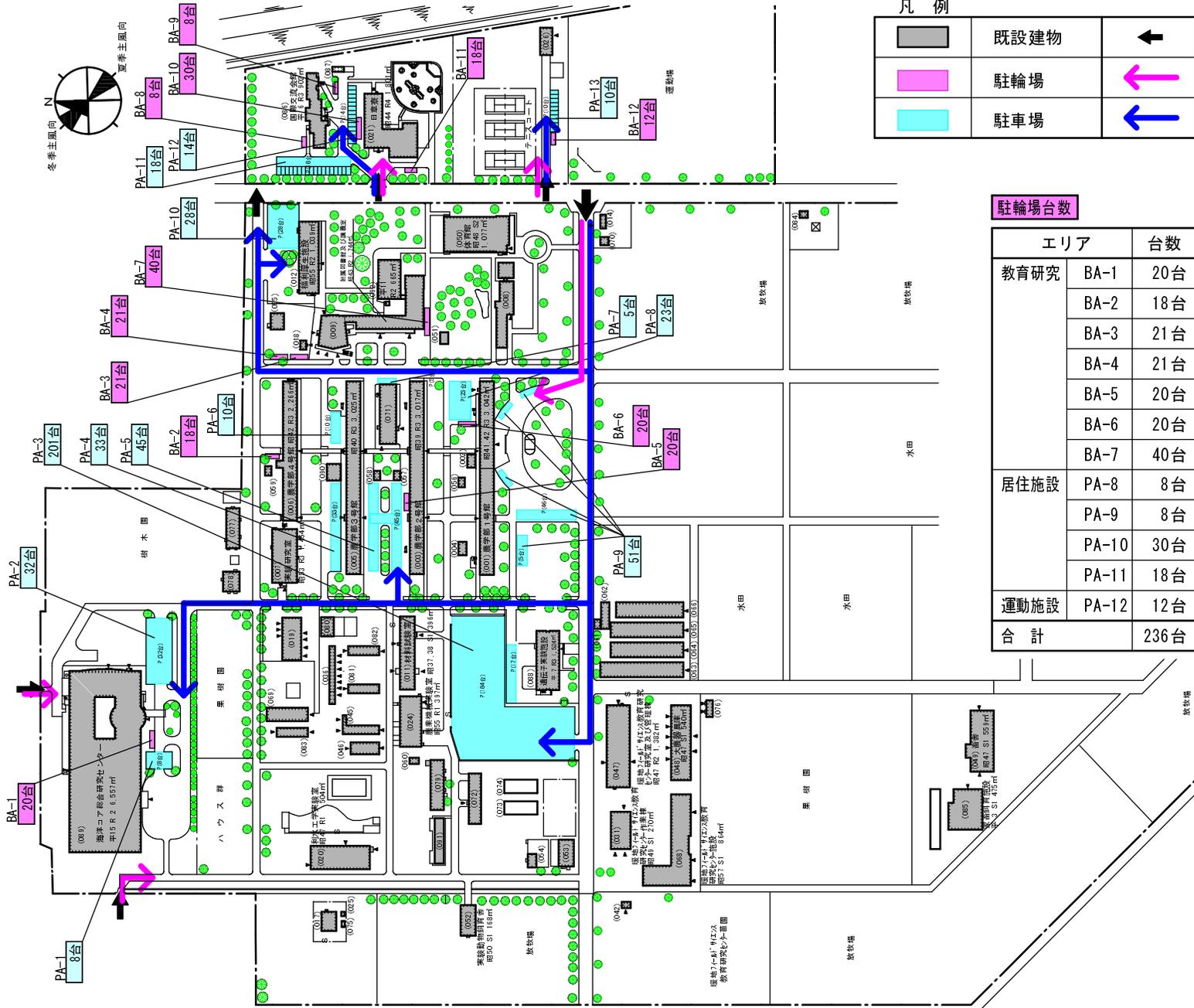
凡 例	
	教育研究ゾーン
	福利厚生ゾーン
	運動施設ゾーン
	居住ゾーン

§ 1 キャンパスの現状【物部団地】

現状施設配置図







凡例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線 (学内・サービス)

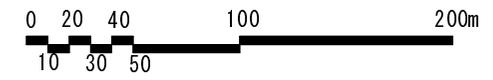
駐輪場台数

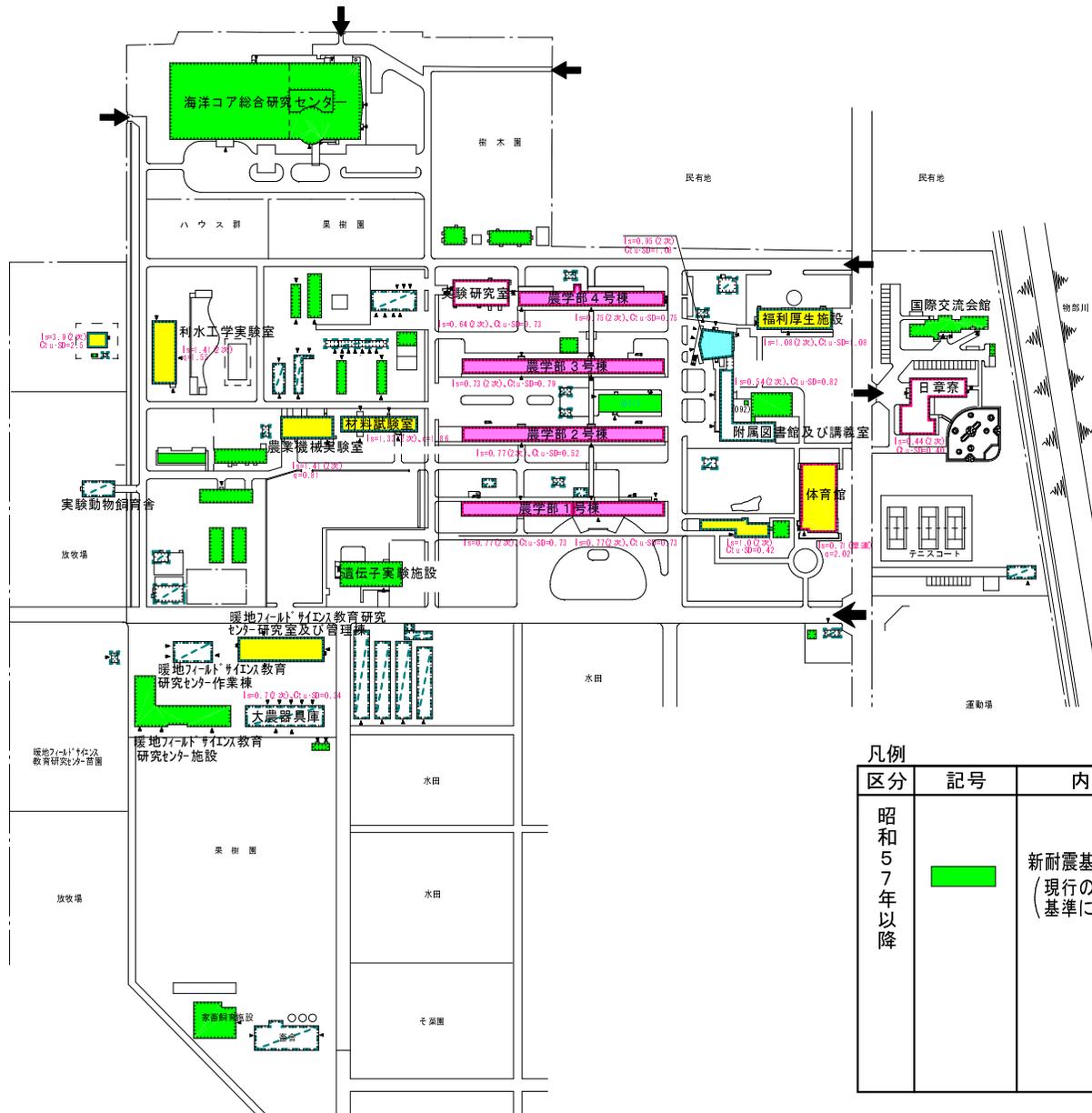
エリア	台数
教育研究	BA-1 20台
	BA-2 18台
	BA-3 21台
	BA-4 21台
	BA-5 20台
	BA-6 20台
	BA-7 40台
居住施設	PA-8 8台
	PA-9 8台
	PA-10 30台
	PA-11 18台
運動施設	PA-12 12台
合計	236台

駐車場台数

エリア	台数
教育研究	PA-1 8台
	PA-2 32台
	PA-3 201台
	PA-4 33台
	PA-5 45台
	PA-6 10台
	PA-7 5台
	PA-8 23台
	PA-9 51台
	PA-10 28台
居住施設	PA-11 18台
運動施設	PA-12 14台
合計	478台

現状屋外環境図





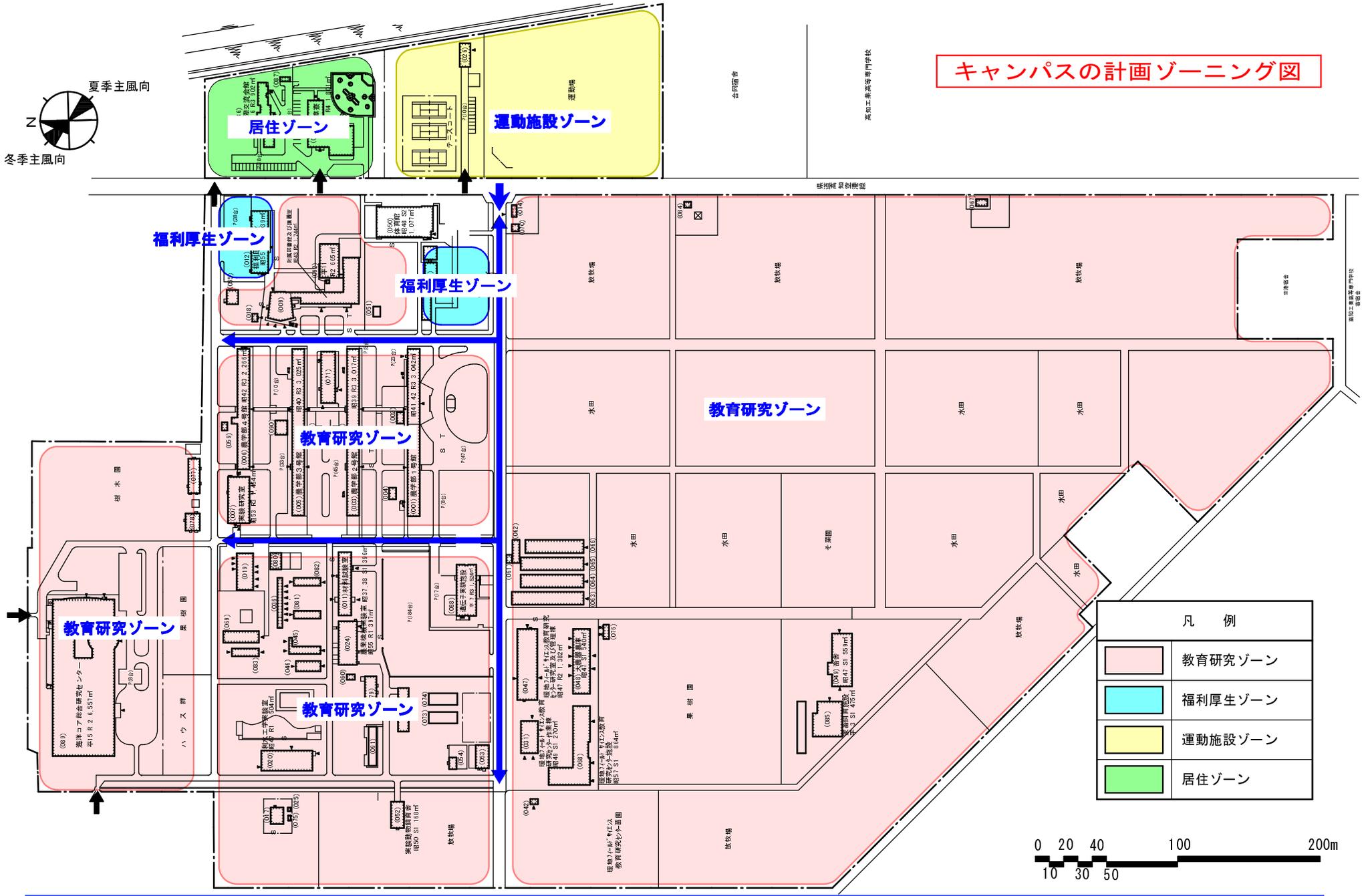
耐震化推進状況図

耐震化率 87.1%

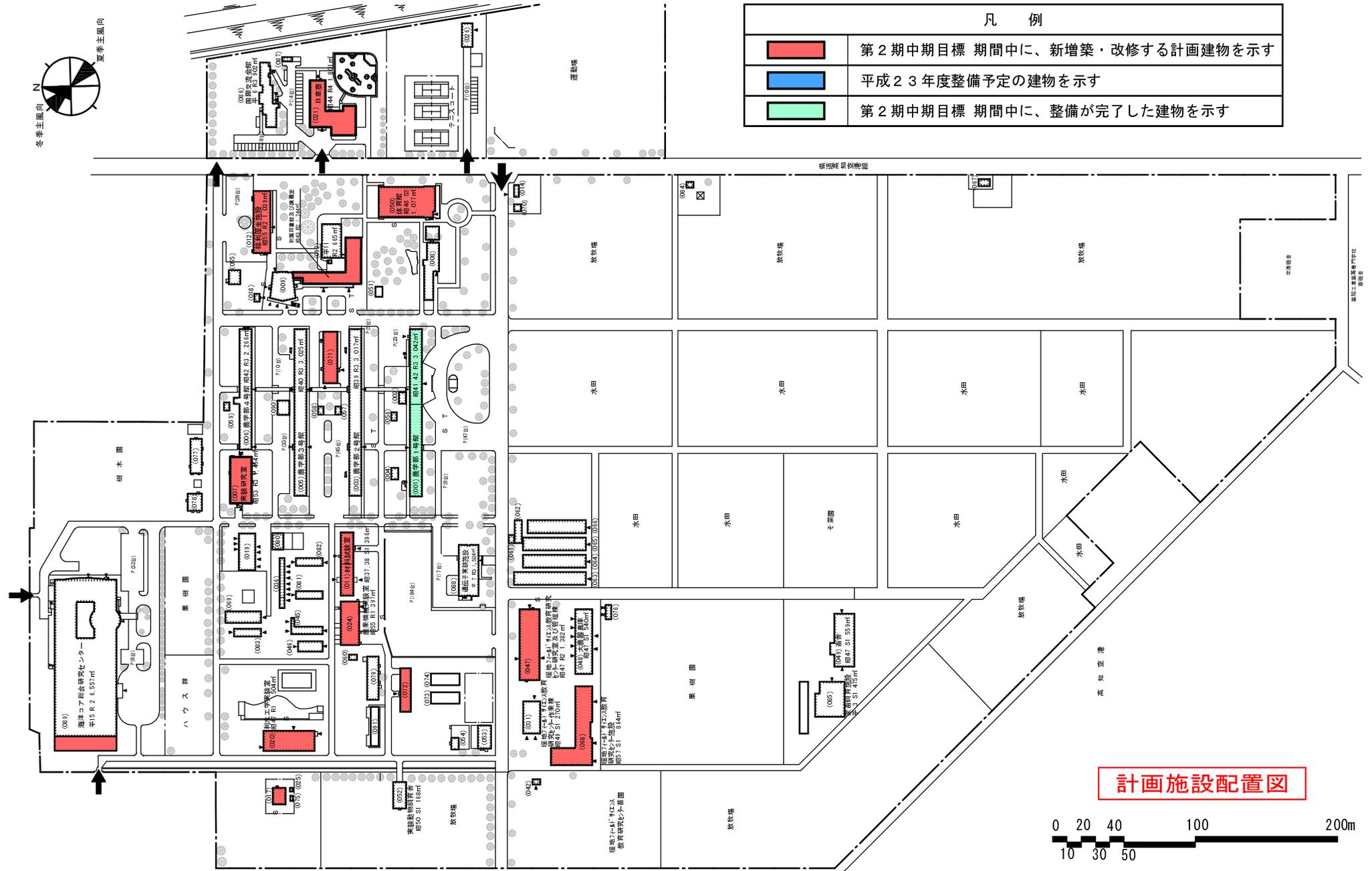
平成22年度末現在

凡例			平成22年度末現在		
区分	記号	内容	区分	記号	内容
昭和57年以降	[Green Box]	新耐震基準の建物 (現行の耐震基準に適合)	法対象建物	[Red Dashed Box]	未診断建物
				[Pink Box]	耐震診断済み建物 (耐震未改修)
				[Magenta Box]	耐震改修済み建物
				[Yellow Box]	耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要
				[Cyan Box]	耐震改修済み建物
			法対象外建物	[Blue Dashed Box]	診断・耐震改修をする予定がない小規模建物等
				[Blue Dotted Box]	未診断建物
				[Light Blue Box]	耐震診断済み建物 (耐震未改修)
				[Cyan Box]	耐震改修済み建物
				[Yellow Box]	耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要

キャンパスの計画ゾーニング図

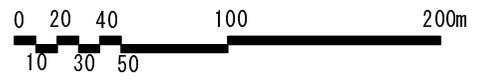


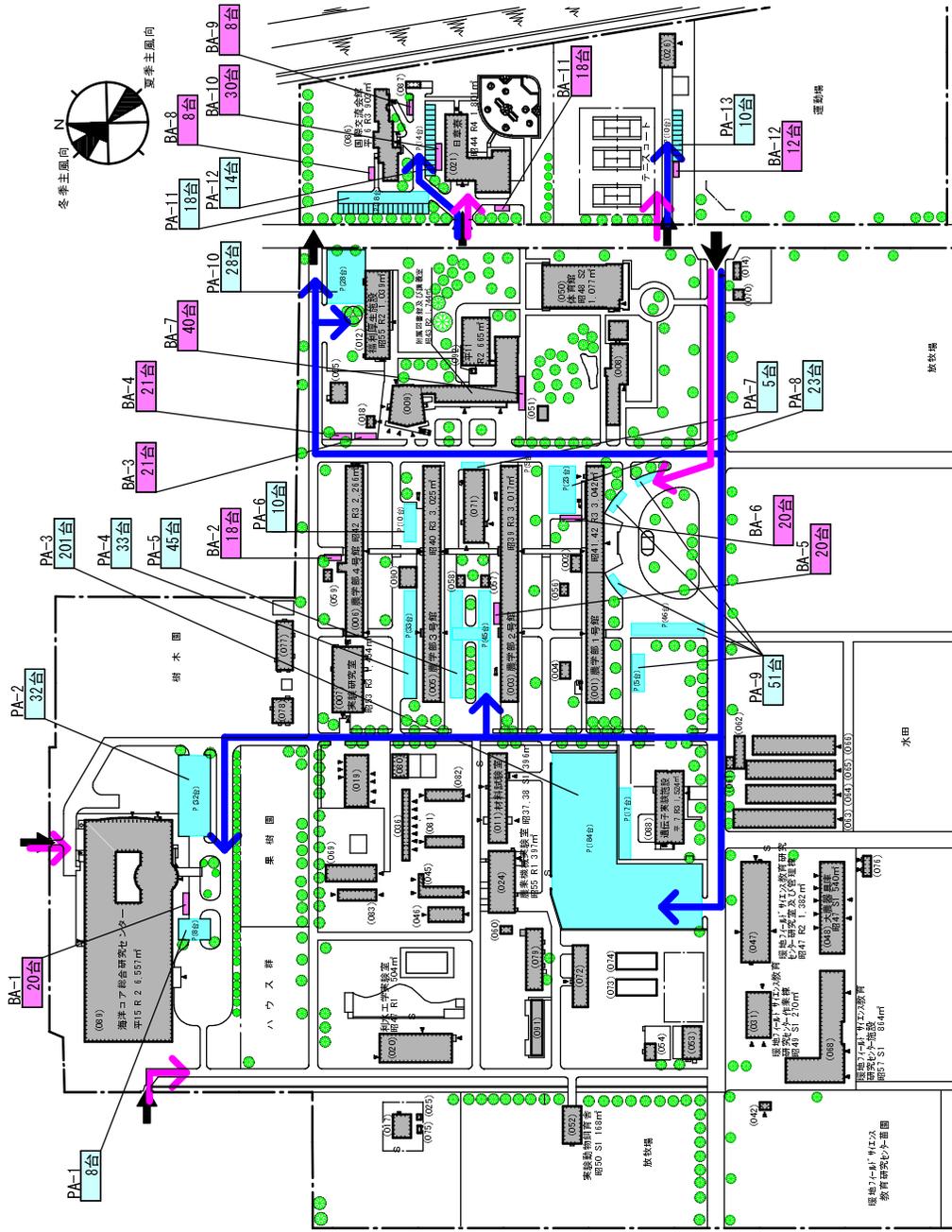
§ 2 キャンパス計画【物部団地】



凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を示す
	第2期中期目標 期間中に、整備が完了した建物を示す

計画施設配置図





凡例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線 (学内・サービス)

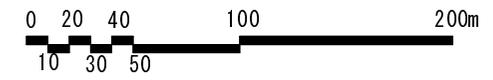
駐輪場台数

エリア	台数
教育研究	BA-1 20台
	BA-2 18台
	BA-3 21台
	BA-4 21台
	BA-5 20台
	BA-6 20台
	BA-7 40台
居住施設	PA-8 8台
	PA-9 8台
	PA-10 30台
	PA-11 18台
運動施設	PA-12 12台
合計	236台

駐車場台数

エリア	台数
教育研究	PA-1 8台
	PA-2 32台
	PA-3 201台
	PA-4 33台
	PA-5 45台
	PA-6 10台
	PA-7 5台
	PA-8 23台
	PA-9 51台
	PA-10 28台
居住施設	PA-11 18台
	PA-12 14台
運動施設	PA-13 10台
合計	478台

計画屋外環境図



保存緑地（耐弾式通信所遺跡）

耐弾式通信所跡（地上部分）



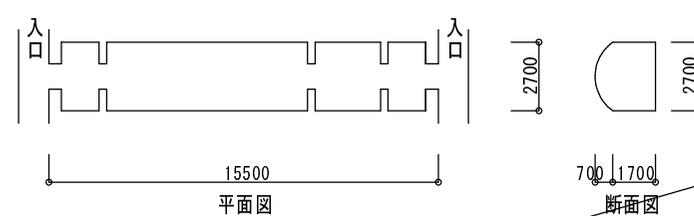
耐弾式通信所入り口



耐弾式通信所跡（地下部分）



耐弾式通信所地下平面略図



保存緑地（耐弾式通信所遺跡）

保存緑地（職員会館前）



保存緑地（農学部1号館前）



鳥害対策（実験研究棟）

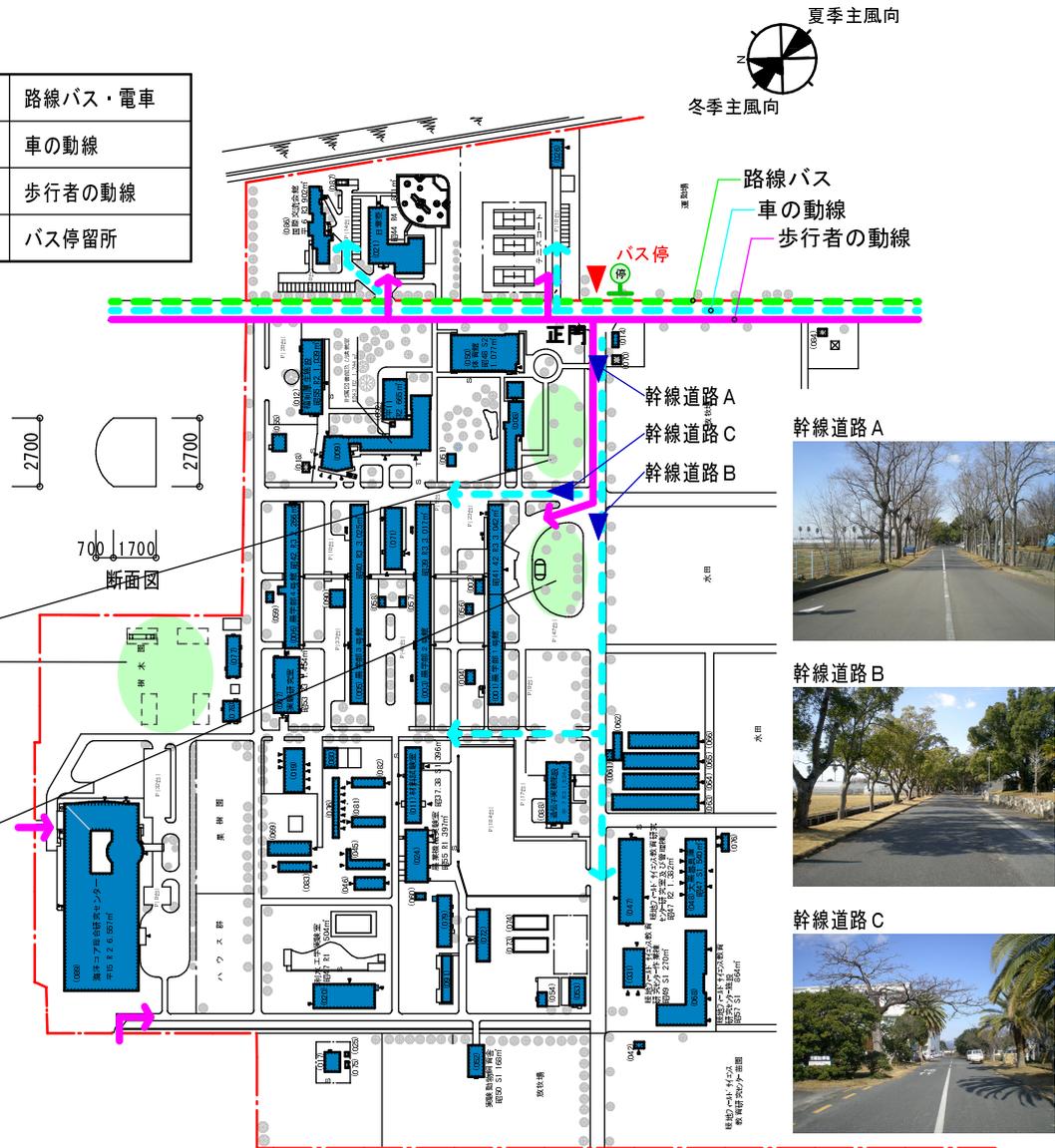


○鳥害対策（ハト）

緑豊かで田畑に囲まれた物部団地は建物や周囲に餌が豊富にあり、また団地周辺の山間部にはハトの天敵となる大型鳥類が飛来していることで、ハトの営巢の条件が揃っている。

そのため、現状は防鳥ネット、SUSピンを設置することで応急対応している。

	路線バス・電車
	車の動線
	歩行者の動線
	バス停留所



幹線道路 A



幹線道路 B



幹線道路 C



計画屋外環境図 2

エネルギー供給計画

設備計画

- 地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。
- 設備機器更新の際は、高効率型機器を導入し省エネルギーを図る。
- 自然エネルギーの利用を図る。

1. エネルギー供給（現状）

1) 電気設備

- ①引込み 埋設管路式で電気室に引き込み
- ②回線数 高圧（6.6KV）1回線
- ③変電設備容量 高圧変電設備（3340KVA）
- ④デマンド電力 702KW
- ⑤契約種別 高圧B季節別時間帯別電力Ⅱ型（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 個別方式（空冷ヒートポンプ形エアコン（電気）方式）
- 2. 供給設備
 - ①水源 井水 使用量500t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
 - ②給水方式 高架水槽（一部加圧ポンプ方式）
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 合併処理槽
 - ②雨水排水 用水路へ放流
 - ③実験排水 検水槽を経て用水路へ放流
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 LPガス

2. 情報通信設備（現状）

1) 電話設備

デジタル電子交換機

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

1. エネルギー供給（計画）

1) 電気設備

- ①引込み 埋設管路式で電気室に引き込み
- ②回線数 高圧（6.6KV）1回線
- ③変電設備容量 高圧変電設備（3340KVA）
- ④デマンド電力 800KW
- ⑤契約種別 高圧B季節別時間帯別電力Ⅱ型（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 個別方式（空冷ヒートポンプ形エアコン（電気）方式）
高効率形の空調機に更新し省エネを図る
- 2. 供給設備
 - ①水源 井水 使用量500t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
 - ②給水方式 加圧ポンプ方式
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 合併処理槽
 - ②雨水排水 用水路へ放流
 - ③実験排水 検水槽を経て用水路へ放流
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 LPガス

2. 情報通信設備（計画）

1) 電話設備

内線増を計画する

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）



高知大学キャンパスマスタープラン

—小津団地—

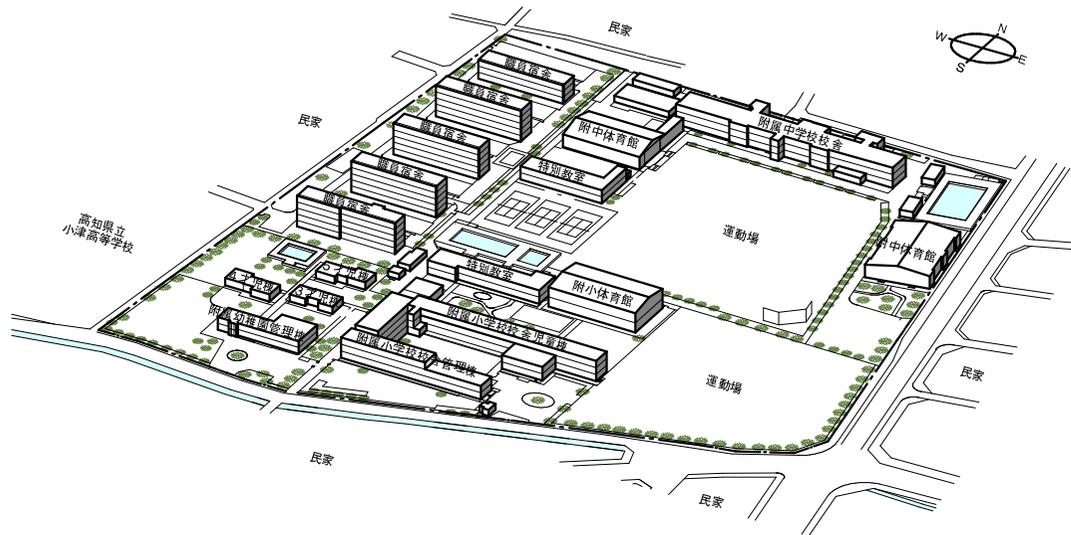
§ 1 キャンパスの現状【小津団地】

キャンパスの立地条件

キャンパスの立地状況

○団地周辺の状況

県庁所在地より北へ約1kmに位置しており、北側は住宅地であり、JR土讃線（窪川－高松）が走っている。
 南側は高知城が直近望まれる。東側は約1.5km程で高知駅及び繁華街に達する。
 西側は高等学校及び住宅地であり市内でも有数の閑静な住環境地域であり、国公各機関の建物も所在している。



小津団地 鳥瞰図

所在地

- 所在地：高知市小津10
- 学部等：附属中学校、附属小学校、附属幼稚園、職員宿舎

キャンパスの法的指定等

○法的規制

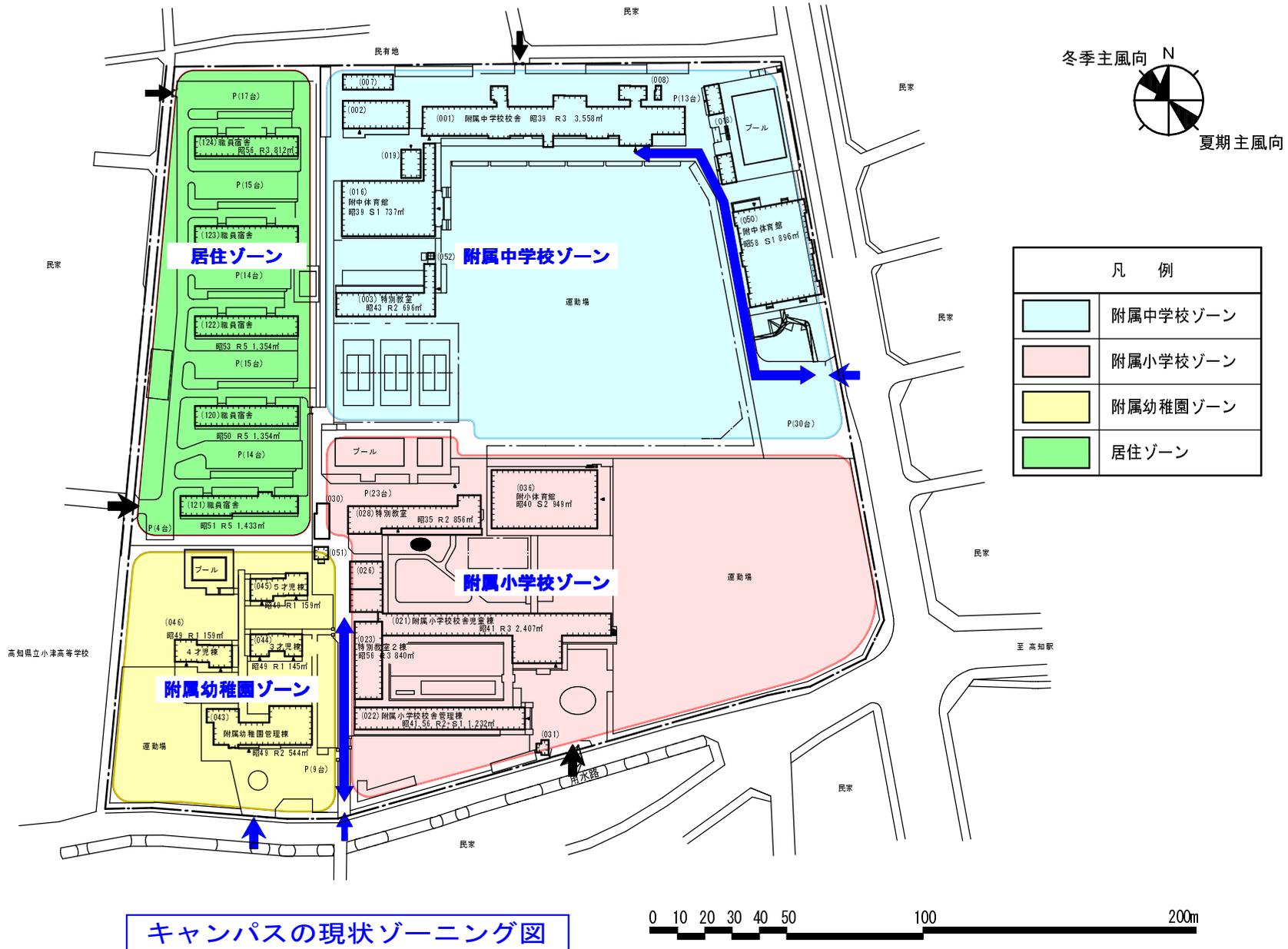
- ・耐力度調査上の地域区分
 - 地震地域係数 二種
 - 地盤種別 一種
 - 積雪寒冷地域 その他
 - 海岸からの距離 5km以内
- ・日影規制 4時間、2.5時間
- ・都市計画区域内 市街化区域
- ・用途地域 第1種中高層住居専用地域
第1種住居地域
- ・地域地区 ー
- ・都市計画施設 水道、下水道等供給施設又は処理施設
大気汚染、騒音、悪臭、水質汚濁
- ・公害防止地域

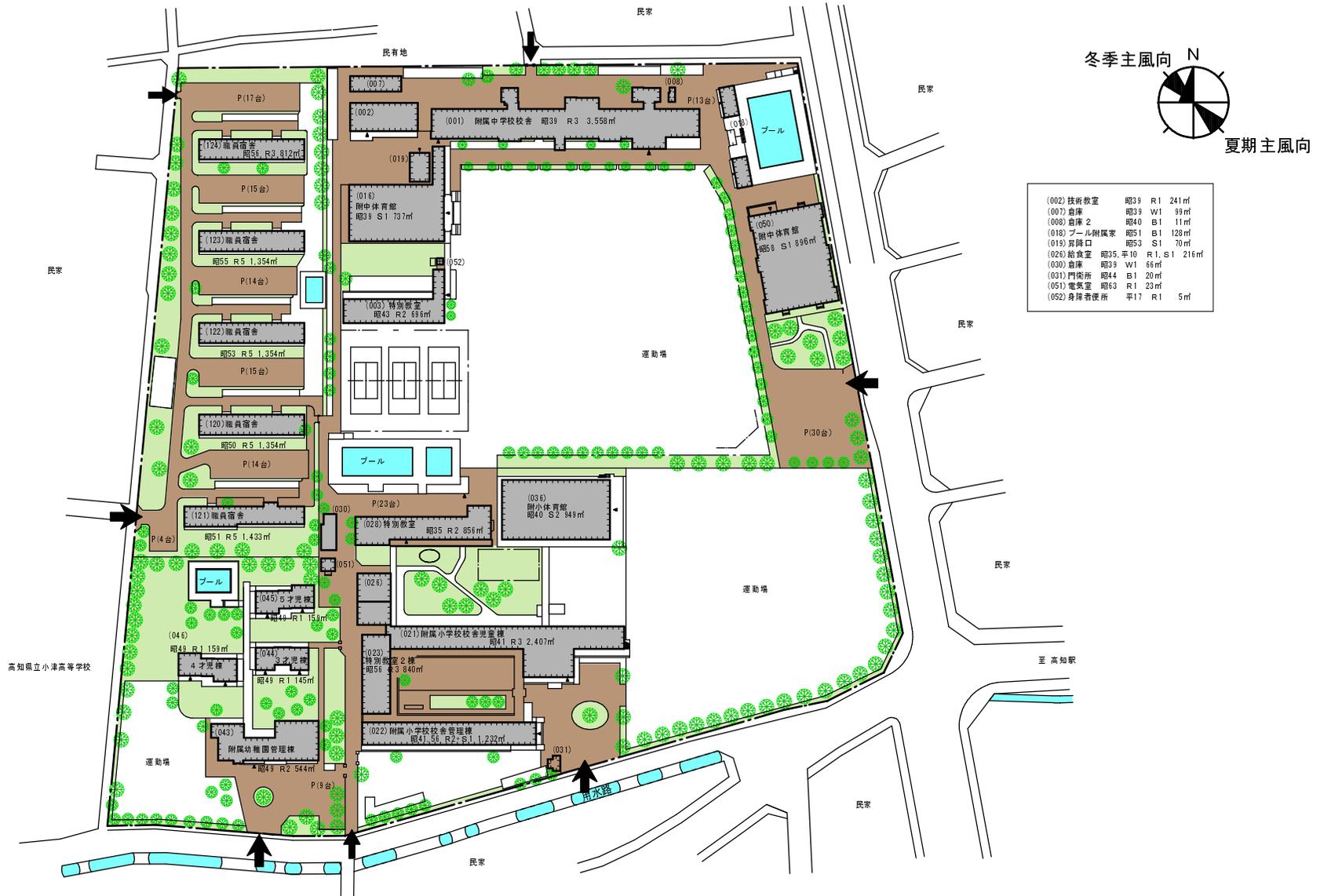
土地及び建物面積

○土地面積		65,833m ²
○建物面積	建築面積	9,267m ²
	構造別	R 17,751m ²
		S 2,973m ²
		W 165m ²
		B 139m ²
	延べ面積	21,028m ²

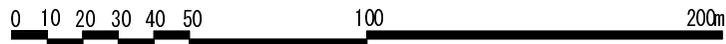
建ぺい率、容積率

○建ぺい率	14.0%	(60%)
○建物面積	32.0%	(200%)



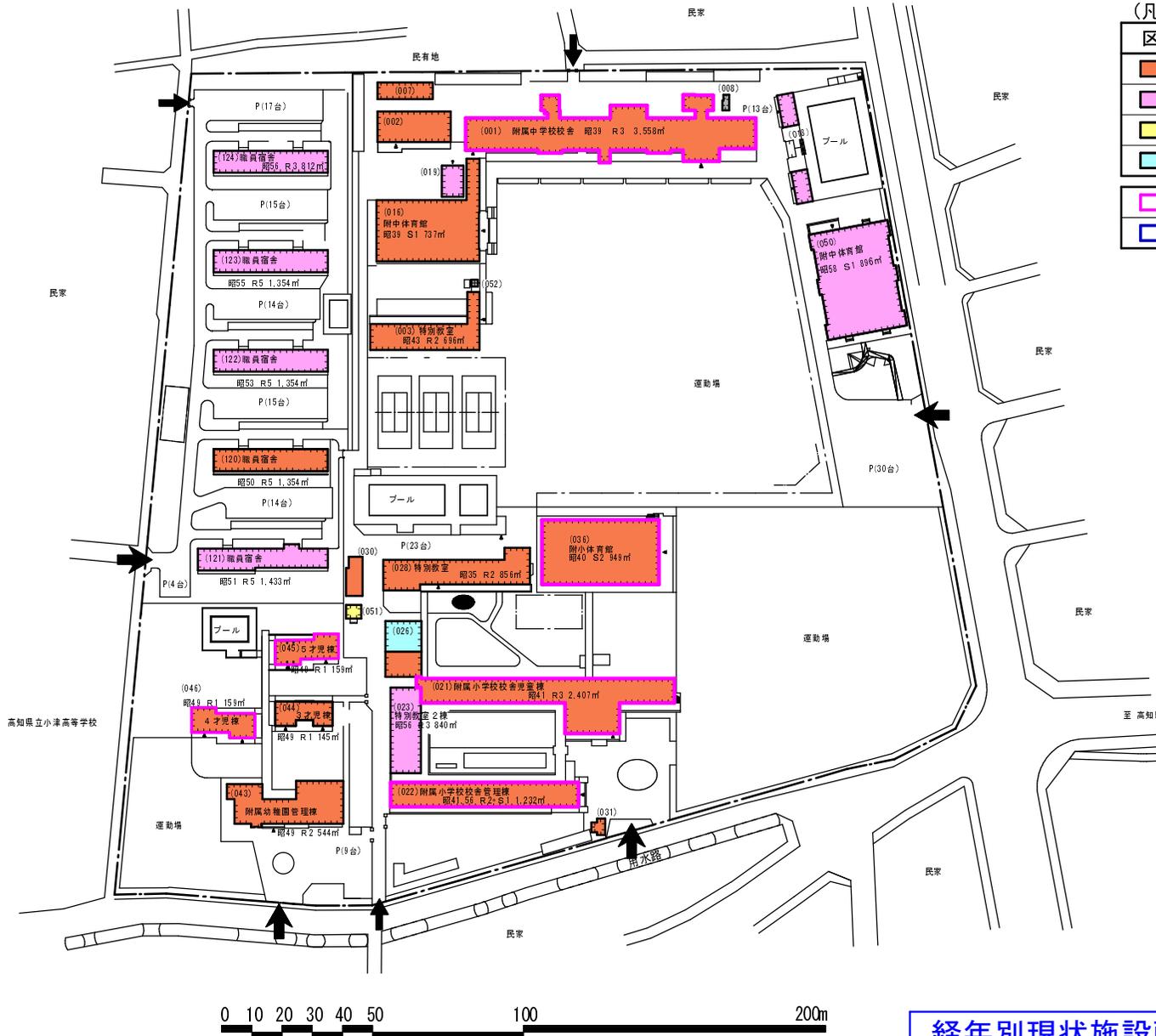


現状施設配置図



敷地面積	建築面積	延べ面積	建ぺい率	容積率
65,833㎡	9,267㎡	21,028㎡	14.0%	32.0%

§ 1 キャンパスの現状【小津団地】



(凡例) (平成22年5月)

区分	経過年数	建築年	延べ面積	割合(%)
	35年以上	昭和50年以前	13,027㎡	61.9%
	25~34年	昭和51年~60年	7,167㎡	34.1%
	15~24年	昭和61年~平成7年	23㎡	0.1%
	0~14年	平成8年以降	811㎡	3.9%
	機能・耐震改修を行った建物		8,102㎡	38.5%
	耐震改修のみ行った建物		0㎡	0.0%



経年別現状施設配置図

§ 1 キャンパスの現状【小津団地】



凡例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線 (学内・サービス)



駐輪場台数

エリア	台数		
附属幼稚園	BA-1	28台	内屋根 無し20台
附属小学校	BA-2	43台	
	BA-3	20台	
	BA-4	15台	
附属中学校	BA-5	80台	屋根無し
	BA-6	68台	
	BA-7	21台	
	BA-8	24台	
	BA-9	36台	
	BA-10	60台	
	BA-11	88台	
	BA-12	48台	
	BA-13	40台	
居住施設	BA-14	24台	
	BA-15	56台	
	BA-16	56台	
	BA-17	56台	
	BA-18	56台	
合計		819台	

駐車場台数

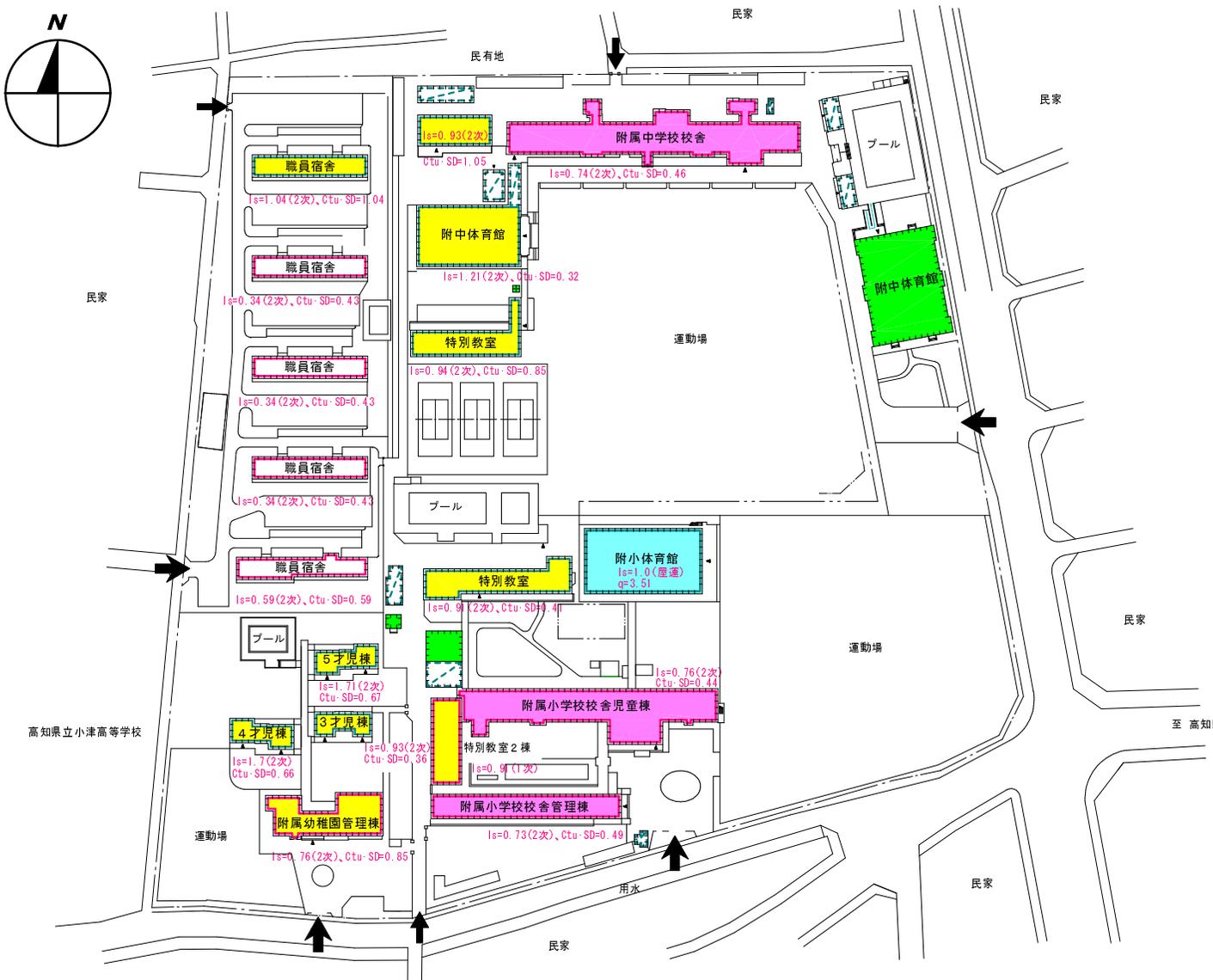
エリア	台数	
附属幼稚園	PA-1	9台
附属小学校	PA-2	13台
	PA-3	15台
附属中学校	PA-4	30台
	PA-5	6台
	PA-6	2台
居住施設	PA-7	14台
	PA-8	15台
	PA-9	19台
	PA-10	15台
	PA-11	14台
	PA-12	4台
合計		156台

現状屋外環境図

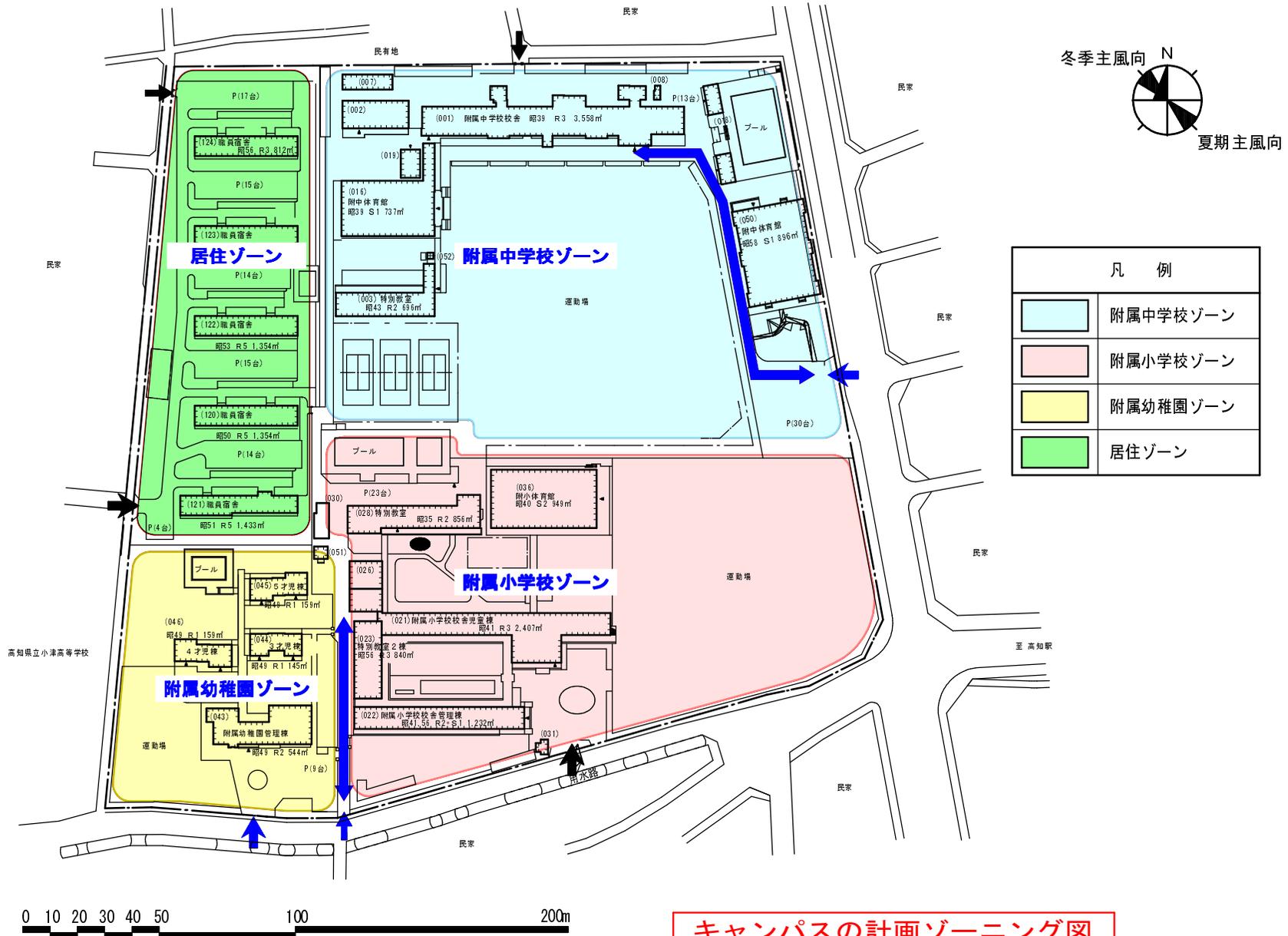
耐震化率 73.1%

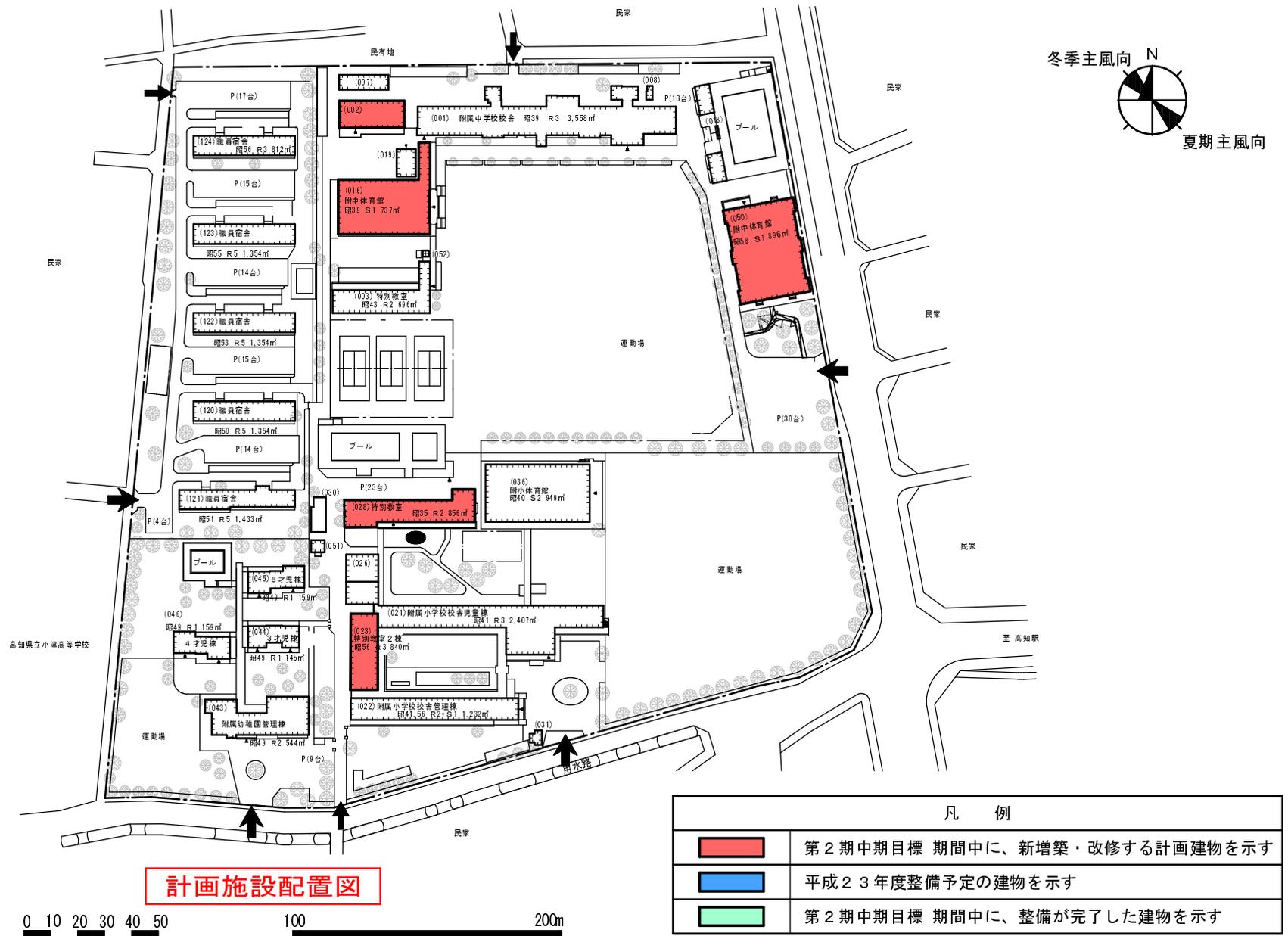
凡例 平成22年度末現在

区分	記号	内容
昭和57年以降		新耐震基準の建物 (現行の耐震基準に適合)
昭和56年以前		未診断建物
		耐震診断済み建物 (耐震未改修)
		耐震改修済み建物
		耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要
		診断・耐震改修をする予定がない小規模建物等
		未診断建物
法対象外建物		耐震診断済み建物 (耐震未改修)
		耐震改修済み建物
		耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要

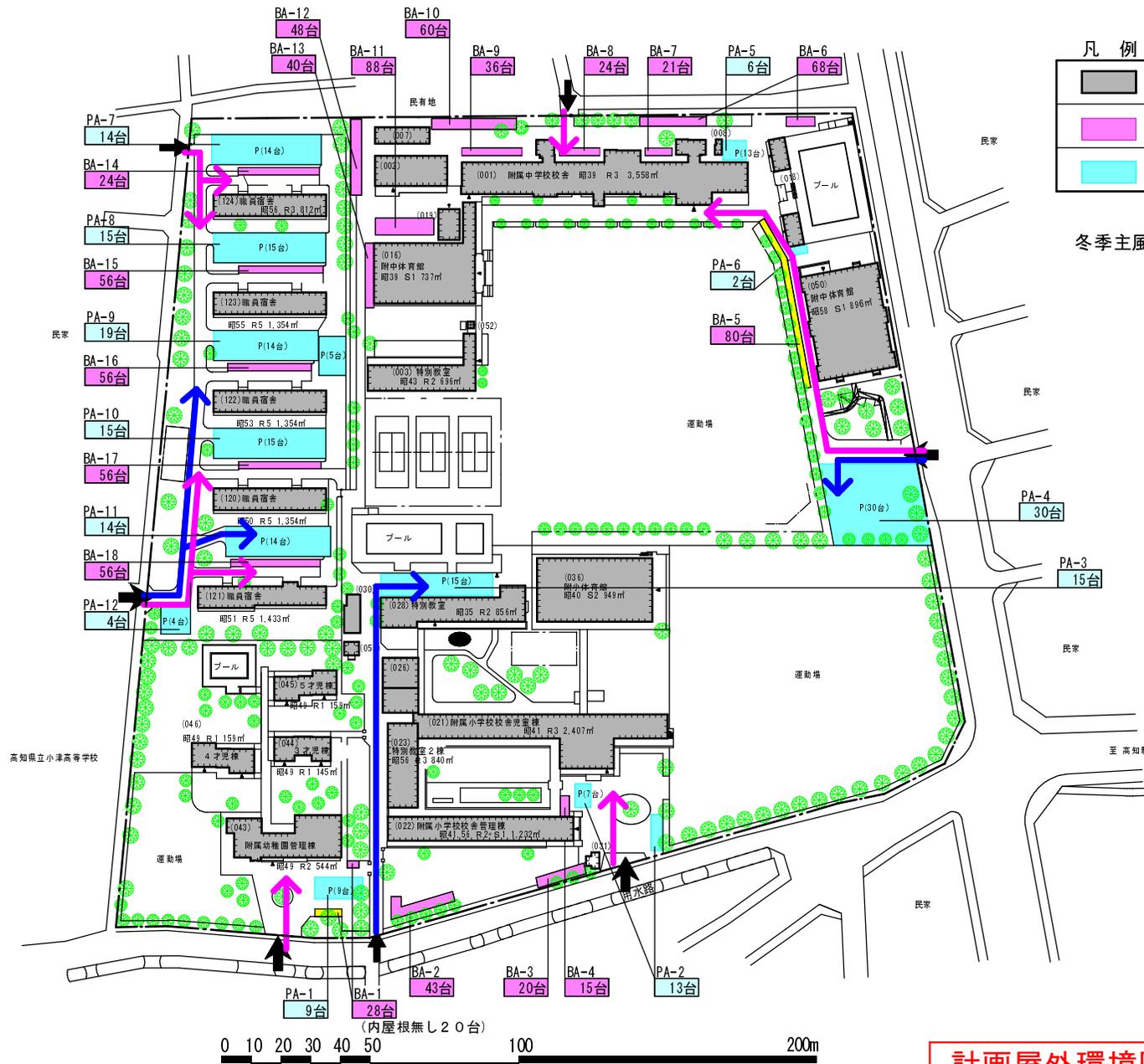


耐震化推進状況図





§ 2 キャンパス計画【小津団地】



凡例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線 (学内・サービス)



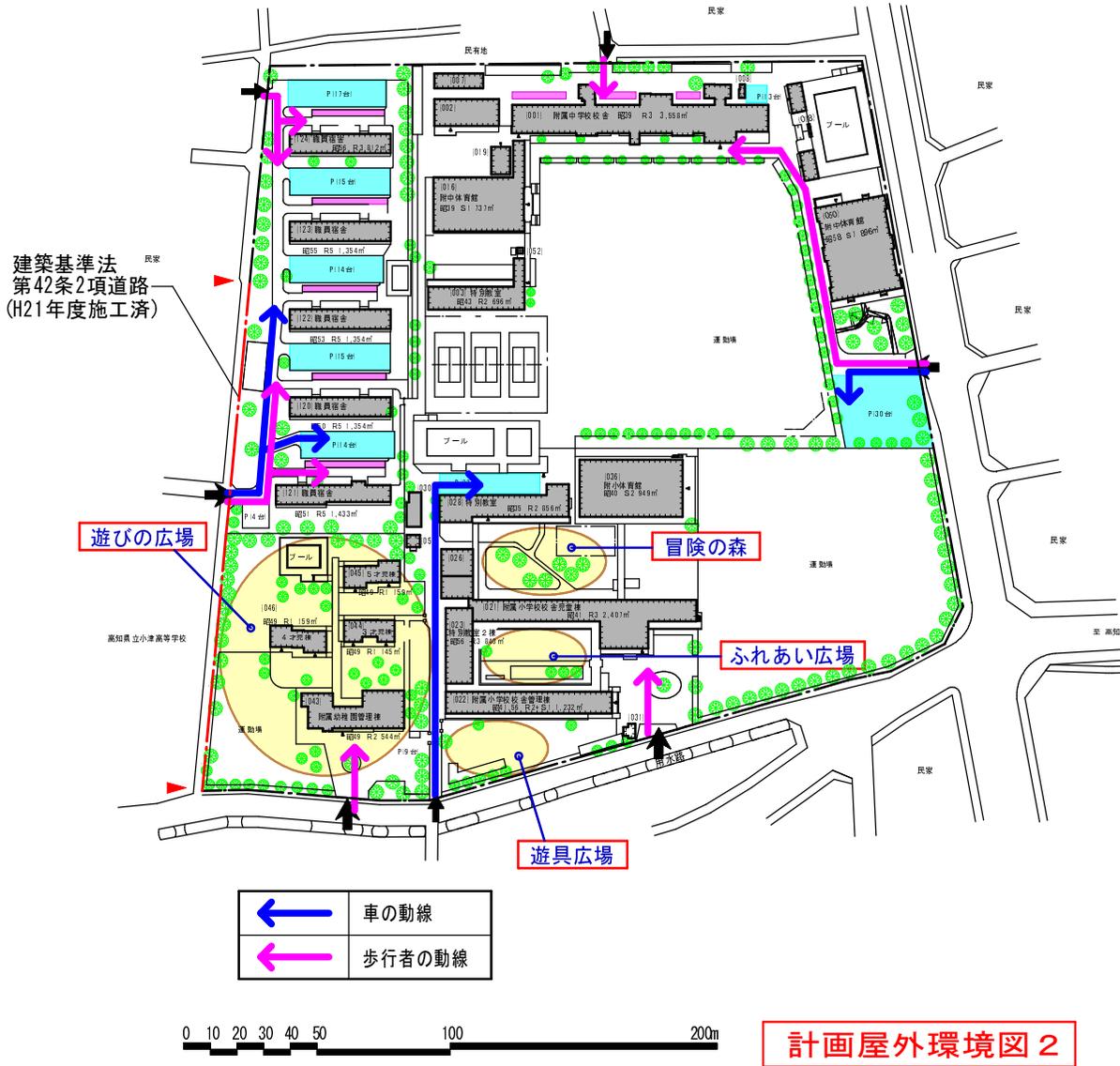
駐輪場台数

エリア	台数	内屋根 無し20台
附属幼稚園	BA-1 28台	内屋根 無し20台
附属小学校	BA-2 43台	
	BA-3 20台	
	BA-4 15台	
附属中学校	BA-5 80台	屋根無し
	BA-6 68台	
	BA-7 21台	
	BA-8 24台	
居住施設	BA-9 36台	居住施設
	BA-10 60台	
	BA-11 88台	
	BA-12 48台	
	BA-13 40台	
	BA-14 24台	
	BA-15 56台	
	BA-16 56台	
	BA-17 56台	
	BA-18 56台	
合計	819台	

駐車場台数

エリア	台数
附属幼稚園	PA-1 9台
附属小学校	PA-2 13台
	PA-3 15台
	PA-4 30台
附属中学校	PA-5 6台
	PA-6 2台
	PA-7 14台
	PA-8 15台
居住施設	PA-9 19台
	PA-10 15台
	PA-11 14台
	PA-12 4台
合計	156台

計画屋外環境図



附属中学校正門回り



附属小学校正門回り



附属幼稚園正門回り (歩行者用)



正門 (車両用)

遊びの広場



冒険の森



遊具広場



ふれあい広場



設備計画

- 地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。
- 設備機器更新の際は、高効率型機器を導入し省エネルギーを図る。
- 自然エネルギーの利用を図る。

エネルギー供給計画

1. エネルギー供給（現状）

1) 電気設備	
①引込み	埋設管路式で電気室に引き込み
②回線数	高圧（6.6KV）1回線
③変電設備容量	高圧変電設備（585KVA）
④デマンド電力	187KW
⑤契約種別	業務用電力
⑥構内配線（布設）方式	埋設管路式
2) 機械設備	
1. 空調設備	個別方式
①空調方式	（空冷ヒートポンプ形エアコン（ガス）方式）
2. 供給設備	
①水源	市水 使用量35t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
②給水方式	加圧ポンプ方式
3. 排水設備	
①生活排水	公共下水へ放流
②雨水排水	公共下水へ放流
③実験排水	公共下水へ放流（定期的に検水）
4. ガス設備	
①ガス種別	都市ガス

1. エネルギー供給（計画）

1) 電気設備	
①引込み	埋設管路式で電気室に引き込み
②回線数	高圧（6.6KV）1回線
③変電設備容量	高圧変電設備（660KVA）
④デマンド電力	187KW
⑤契約種別	業務用電力
⑥構内配線（布設）方式	埋設管路式
2) 機械設備	
1. 空調設備	個別方式
①空調方式	（空冷ヒートポンプ形エアコン（ガス）方式） 高効率形の空調機に更新し省エネを図る
2. 供給設備	
①水源	市水 使用量35t/日（使用先は飲用、実験用、散水用）
②給水方式	加圧ポンプ方式
3. 排水設備	
①生活排水	公共下水へ放流
②雨水排水	公共下水へ放流
③実験排水	公共下水へ放流（定期的に検水）
4. ガス設備	
①ガス種別	都市ガス

2. 情報通信設備（現状）

1) 電話設備	デジタル電子交換機
2) 情報設備	全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

2. 情報通信設備（計画）

1) 電話設備	内線増を計画する
2) 情報設備	全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

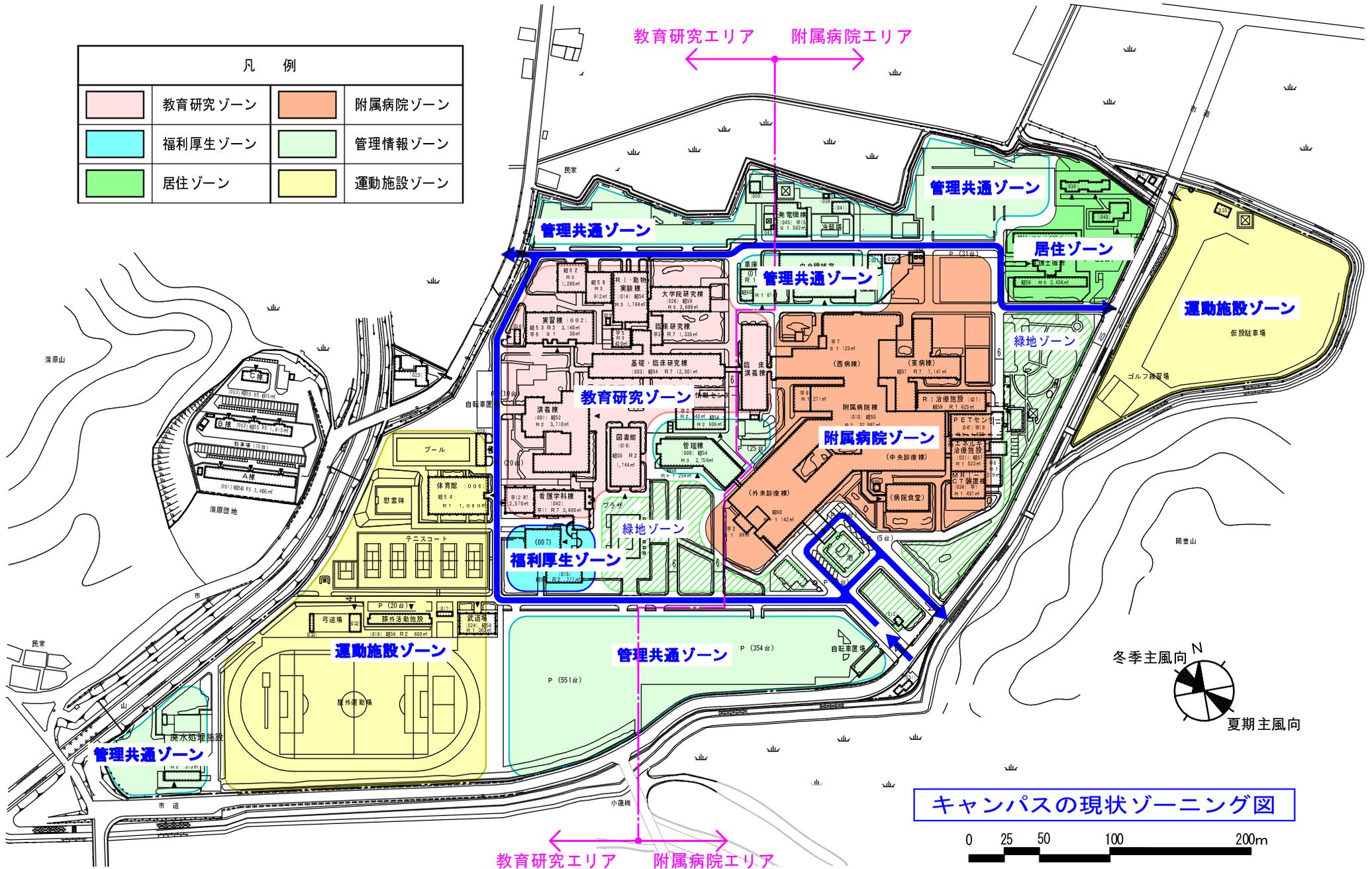


高知大学キャンパスマスタープラン

—岡豊団地—

§ 1 キャンパスの現状【岡豊団地】

凡 例			
	教育研究ゾーン		附属病院ゾーン
	福利厚生ゾーン		管理情報ゾーン
	居住ゾーン		運動施設ゾーン

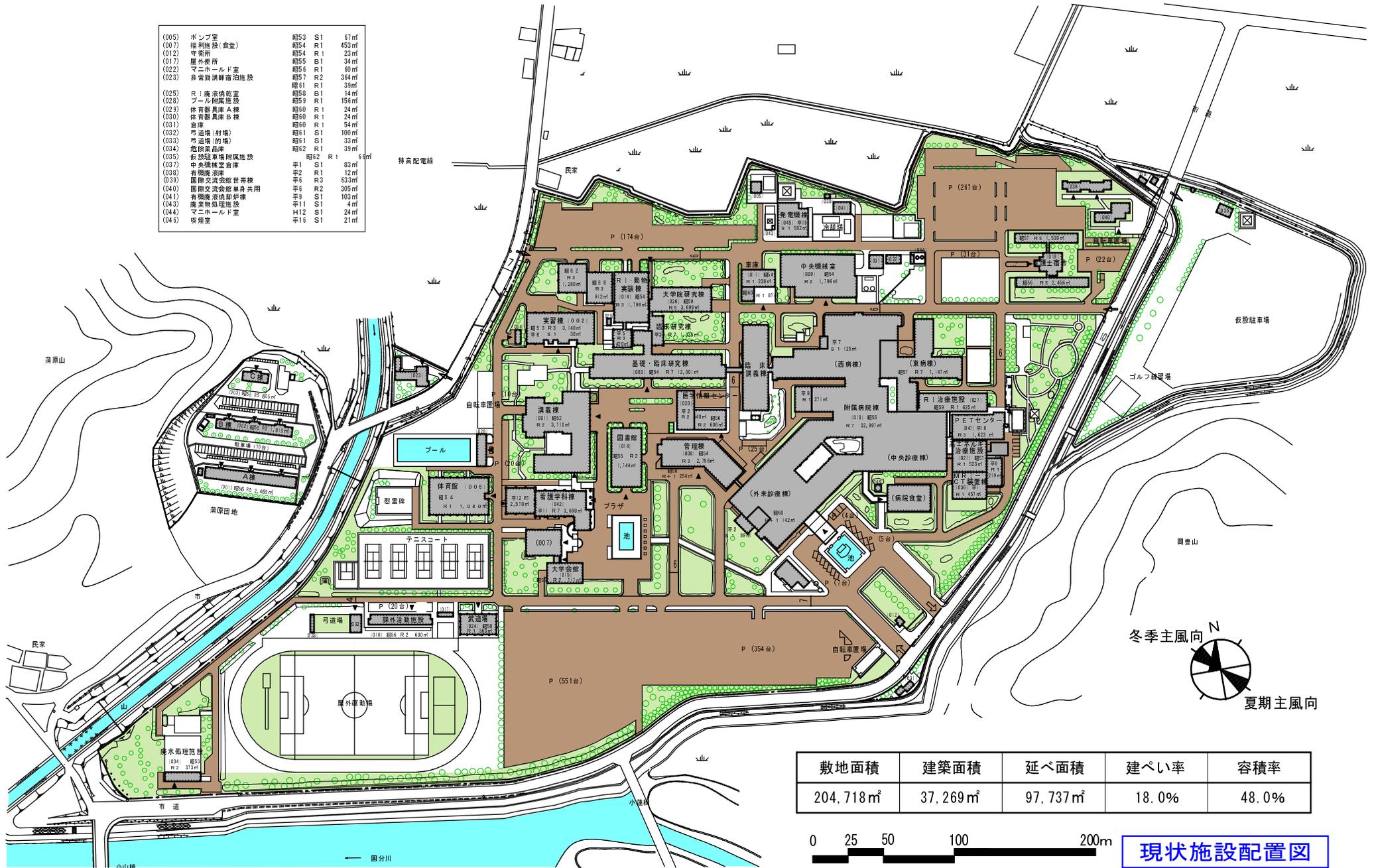


キャンパスの現状ゾーニング図



§ 1 キャンパスの現状【岡豊団地】

(005) ホンブ室	昭53 S1	67㎡
(007) 福利施設(食堂)	昭54 R1	453㎡
(012) 印刷所	昭54 R1	23㎡
(017) 屋外便所	昭55 B1	34㎡
(022) マニホール室	昭56 R1	80㎡
(023) 非常動静観測施設	昭57 R2	384㎡
	昭61 R1	39㎡
(025) R1 廊下焼乾室	昭58 B1	14㎡
(028) プール附属施設	昭59 R1	156㎡
(029) 体育館奥庫A棟	昭60 R1	24㎡
(030) 体育館奥庫B棟	昭60 R1	24㎡
(031) 倉庫	昭60 R1	54㎡
(032) 弓道場(射場)	昭61 S1	100㎡
(033) 弓道場(的場)	昭61 S1	33㎡
(034) 危険薬品庫	昭62 R1	38㎡
(035) 仮設駐車場附属施設	昭62 R1	66㎡
(037) 中央機械室倉庫	平1 S1	83㎡
(038) 倉庫	平2 R1	12㎡
(039) 有機薬液庫	平6 R3	633㎡
(040) 国際交流会館単身共用	平6 R2	305㎡
(041) 有機薬液焼却炉棟	平9 S1	103㎡
(043) 廃棄物処理施設	平11 S1	4㎡
(044) マニホール室	H12 S1	24㎡
(046) 喫煙室	平16 S1	21㎡



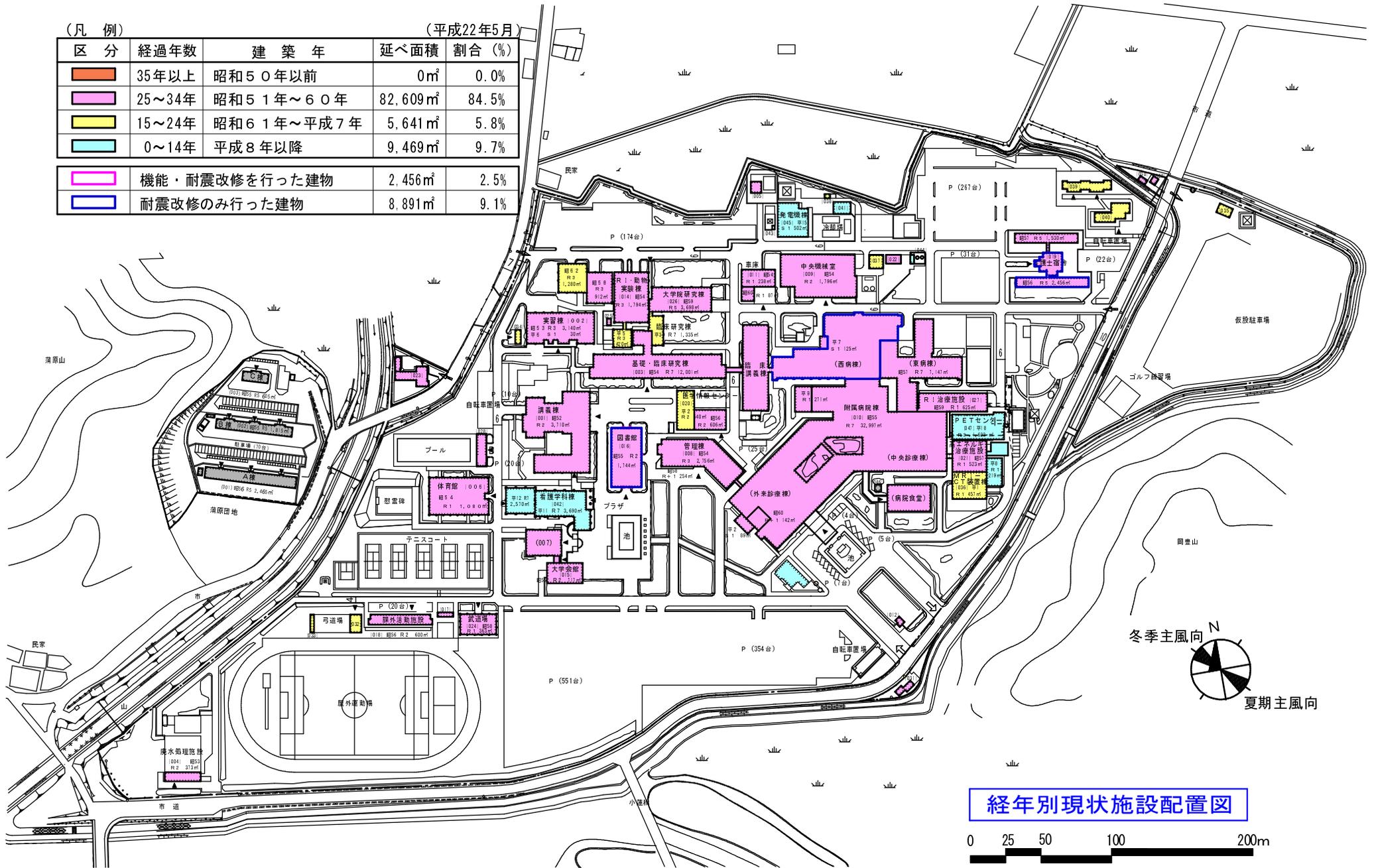
敷地面積	建築面積	延べ面積	建ぺい率	容積率
204,718㎡	37,269㎡	97,737㎡	18.0%	48.0%



現状施設配置図

§ 1 キャンパスの現状【岡豊団地】

(凡例)		(平成22年5月)		
区分	経過年数	建築年	延べ面積	割合 (%)
	35年以上	昭和50年以前	0m ²	0.0%
	25~34年	昭和51年~60年	82,609m ²	84.5%
	15~24年	昭和61年~平成7年	5,641m ²	5.8%
	0~14年	平成8年以降	9,469m ²	9.7%
	機能・耐震改修を行った建物		2,456m ²	2.5%
	耐震改修のみ行った建物		8,891m ²	9.1%



経年別現状施設配置図



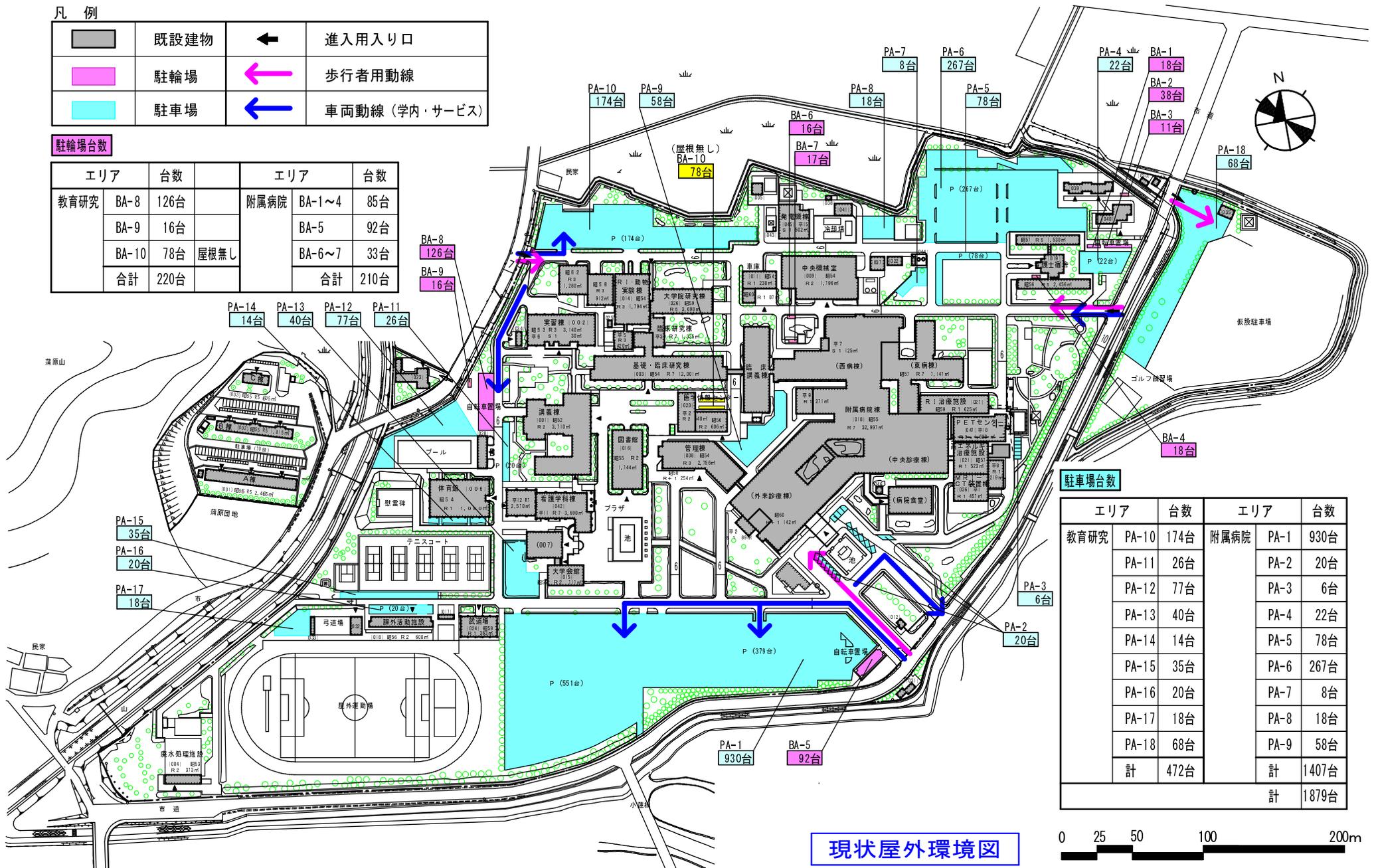
§ 1 キャンパスの現状【岡豊団地】

凡 例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線(学内・サービス)

駐輪場台数

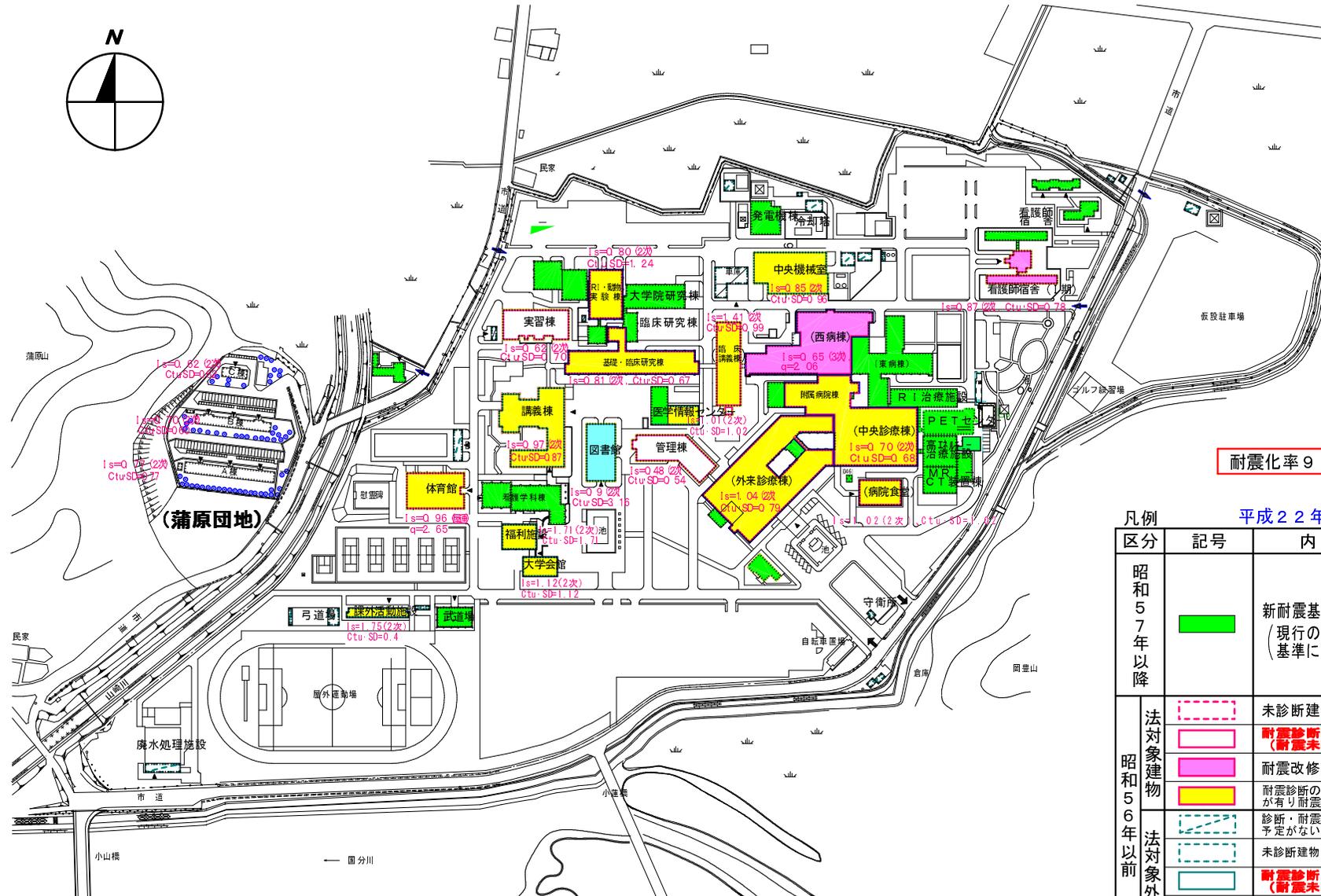
エリア	台数	エリア	台数			
教育研究	BA-8	126台	附属病院	BA-1~4	85台	
	BA-9	16台		BA-5	92台	
	BA-10	78台		屋根無し	BA-6~7	33台
	合計	220台		合計	210台	



駐車場台数

エリア	台数	エリア	台数		
教育研究	PA-10	174台	附属病院	PA-1	930台
	PA-11	26台		PA-2	20台
	PA-12	77台		PA-3	6台
	PA-13	40台		PA-4	22台
	PA-14	14台		PA-5	78台
	PA-15	35台		PA-6	267台
	PA-16	20台		PA-7	8台
	PA-17	18台		PA-8	18台
	PA-18	68台		PA-9	58台
	計	472台		計	1407台
		計	1879台		

現状屋外環境図

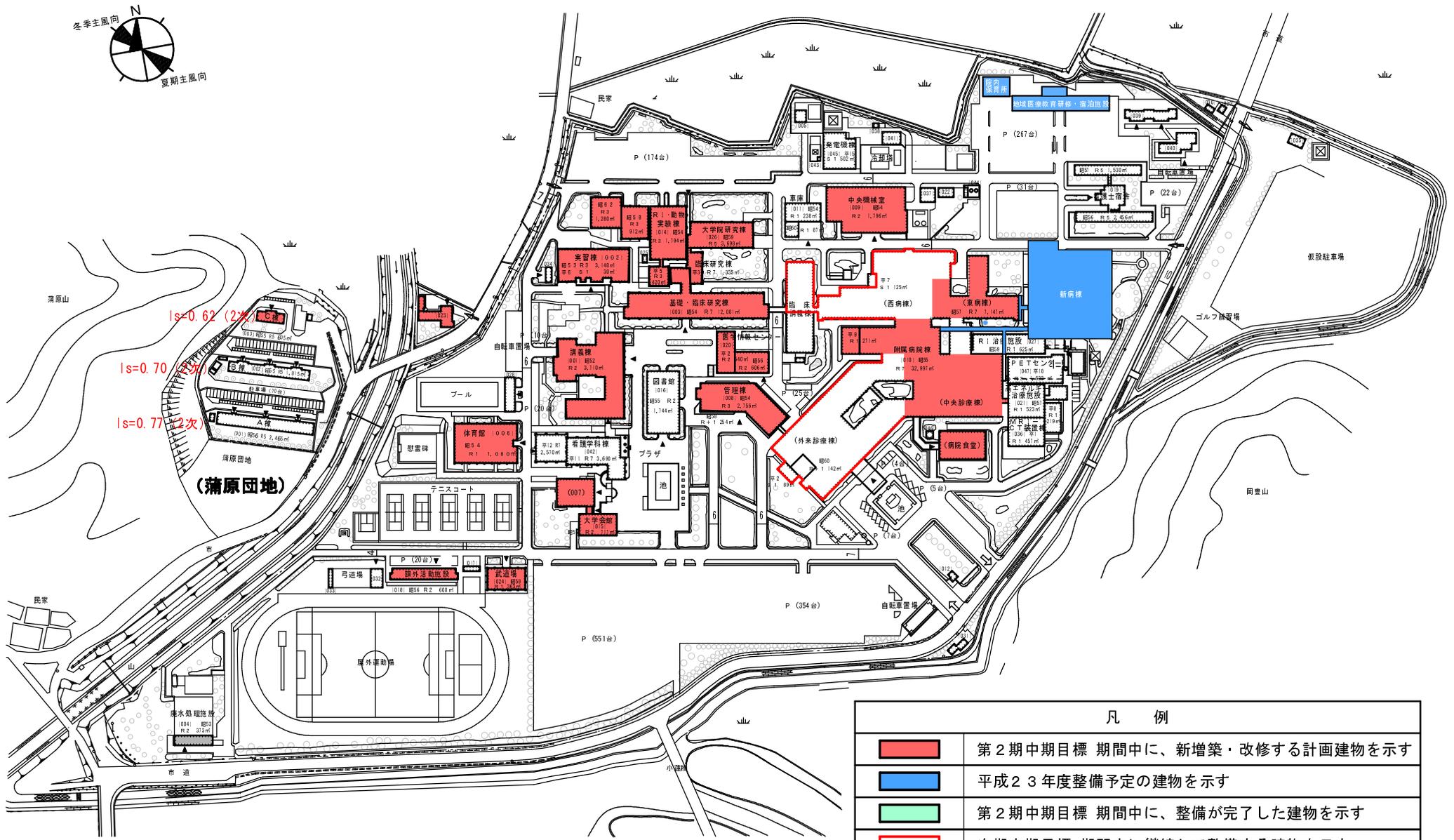


耐震化率 93.9%

凡例 平成22年度末現在

区分	記号	内容
昭和57年以降		新耐震基準の建物 (現行の耐震基準に適合)
		未診断建物
昭和对象建物		耐震診断済み建物 (耐震未改修)
		耐震改修済み建物
		耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要
		診断・耐震改修を予定がない小規模建物等
		未診断建物
		耐震診断済み建物 (耐震未改修)
昭和对象外建物		耐震改修済み建物
		耐震診断の結果耐震性が有り耐震改修不要

耐震化推進状況図



冬季主風向
夏季主風向

Is=0.62 (2次)
Is=0.70 (1次)
Is=0.77 (2次)

凡例	
	第2期中期目標 期間中に、新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を示す
	第2期中期目標 期間中に、整備が完了した建物を示す
	次期中期目標 期間中に継続して整備する建物を示す

計画施設配置図



年次計画

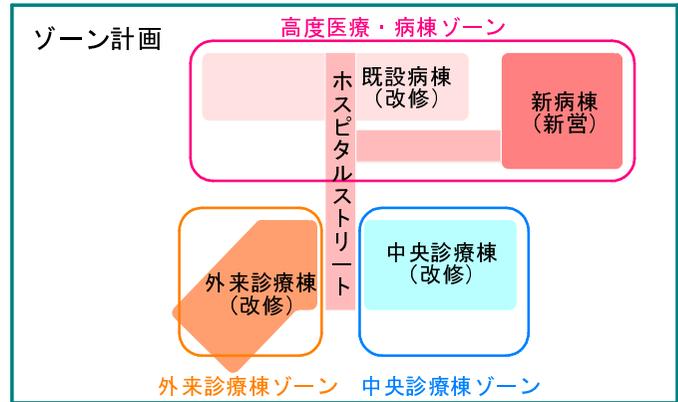
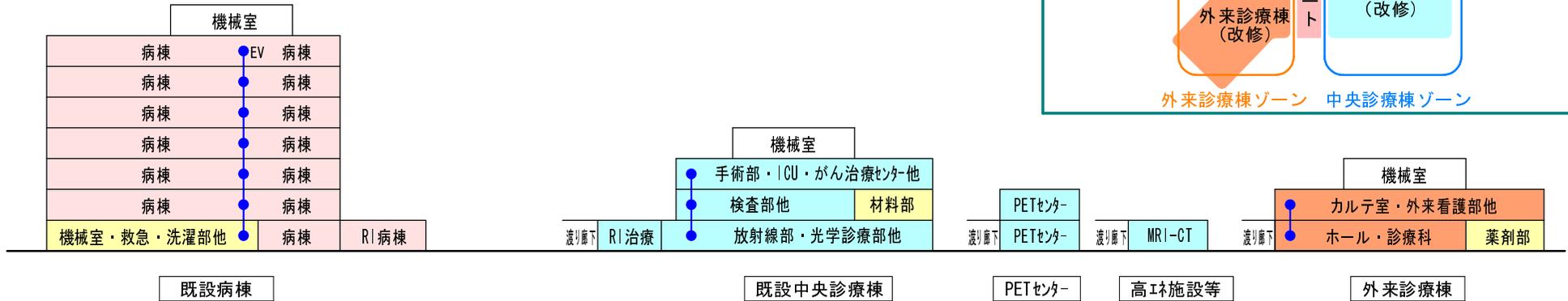
	建 物 名	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
第1ステージ	新病棟増築	[[基本設計]]	実施設計								
第2ステージ	既設東病棟改修										
	既設中央診療棟改修										
	既設食堂改修										
第3ステージ	既設西病棟改修										
第4ステージ	既設外来診療棟改修										
	既設臨床講堂改修										

整備手順図	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
	平成23～26年	平成27～29年		平成30～31年
	<p>R I 治療施設 I 期病棟</p>	<p>東病棟 食堂 中央診療棟</p>	<p>西病棟 既存リハビリ棟</p>	<p>臨床講堂 外来診療棟</p>
I 期病棟工事 既存病棟接続部 E V 工事 R I 治療施設撤去 渡り廊下工事	東病棟改修 中央診療棟改修 食堂棟改修	西病棟改修 リハビリ棟改修	外来診療棟改修 臨床講堂改修	

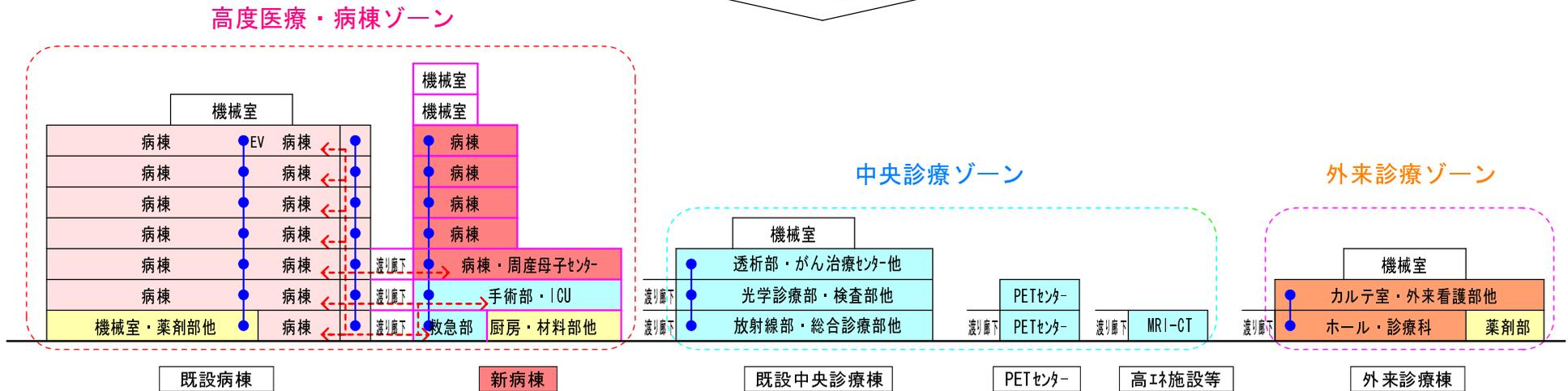
撤去建物
 新営工事・改修工事中建物
 新営整備完了建物
 改修整備完了建物

計画施設配置図

既設断面構成



計画断面構成



- 病棟改修：2看護単位を1看護単位に改修
- 病室改修：個室の増床整備、分散WCの病室

- 手術部・ICUの隣接整備
- 周産母子センターの拡充整備
- 救急部の移転拡充整備
- 材料部の移転拡充整備

- 透析部の拡充整備
- がん治療センター等の拡充整備

- 外来診療棟の拡充整備

計画施設断面図

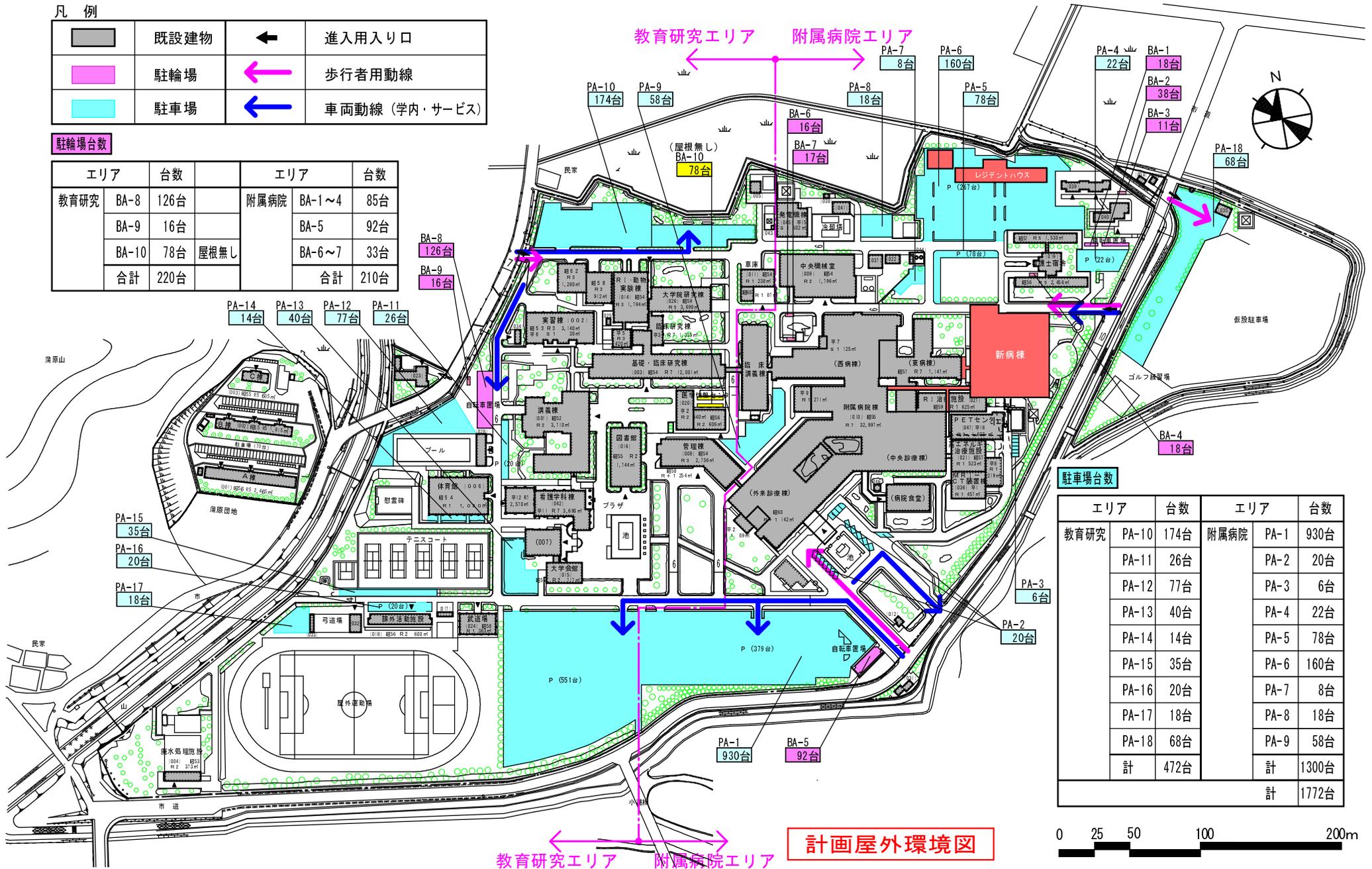
§ 1 キャンパスの現状【岡豊団地】

凡 例

	既設建物		進入用入り口
	駐輪場		歩行者用動線
	駐車場		車両動線 (学内・サービス)

駐輪場台数

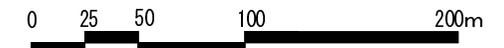
エリア	台数	エリア	台数
教育研究	BA-8 126台	附属病院	BA-1~4 85台
	BA-9 16台		BA-5 92台
	BA-10 78台 屋根無し		BA-6~7 33台
	合計 220台		合計 210台



駐車場台数

エリア	台数	エリア	台数
教育研究	PA-10 174台	附属病院	PA-1 930台
	PA-11 26台		PA-2 20台
	PA-12 77台		PA-3 6台
	PA-13 40台		PA-4 22台
	PA-14 14台		PA-5 78台
	PA-15 35台		PA-6 160台
	PA-16 20台		PA-7 8台
	PA-17 18台		PA-8 18台
	PA-18 68台		PA-9 58台
	計 472台		計 1300台
	計 1772台		

計画屋外環境図



エネルギー供給計画

設備計画

- 地球温暖化防止のためCO₂等の温室効果ガス排出量の抑制を図った環境に優しい計画とする。
- 設備機器更新の際は、高効率型機器を導入し省エネルギーを図る。
- 自然エネルギーの利用を図る。

1. エネルギー供給（現状）

1) 電気設備

- ①引込み 架線式で電気室に引き込み
- ②回線数 特高（66KV）2回線
- ③変電設備容量 特高変電設備（3000KVA×2）
- ④デマンド電力 3710KW
- ⑤契約種別 本線・予備線 業務用電力（特別高圧電力A）
高負荷率型電力（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式 地下ピット配線

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 [学部] 個別空調（空冷ヒートポンプ形エアコン（電気）方式）
[病院] 中央方式
- 2. 供給設備
 - ①水源 市水 使用量600t/日（使用先は飲用）
井水 使用量230t/日（使用先は雑用水）
 - ②給水方式 高置水槽方式
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 生活排水処理施設
 - ②雨水排水 国分川へ放流
 - ③実験排水 実験排水処理施設
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 LPガス

2. 情報通信設備（現状）

1) 電話設備

デジタル電子交換機

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

1. エネルギー供給（計画）

1) 電気設備

- ①引込み 埋設管路式で電気室に引き込み
- ②回線数 特高（66KV）2回線
- ③変電設備容量 特高変電設備（7500KVA×2）
- ④デマンド電力 5000KW
- ⑤契約種別 本線・予備線 業務用電力（特別高圧電力A）
高負荷率型電力（蓄熱調整）
- ⑥構内配線（布設）方式 埋設管路式 地下ピット配線

2) 機械設備

- 1. 空調設備
 - ①空調方式 [学部] 個別空調（空冷ヒートポンプ形エアコン（電気）方式）
[病院] 中央方式
高効率形の空調機に更新し省エネを図る
- 2. 供給設備
 - ①水源 市水 使用量600t/日（使用先は飲用）
井水 使用量250t/日（使用先は雑用水）
 - ②給水方式 高置水槽方式
- 3. 排水設備
 - ①生活排水 生活排水処理施設
 - ②雨水排水 国分川へ放流
 - ③実験排水 実験排水処理施設
- 4. ガス設備
 - ①ガス種別 LPガス

2. 情報通信設備（計画）

1) 電話設備

内線増を計画する

2) 情報設備

全学学内LAN（ギガビットネットワーク）

設備計画

電気設備
機械設備

設備計画(年次計画表)

(参考金額千円)

設備区分	場所区分	事項名	適用	設置年	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	
電気	医学部	医学情報センターUPS・空調機増設、ハロンガス消火設備更新	UPS30KVA	ハロンS59											
		セキュリティシステム構築	基礎・臨床研究棟 大学院研究棟	S54、59											
		附属図書館塔時計更新	4面イルミネーション	S55											
		医学部受変電設備改修	閉鎖式キュービクル	S52~62					講義棟	廃水処理	基礎臨床	大学院	動物実験		
	附属病院	特別受変電設備更新	7,500KVA×2	S56											
		附属病院再開発計画関係 基幹環境整備		S55,59											
		自家発電設備更新	2,500KVA	S54、59											
	共通	カーゲート設備取設	正門、東門、西門												
		外灯設備更新	42基	S52~55											
	機械	医学部	医学部エレベーター更新	基礎・臨床、大学院、 動物(Ⅲ期)、図書館	S54~62										
動物実験棟空調機更新			(総合研究センター動物Ⅲ期)	S62											
給水配管設備更新			講義棟、実習棟、基礎・臨床他	S52~62											
臨床研究棟空調機更新			(総合研究センター機器施設)	H3											
総合研究センター RI排水処理施設更新			RI貯留槽 埋設→6面点検	S54											
蒸気配管設備更新			基礎・臨床、大学院、 動物実験	S54~58											
基礎・臨床研究棟空調機更新			個別パッケージエアコン	H11											
動物RI施設換気ファン更新			給排気ファン	S54											
消火管更新			屋外埋設 共同構内	S54~58											
附属病院		廃水処理施設改修	流入調整槽・曝気槽 増設他	S53											
		中央機械室 マルチ式空冷ヒートポンプユニット増設	3ユニット												
		附属病院再開発計画関係 基幹環境整備		S55,59											
共通		ガス管更新	屋外埋設	S54~58											
		井水浄化設備新設	受託者供給業務の導入												



高知大学キャンパスマスタープラン

—その他の団地—

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画【田島団地】

キャンパスの立地条件

キャンパスの立地状況

- 団地の周辺の状況
朝倉団地（本部）より北へ1kmのところに位置している。
南側は、JR土讃線（窪川－高松）が走っている。
北側は、田畑、住宅に囲まれており、土佐電鉄（市電）及びバス停も近く交通が至便である。

所在地

- 所在地：高知市朝倉丙252
- 学部等：学生寄宿舍（南溟寮）

キャンパスの法的指定等

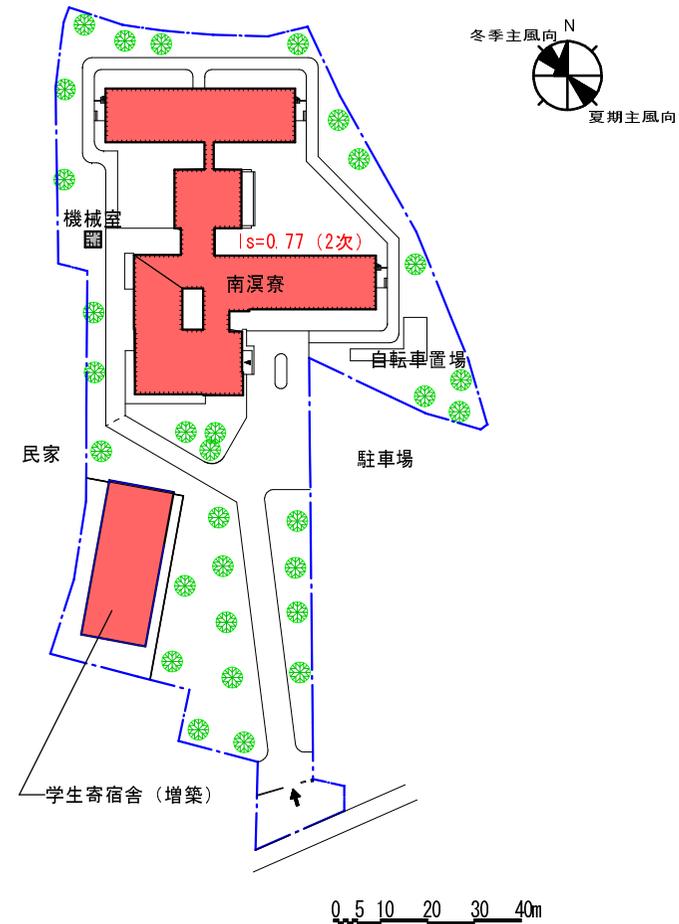
- 法的規制
 - ・耐力度調査上の地域区分
 - 地震地域係数 二種
 - 地盤種別 一種
 - 積雪寒冷地域 その他
 - 海岸からの距離 8km以内
 - ・日影規制 4時間、2. 5時間
 - ・都市計画区域内 市街化区域
 - ・用途地域 第1種中高層住居専用地域
 - ・地域地区 ー
 - ・公害防止地域 大気汚染、騒音

土地及び建物面積

○土地面積		8,943㎡
○建物面積	建築面積	1,662㎡
	構造別 R	3,662㎡
	延べ面積	3,662㎡

建ぺい率、容積率

○建ぺい率	19.0%	(60%)
○建物面積	41.0%	(200%)



現状・計画施設配置図

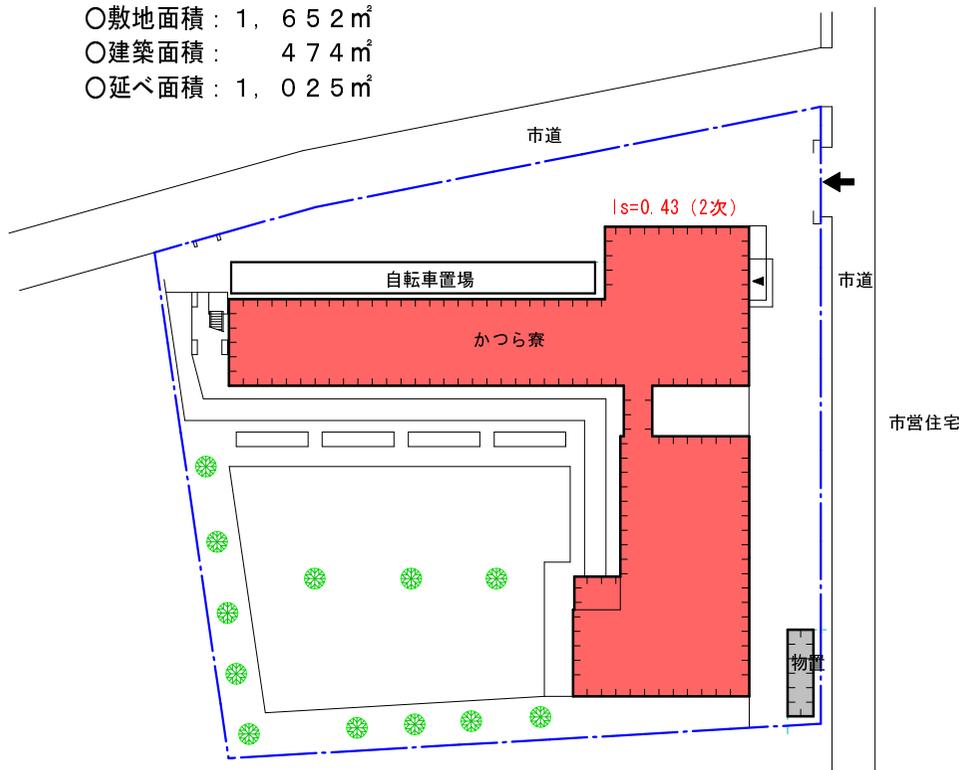
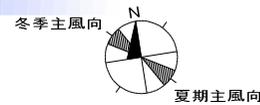
凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を示す
	第2期中期目標 期間中に、整備が完了した建物を示す

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画【道添団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：高知市曙町一丁目16-1
- 学部等名：女子寄宿舎（かつら寮）
- 用途地域：第1種中高層住居専用地域
- 敷地面積：1,652㎡
- 建築面積：474㎡
- 延べ面積：1,025㎡



現状・計画施設配置図

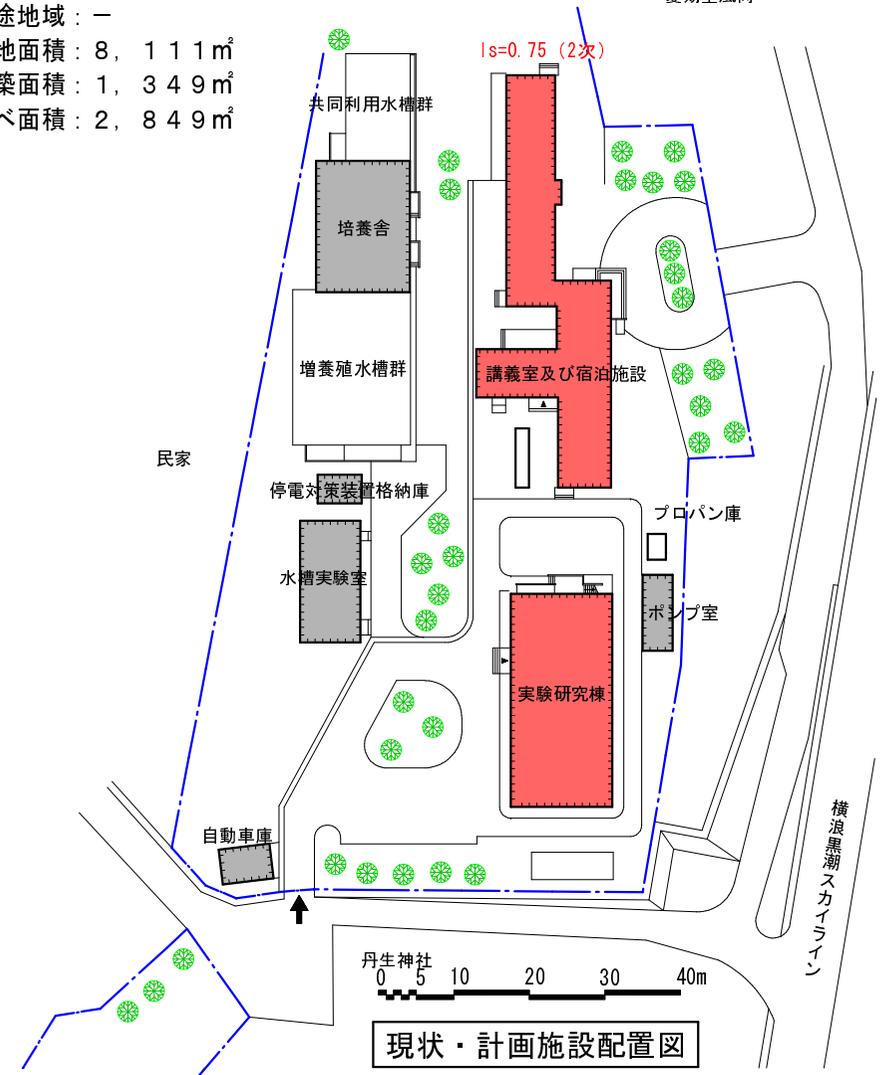
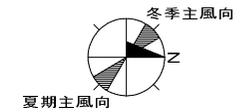


凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を示す
	第2期中期目標 期間中に、整備が完了した建物を示す

§ 1 キャンパスの現状と計画【宇佐団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：土佐市宇佐町井の尻194-11
- 学部等名：海洋生物研究教育施設
- 用途地域：-
- 敷地面積：8,111㎡
- 建築面積：1,349㎡
- 延べ面積：2,849㎡



現状・計画施設配置図

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画【宇佐東団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：土佐市宇佐町宇佐東町浜3159-5
- 学部等名：宇佐野外活動施設
- 用途地域：－
- 敷地面積：3,963㎡
- 建築面積：765㎡
- 延べ面積：1,241㎡



現状・計画施設配置図

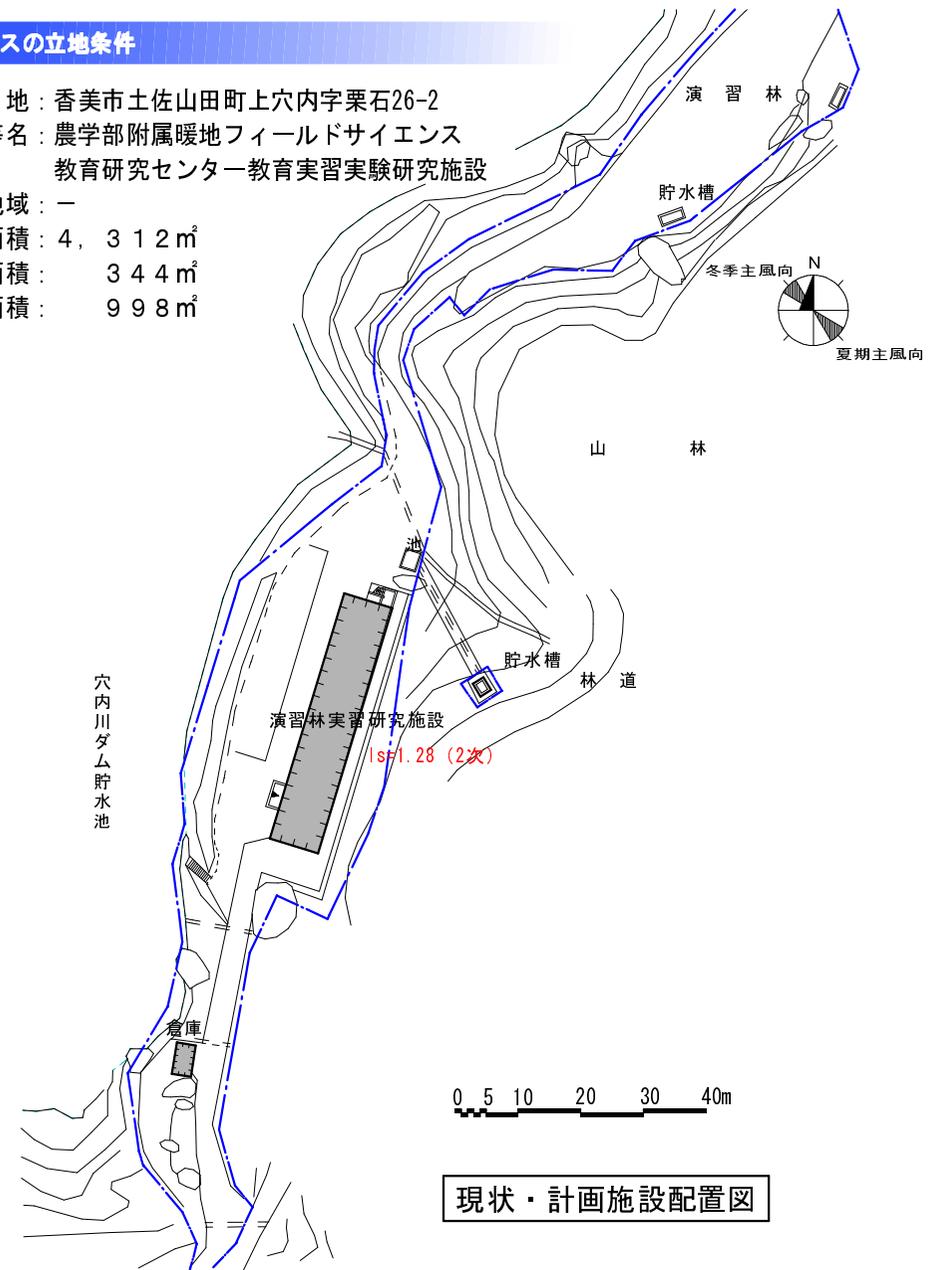
0 5 10 20 30 40m

凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を示す
	第2期中期目標 期間中に、整備が完了した建物を示す

§ 1 キャンパスの現状と計画【上穴内団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：香美市土佐山田町上穴内字栗石26-2
- 学部等名：農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター教育実習実験研究施設
- 用途地域：－
- 敷地面積：4,312㎡
- 建築面積：344㎡
- 延べ面積：998㎡



0 5 10 20 30 40m

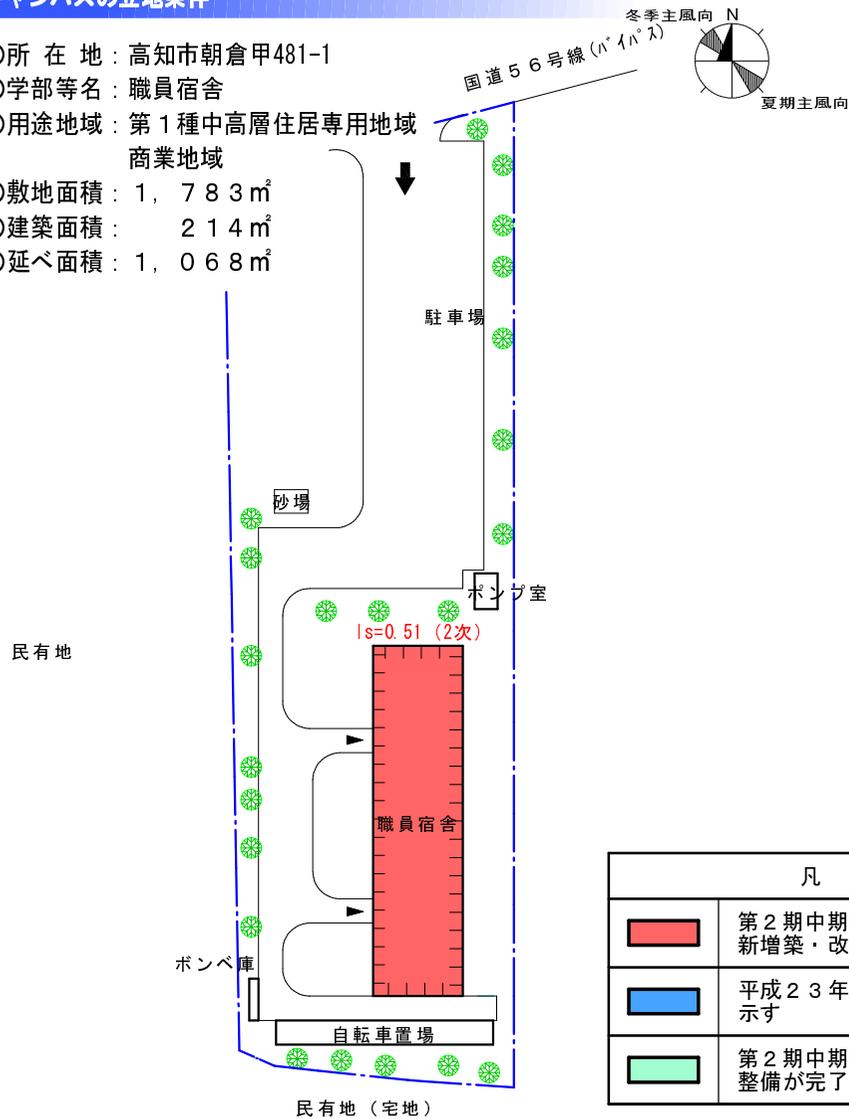
現状・計画施設配置図

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画【勝負の川団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：高知市朝倉甲481-1
- 学部等名：職員宿舎
- 用途地域：第1種中高層住居専用地域
商業地域
- 敷地面積：1,783㎡
- 建築面積：214㎡
- 延べ面積：1,068㎡



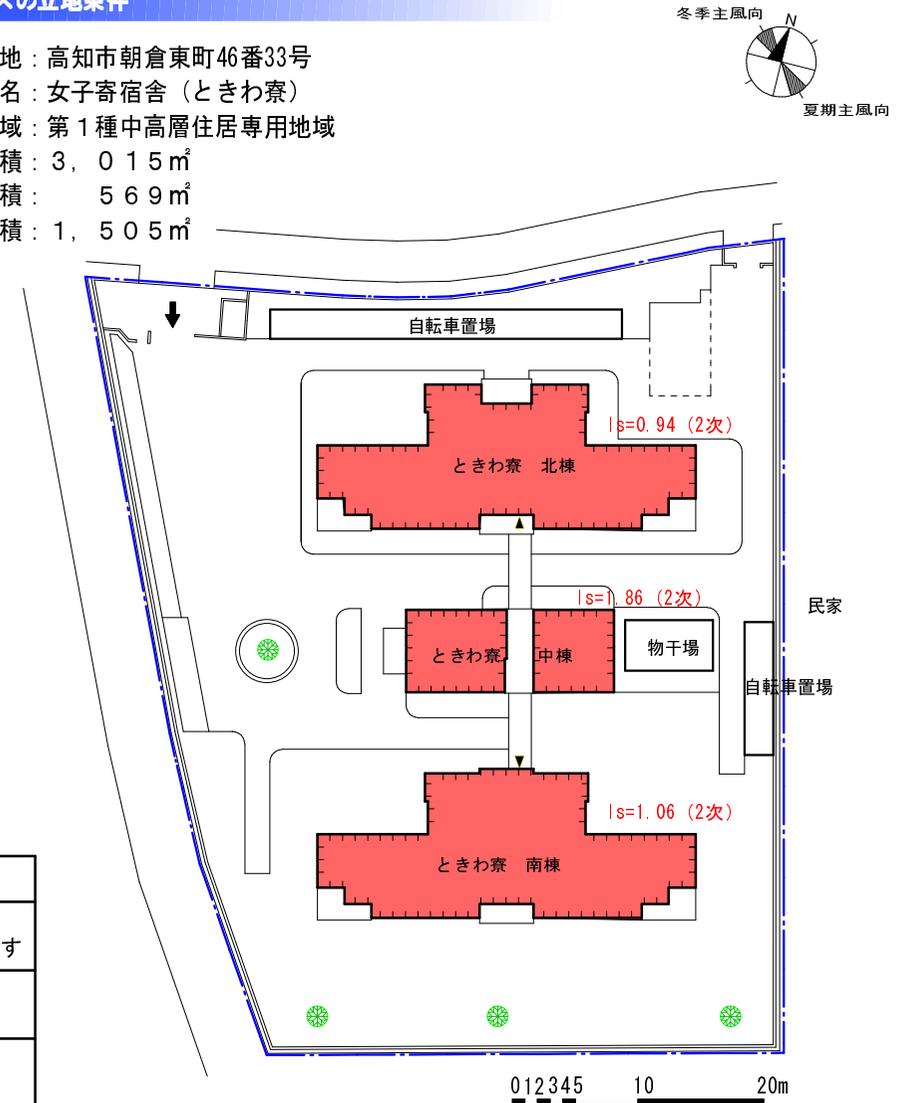
現状・計画施設配置図

凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、 新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を 示す
	第2期中期目標 期間中に、 整備が完了した建物を示す

§ 1 キャンパスの現状と計画【中通団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：高知市朝倉東町46番33号
- 学部等名：女子寄宿舎(ときわ寮)
- 用途地域：第1種中高層住居専用地域
- 敷地面積：3,015㎡
- 建築面積：569㎡
- 延べ面積：1,505㎡



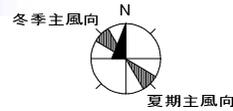
現状・計画施設配置図

その他の団地

§ 1 キャンパスの現状と計画【中島団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：南州市岡豊町中島1169-1
- 学部等名：職員宿舎
- 用途地域：-
- 敷地面積：17,513m²
- 建築面積：1,620m²
- 延べ面積：7,935m²



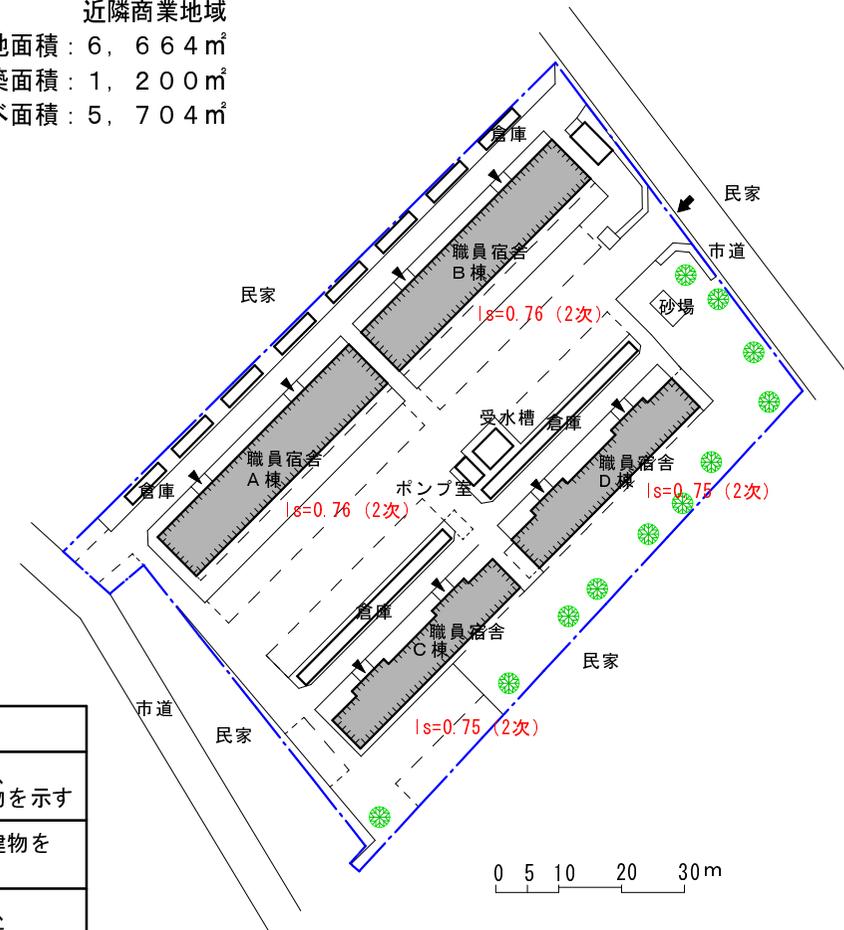
現状・計画施設配置図

凡 例	
	第2期中期目標 期間中に、 新增築・改修する計画建物を示す
	平成23年度整備予定の建物を 示す
	第2期中期目標 期間中に、 整備が完了した建物を示す

§ 1 キャンパスの現状と計画【高須団地】

キャンパスの立地条件

- 所在地：高知市高須2丁目19
- 学部等名：職員宿舎
- 用途地域：第1種中高層住居専用地域
近隣商業地域
- 敷地面積：6,664m²
- 建築面積：1,200m²
- 延べ面積：5,704m²

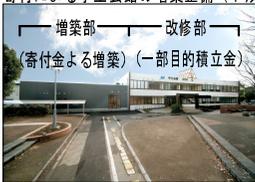


現状・計画施設配置図



高知大学キャンパスマスタープラン

— 自助努力による新たな整備手法 —

高知大学のこれまでの 新たな整備手法の取り組み	
<p>割賦によるPETセンターの新築整備 (平成17年度)</p>  <p>【割賦金】 1,622㎡ 49,350万円</p> <p>南東面外観</p>	<p>事業所内託児施設助成金による院内保育施設の改修整備 (平成17年度)</p>  <p>【助成金】 (176㎡) 3,116万円</p> <p>保育室</p>
<p>価格協力による構内主要ガス配管の改修整備 (平成18年度) 目的積立金による空調設備の改修整備 (平成19年度)</p>  <p>埋設されたガス配管 改修された空調設備 【価格協力】 無償 【目的積立金】 8,638万円</p>	<p>寄付による(岡豊)コンビニエンスストアの新築整備 (平成18年度)</p>  <p>【寄付金】 コンビニ 236㎡ 4,200万円</p> <p>北東面外観</p>
<p>寄付によるコーヒーショップの改修整備 (平成18年度)</p>  <p>【寄付金】 コーヒーショップ 85㎡ 900万円</p> <p>コーヒーショップ</p>	<p>目的積立金による構内環境整備 (平成20年度)</p>  <p>【目的積立金】 朝倉キャンパス 環境整備 (1,600㎡) 9,460万円</p> <p>朝倉団地の構内環境整備</p>
<p>目的積立金による(朝倉)総合研究棟(実験系)の増築整備 (平成20年度)</p>  <p>目的積立金による増築整備建物 R3 531㎡</p> <p>【目的積立金】 R3 530㎡ 1億3,020万円</p> <p>西面外観</p>	<p>目的積立金による(物部)職員会館の増築整備 (平成21年度)</p>  <p>【目的積立金】 職員会館改修 (310㎡) 職員会館増築 110㎡ 5,440万円</p> <p>南西面外観</p>
<p>寄付による学生会館の増築整備 (平成21年度)</p>  <p>増築部 改修部 (寄付金による増築)(一部目的積立金)</p> <p>【寄付金】 生協共同組合 790㎡ 1億7,600万円 【目的積立金】 (1,110㎡) 1億円</p> <p>増築部北面外観</p>	<p>目的積立金による(朝倉)共通教育1号館他改修整備 (平成21年度)</p>  <p>【目的積立金】 共通教育1号館 (880㎡) 人文学部棟 (550㎡) 14,980万円</p> <p>事務室内部</p>

第二期中期目標・中期計画期間の新たな整備手法(例)

他大学の実施例

- ・医学部創立60周年記念事業の募金による教育研究施設の整備 神戸大学 (H20)
- ・同窓会からの寄付と目的積立金を財源とした交流・支援施設の整備 東京工業大学 (H21)
- ・個人からの寄付及び間接経費による研究施設の整備 大阪大学 (H19)
- ・民間病院からの留学生会館の現物寄付 北海道大学 (H20)

地方公共団体との連携による整備

- ・地方公共団体からの補助金によるがん診療機器及び施設の整備 秋田大学 (H20)
- ・函館市の施設との合築による教育研究施設の整備 北海道大学 (H18)
- ・経済産業省の補助金を活用し、信州科学技術総合振興センターを整備 信州大学 (H21)
- ・高知県の地域医療再生基金による教育研修拠点の整備 高知大学 (H23)

企業等による整備

- ・企業が共同出資する特定目的会社による医療施設の整備 岡山大学 (H18)
- ・全ての費用を事業者の資金調達による留学生・外国人研究者等の居住施設(宿舍)の整備 横浜国立大学 (H22)

長期借入金による整備

- ・長期借入金による学生寄宿舎の整備 (R6 1,998㎡) 豊橋技術科学大学 (H21)
- ・長期借入金による学生寄宿舎の整備 (R5 6,567㎡) 大分大学 (H21)

目的積立金による整備

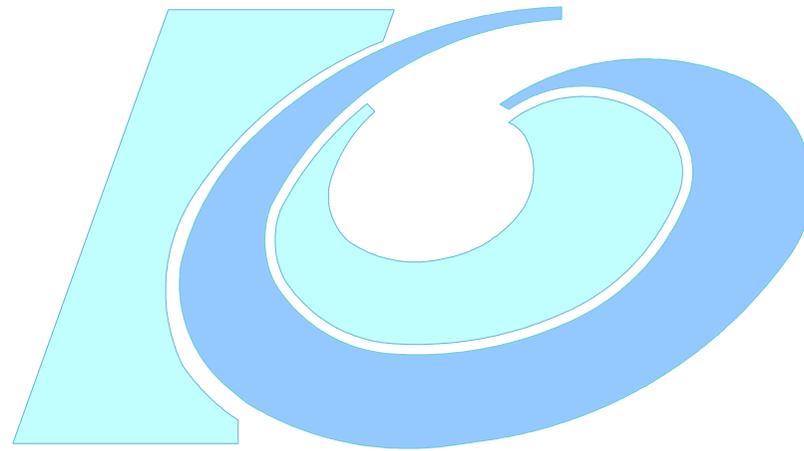
- ・目的積立金と財団からの寄付を組み合わせた教育研究施設の整備 大阪大学 (H21)
- ・目的積立金の活用による学生・研究者・留学生宿泊施設の整備 九州大学 (H21)

その他自己財源による整備

- ・学内資金の一時借入金による看護職員宿舎の整備 東京大学 (H21)
- ・学内省エネ化行動計画による設備機器等の更新。H23年度～高効率機器等の取り替えによる新たな省エネと経費節減。 高知大学 (H23～)

* 他大学の実施例は新たな整備手法による整備事例集(文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課)より抜粋

Campus Design Guideline



KOCHI UNIVERSITY
キャンパスのデザインガイドライン

■キャンパスデザインの基本方針

1. アカディミック空間と交流空間の連続性

キャンパス空間には、建築とオープンスペースが巧みにバランスされた複合体として互いに役割を補完しあい、機能的に一体となったデザインが求められる。

大学を記憶に残し、その独自性を表現する空間は、センター・オブ・エクセレンス（卓越した研究拠点）として常にある種の風格を備えている。これは、知の拠点として社会より信頼されてきた何よりの証である。

風格を備えた空間は経年的変化のなかで生まれ、一方で、活気に溢れたキャンパス空間には、緊張から解き放された安らぎの空間、幅広い交流の場は、欠くことができない。特に、教職員・学生が互いに刺激を受けながら、知的創造活動を展開するために、また社会の信頼を確立するためにも、多様な交流スペースを整備していく必要がある。

アカディミックな空間と、交流の空間を適切に並立・融合させていくことにより、深みのあるキャンパス空間を形成していく。

2. ユニバーサルデザイン

障害の有無や年齢、性別に関わらず誰もがハンディキャップを感じることなく自立した生活を送ることのできるキャンパス環境に配慮する。

ひとにやさしいキャンパスづくりの推進

- ノーマライゼーションの理念に基づいたキャンパスづくりの推進
- 心理的、精神面でのバリアフリー
- 物理的、機能面でのユニバーサルデザイン化の推進

3. 素材と色合い

建物や屋外構築物などの材料には年月を経ても美しさを保ち、味わいを増していく素材を採用することを基本とし、自然石、タイル等の自然に近い素材を積極的に使用する。

キャンパス・モールなどのオープンスペースとそれに連続する建築空間は、相互に関連した色彩の調和を保つように計画し、色彩と素材が相まってキャンパスに親しみやすい表情と風格を与えるよう配慮する。

また歩行者に接し、目の届く低層部の外装には、自然に近い素材を採用し、スカイラインを形成する建物頂部では空を意識し、周辺の見え方に配慮した素材・配色を考慮し、自然環境を考慮した材料の選定をおこなう。

視覚的に際立った効果をねらった色彩配置も活気ある空間づくり、象徴的しつらえた効果として考慮する。

4. 室内空気汚染物質の低減

室内の空気環境に配慮して健康への影響を低減していくために、適切な材料選択、適切な施工・施工管理及び換気・通風への配慮を行う。

■朝倉キャンパス デザインガイドライン

●キャンパスの骨格とオープンスペース

正門ロータリーから学生会館にいたる南北の幹線路（キャンパスモール）と、東西に走る正門ロータリーから体育館までの幹線路は、朝倉キャンパスの骨格となる交流軸となっている。

建物群は、この軸線上に対して連続性と開放性を確保しながら交流の機会やアクセシビリティを高めながら、象徴性と快適性を併せ持った歩行空間とする。

（用水路の水利権者、地権者の同意を得た場合）

構内東側を南流する用水路を移転又は分岐し、親水機能を持たせた水景施設としてキャンパス・モールに配置する計画も考えられる。



主要交流軸となっている南北幹線道路（キャンパスモール）

●キャンパス景観

スカイラインや壁面線など、キャンパスの景観を尊重し連続性に考慮する。

また、周辺建物群の形態、空間構成、外装材、色彩などについて、基調となっているものをデザインに反映させる。



東西の交流軸となっている幹線道路

●ベースとなる建物

研究棟、講義棟のデザインは基調となる既存の建物と同調させ、キャンパスのベースを形成するよう配慮する。ただし、手摺り・建具・屋外階段など小さなデザイン要素にはアクセント色を採用し、適度な華やかさを持たせることも考慮する。

・朝倉キャンパスでは附属図書館、また既に大型改修工事を終えている総合研究棟、理学部1号館の外壁色に統一し調和を持たせる。

基本色：（E22-60B/E22-70B中間色）



基調となるスカイライン（実験系総合研究棟・理学部1号館）

●個性のある建物

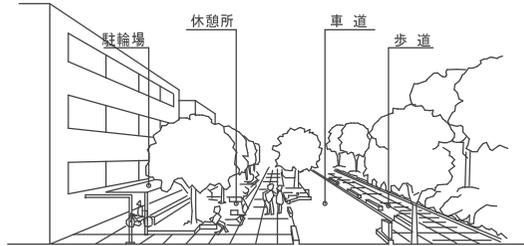
交流施設や福利厚生施設など共用性の高い建物は周辺建物との調和を保ちつつ、個性的なデザインとなるよう工夫する。外観の一部にアクセントとなるような形態や外装材を取り入れて、華やかさを持たせることも考慮する。



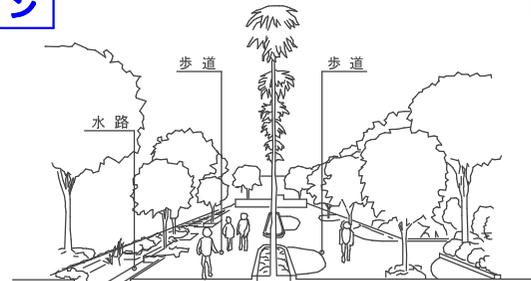
カーテンウォールと金属板外壁とした附属図書館

キャンパスのデザインガイドライン

■朝倉キャンパス デザインガイドライン



東西幹線道路イメージ図



キャンパスモールイメージ図

* 正門回りに調和のとれたサイン計画を行う



今後キャンパスの顔としてサイン計画も含めて環境整備に配慮する。



正門ロータリー内にある植樹



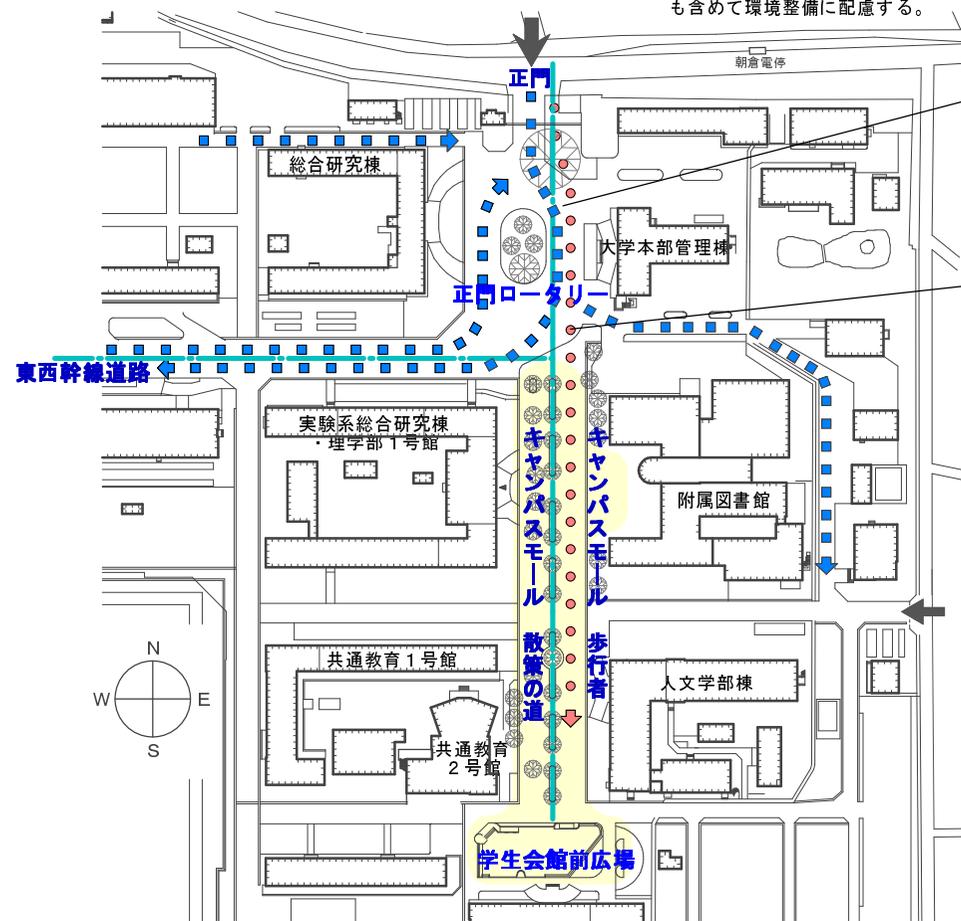
キャンパスの軸線となる東西幹線道路



キャンパスモール（歩行者専用道路）シンボル樹のワシントンヤシ



キャンパスモール（散策の道）



朝倉キャンパスの骨格・軸線となる主要幹線道路

* 正門、正門ロータリー、キャンパスモールに軸線のずれがあるため、正門回りの計画を見直す。

歩行者主要動線



開放的な空間とした附属図書館前広場



憩いの場となる学生会館前広場

■朝倉キャンパス デザインガイドライン

●リニューアルの成果の表現

主要な建物を改修する際には、ファサードの一部に新しいデザイン要素（耐震補強も含んだ外殻フレーム、バルコニー、庇など）を用い、既存建物との調和を図りながら新しい建築要素による、表情豊かで秩序ある外観に配慮する。



外観のデザイン要素としたPcコンクリートによる耐震補強（実験系総合研究棟・理学部1号館）

●共同利用スペース・交流スペースの充実

建物の新築・改修時には、適切な位置に施設有効利用のための共用スペース並びに、学生・教職員の交流スペース、教育・研究のための共有スペースを確保する。



総合研究棟内の交流ラウンジ



コミュニケーションルーム（共通教育3号館）



スタジオ（共通教育3号館）



学生会館と一体となった屋外の広場



交流の場となる学生会館（共同談話室）

●長く実効的に使用できる配慮

汚れにくく、維持管理のしやすい材料・工法・デザインを考慮した計画とする。

将来の用途変更や、先進的な教育・研究に対応できるように、講義・演習・研究スペースにフレキシビリティを確保する。

●ユニバーサルデザイン

バリアフリーや、わかりやすさに配慮する。建物の改修時にはエレベーターの整備改修、段差解消、便所の改善など積極的に実施する。



ノーマライゼーションの理念に沿った建物アプローチ

●防犯への配慮

事務室・居室からの見守り（エントランスや外部空間に視線の届く空間構成）の確保、建物内外への防犯設備などの導入にも考慮する。

・外灯と樹木の配置を考慮し枝葉により外灯の効果が薄れることのないよう配慮する。



エントランスに視線の届く居室の配置

●広場のデザイン

交流の場、シンボルとしての広場など役割に応じたデザインとし、広場自体の形態だけでなく、建物・街路・自然など、周辺環境との関係性に配慮する。



キャンパスモールのシンボル（ワシントンヤシ）



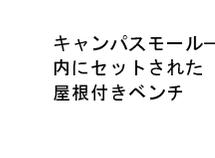
●街路のデザイン

交流の場、自然を楽しむ場、シンボルとしての街路など、役割に対応した総合的なデザインとする。

ストリートファニチャーであるサイン、ベンチ、照明、自転車置場、ゴミ箱、渡り廊下屋根などについて、統一したデザインで調和を図る。



一街路沿いにある自転車置場



キャンパスモール内にセットされた屋根付きベンチ



●維持・管理に配慮した植栽の計画

適切な配置・樹種・選定方法・ボリュームの組み合わせなど考慮し、維持費等の少ない計画を考慮する。



一キャンパス主要街路沿いに置かれている外灯（学内統一仕様）

キャンパスのデザインガイドライン

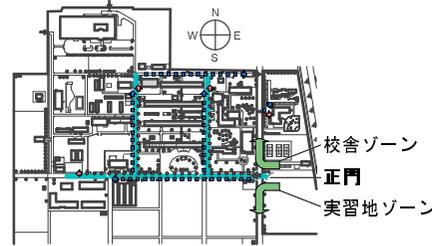
■物部キャンパス デザインガイドライン

●キャンパスの骨格とオープンスペース

正門から東西に走る幹線道路を主軸に、北側校舎ゾーンと南側実習地ゾーンに別れ、校舎ゾーンにおいて南北に走る幹線道路が物部キャンパスの骨格を形成している。

建物は中央に整然と並んだ4棟の農学部校舎を中心に連続性と開放性を確保しながら他の建物が配置されている。

また校舎棟は渡り廊下によって連結され建物相互が一体化している。



① 正門から東西に走る主要幹線道路

●キャンパス景観

スカイラインや壁面線など、キャンパスの景観を尊重し連続性に考慮する。

また、周辺建物群の形態、空間構成、外装材、色彩などについて、基調となっているものをデザインに反映させる。



3階建ての校舎が整然と並び連続性を持った配置となっている。

●ベースとなる建物

建物はベースになっている農学部校舎（1号館～4号館）に調和させたデザインとして、キャンパスのベースを形成するよう配慮する。ただし、手摺り・建具・屋外階段など小さなデザイン要素にはアクセント色を採用し、適度な華やかさを持たせることも考慮する。

（物部キャンパスは、既に大型改修整備が終了した農学部2号館、3号館、4号館の外壁色に統一し建物の調和を持たせる。）

基本色：（E25-85B）



改修整備の終わった農学部4号館（耐震補強はPcブレース）

●個性のある建物

国際交流会館、日章寮、福利厚生施設など共用性の高い建物は周辺建物との調和を保ちつつも個性的なデザインとなるよう工夫する。外観の一部にアクセントとなるような形態や外装材を取り入れて、華やかさを持たせることも考慮する。



外壁色、テクスチャーも変え個性を出した国際交流会館の全景

●リニューアルの成果の表現

主要な建物を改修する際には、ファサードの一部に新しいデザイン要素（耐震補強も含んだ外殻フレーム、バルコニー、庇など）を用い、既存建物との調和を図りながら新しい建築要素による、表情豊かで秩序ある外観に配慮する。

リニューアルした建物にはPcブレースと鉄骨ブレースによる耐震補強があるが、既存の建物デザインを踏襲し、キャンパス周辺建物との調和にも配慮する。



耐震・機能改修された農学部校舎の外観

●共同利用スペース・交流スペースの充実

建物の新築・改修時には、適切な位置に施設有効利用のための共用スペース並びに、学生・教職員の交流スペース、教育・研究のための共有スペースを確保する。



教員研究室前の多目的共用スペース（農学部3号館）

●ユニバーサルデザイン

バリアフリーや、わかりやすさに配慮する。建物の改修時にはエレベーターの整備改修、段差解消、便所の改善など積極的に実施する。



スロープ（農学部3号館）

●広場のデザイン

交流の場、シンボルとしての広場など役割に応じたデザインとし、広場自体の形態だけでなく、建物・街路・自然など、周辺環境との関係に配慮する。



農学部1号館（管理棟）前の広場

●街路のデザイン

交流の場、自然を楽しむ場、シンボルとしての街路など、役割に対応した総合的なデザインとする。ストリートファニチャーであるサイン、ベンチ、照明、自転車置場、ゴミ箱、渡り廊下屋根などについて、統一したデザインで調和を図る。



農学部1～4号棟横の街路景観

キャンパスのデザインガイドライン

■小津キャンパス デザインガイドライン

●キャンパスの骨格とオープンスペース

小津キャンパスは附属中学校、附属小学校、附属幼稚園の3校に、職員宿舎を加えた複合団地として、調和を保ちながら特色のあるキャンパスとする。学校建物はそれぞれが、1階～3階までの低層建物と運動場を配置し構成されている。また敷地の一面には5棟の職員宿舎が整然と配置されている。



●キャンパス景観

スカイラインや壁面線など、キャンパスの景観を尊重し連続性に考慮する。また、周辺建物群の形態、空間構成、外装材、色彩などについて、基調となっているものをデザインに反映させる。

基本色：附属中学校 (BN75) アシスター (A-25-70B)
 附属小学校 (25-85A) アシスター (19-70C)
 ラインカラー (02-60L)
 附属幼稚園 (25-85A)



パラペット部のアクセントで附属小学校の個性をアピール。



附属中学校外観



附属幼稚園外観



職員宿舎外観

●ベースとなる建物

基調となる既存の校舎と同調させ、キャンパスのベースを形成するよう配慮する。ただし、手摺り・建具・屋外階段など小さなデザイン要素にはアクセント色を採用し、適度な華やかさを持たせることも考慮する。

・小津キャンパスでは既に大型改修工事を終えている附属小・中校舎校舎があるが、各学校別に基調となっている外壁色に統一し、調和を持たせる。



附属中学校



附属中学校



附属幼稚園



附属小学校

●リニューアルの成果の表現

主要な建物を改修する際には、ファサードの一部に新しいデザイン要素（耐震補強も含んだ外殻フレーム、バルコニー、庇など）を用い、既存建物との調和を図りながら新しい建築要素による、表情豊かで秩序ある外観に配慮する。

リニューアルした建物にもわずかにP.C.ブレースによる耐震補強があるが、既存の建物デザインを踏襲し、キャンパス周辺建物との調和を図っている。



●共同利用スペース・交流スペースの充実

建物の新築・改修時には、適切な位置に施設有効利用のための共用スペース並びに、学生・教職員の交流スペース、教育・研究のための共有スペースを確保する。



附属小学校のフレンドルーム



附属小学校の図書館



附属中学校のエレベーター



附属中学校のスロープ

●ユニバーサルデザイン

バリアフリーや、わかりやすさに配慮する。建物の改修時にはエレベーターの整備改修、段差解消、便所の改善など積極的に実施する。

●広場のデザイン

交流の場、シンボルとしての広場など役割に応じたデザインとし、広場自体の形態だけでなく、建物・街路・自然など、周辺環境との関係に配慮する。



附属小学校の中庭

キャンパスのデザインガイドライン

■岡豊キャンパス デザインガイドライン

●キャンパスの骨格とオープンスペース

キャンパスを囲む市道が南西から北東に向け斜めに走っているため、附属病院へは南東から北西に向けたアプローチとなっている。

また正門から斜めの動線とキャンパスループ道路という骨格で附属病院ゾーンと教育研究ゾーンに分けて構成されている。



A点より幹線を臨む



B点より幹線を臨む



C点より幹線を臨む



D点より幹線を臨む

●キャンパス景観

スカイラインや壁面線など、キャンパスの景観を尊重し連続性に考慮する。

また、周辺建物群の形態、空間構成、外装材、色彩などについて、基調となっているものをデザインに反映させる。



学部ゾーンの建物（基礎・臨床研究棟）

●ベースとなる建物

附属病院エリアのデザインは基調となる既存の病棟と同調させ、キャンパスのベースを形成するよう配慮する。

病棟・研究棟等のベーシックカラー

NT-22 5Y 8.3/0.7

アシストカラー（外来棟等）

8.3GY 8.1/1.1



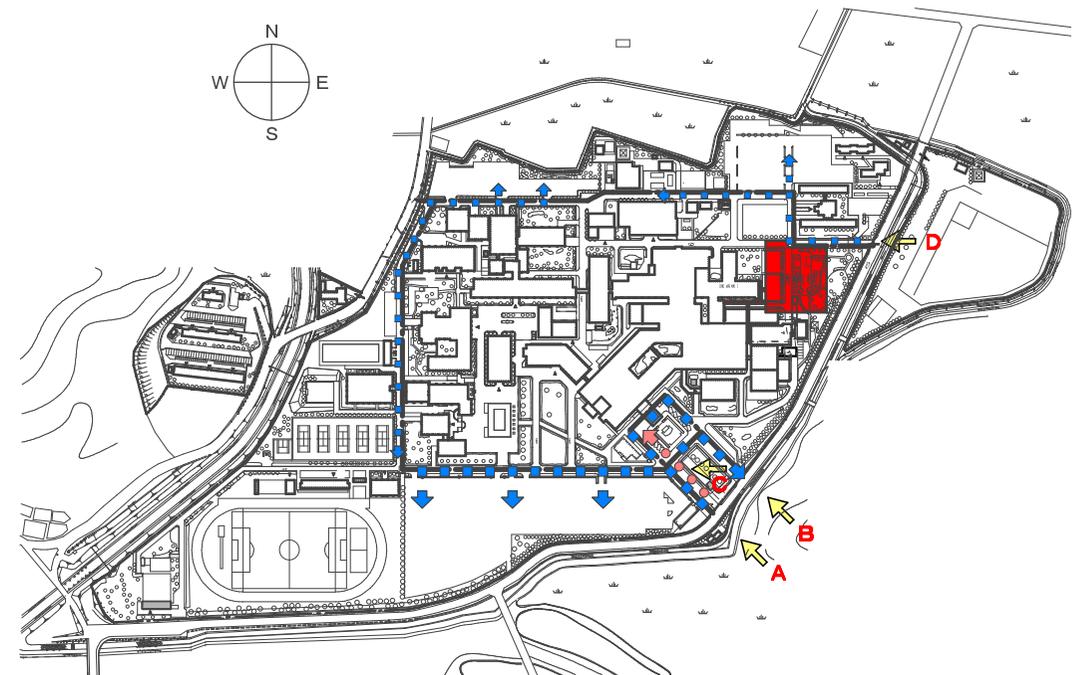
病院ゾーンの建物（外来棟）

●個性のある建物

交流施設や福利厚生施設など共用性の高い建物は周辺建物との調和を保ちつつ、個性的なデザインとなるよう工夫する。外観の一部にアクセントとなるような形態や外装材を取り入れて、華やかさを持たせることも考慮する。



外観色を変えて、総タイル張とした看護学科棟



■岡豊キャンパス デザインガイドライン

●リニューアルの成果の表現

主要な建物を改修するには、ファサードの一部に新しいデザイン要素（耐震補強も含んだ外殻フレーム、バルコニー、庇など）を用い、既存建物との調和を図りながら新しい建築要素による、表情豊かで秩序ある外観に配慮する。



耐震補強された西病棟外観

●共同利用スペース・交流スペースの充実

建物の新築・改修時には、適切な位置に施設有効利用のための共用スペース並びに、学生・教職員の交流スペース、教育・研究のための共有スペースを確保する。



共同利用スペース（看護学科棟ラウンジ）

●長く実効的に使用できる配慮

汚れにくく、維持管理のしやすい材料・工法・デザインを採用する。

また、将来の用途変更や、先進的な教育・研究に対応できるように、講義・演習・研究スペースにフレキシビリティを確保する。



総外装タイル張りとした看護学科棟

●ユニバーサルデザイン

バリアフリーや、わかりやすさに配慮する。建物の改修時にはエレベーターの整備改修、段差解消、便所の改善など積極的に実施する。



屋根を付けた屋外通路



屋根をつけた屋外通路



玄関スロープ（看護学科棟）

●防犯への配慮

事務室・居室からの見守り（エントランスや外部空間に視線の届く空間構成）の確保、建物内外への防犯設備などの導入にも考慮する。

・外灯と樹木の配置を考慮し枝葉により外灯の効果が薄れることのないよう配慮する。



エントランスにある防犯監視カメラ

●広場のデザイン

交流の場、シンボルとしての広場など役割に応じたデザインとし、広場自体の形態だけでなく、建物・街路・自然など、周辺環境との関係に配慮する。



講義棟前の広場



広場に設置されたパーゴラ

●街路のデザイン

交流の場、自然を楽しむ場、シンボルとしての街路など、役割に対応した総合的なデザインとする。

ストリートファニチャーであるサイン、ベンチ、照明、自転車置場、ゴミ箱、渡り廊下屋根などについて、統一したデザインで調和を図る。



低木常緑樹と建物が調和し、開放感ある空間

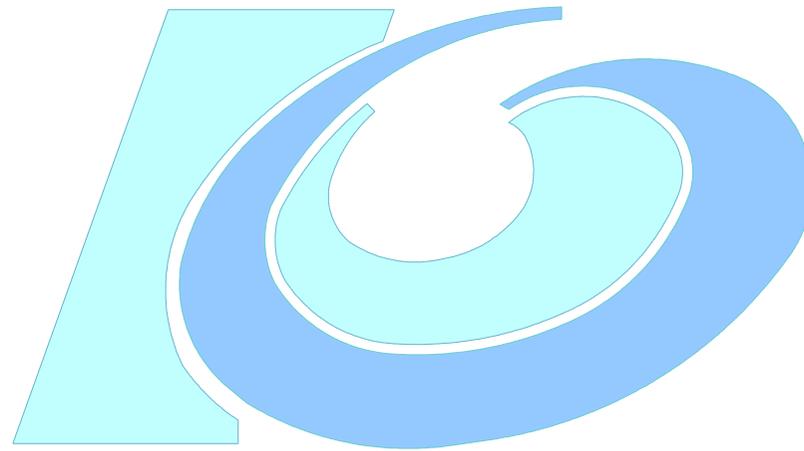
●維持・管理に配慮した植栽の計画

適切な配置・樹種・選定方法・ボリュームの組み合わせなど考慮し、維持費等の少ない計画を考慮する。



植栽手入れのかからない低木と地被類

Campus Outsign



KOCHI UNIVERSITY

キャンパス サイン計画

■サイン計画の基本方針

高知大学は人文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部の5学部と、総合人間自然科学研究科（9専攻）と連合農学研究科の大学院を擁し、学部生と大学院生合わせて約5,550人の学生と、約1,640人の教職員が在籍する四国屈指の総合大学です。

高知大学では学生達に豊かなキャンパスライフの提供と、地域住民からも安全な公共施設とされる大学、そしてまた安心して教育研究に専念のできる大学を目標としています。

大勢の学生・留学生等に、また大学を訪れる人々に適切な情報を提供することは、大学サービスとして重要であり、その一つの取り組みとしてキャンパスマスタープランの中で「高知大学キャンパスサイン計画」を策定する。

キャンパスでの案内標識による来学者・利用者（学生等）への情報提供は、誰もが見やすく分かりやすいことが必要である。本編では朝倉、物部、岡豊団地について検討しているが、その他の団地についても景観に配慮すると共にポイントになる場所へ、必要最小限で高い視認性を持った計画とする必要がある。

■屋外サイン計画の基本方針

◇キャンパス全体の情報内容やその表示方法の整合、設置位置の調整等一貫した分かりやすいサイン計画とする。（既設のサインを含め、書体、形態等デザインの一貫性を確保し、名称表記など不統一を解消する）

◇ユニバーサルデザインの導入を図る。
画一的なサインではなく外国人、車椅子の方など個別に実施効果を検討し、誰もが実際に使いやすいサイン計画とする。



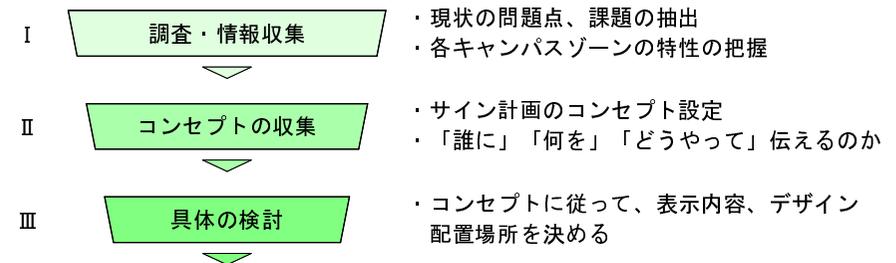
サイン計画のコンセプト

- キャンパス全体の統一性を持ったサイン計画
（既設サインとの連続性の確保や重複をさけた配色・書体とする）
- 安全性とバリアフリーを考慮したサイン計画
（安全性と見つけやすさ及び障害のある人などに配慮した視距離に応じた高さと大きさのサインとする）
- 利用者の動線が分かりやすいサイン計画
（利用者の動線を考慮した上で、見やすく、通行の支障にならない設置位置や表示の向きとする）

■サインの種類

サインの種類		
施設系	おもに施設に地点表示または説明の目的で設置されるもの	
	① 施設名称サイン	施設名称を示したもの。建物に付加されるものと敷地内や施設付近に建てられるもの
	② 説明サイン	敷地の概要などの説明文を表示したもの
	③ 住居表示サイン	現在地の表示として団地名や番地名を示したもの
交通系		
	④ 案内サイン	地図を伴い、現在地とその周辺地理および施設分布を示したもの
	⑤ 道路名称サイン	道路の名称などを表記もの
	⑥ 誘導サイン	ある目的の方向を矢印及び
	⑦ 規制・警戒サイン	施設名称サイン
PR系		
	⑧ 歓迎サイン	施設名称サイン
	⑨ 宣伝・啓発サイン	施設名称サイン
	⑩ イベントサイン	施設名称サイン

■サイン計画の進め方



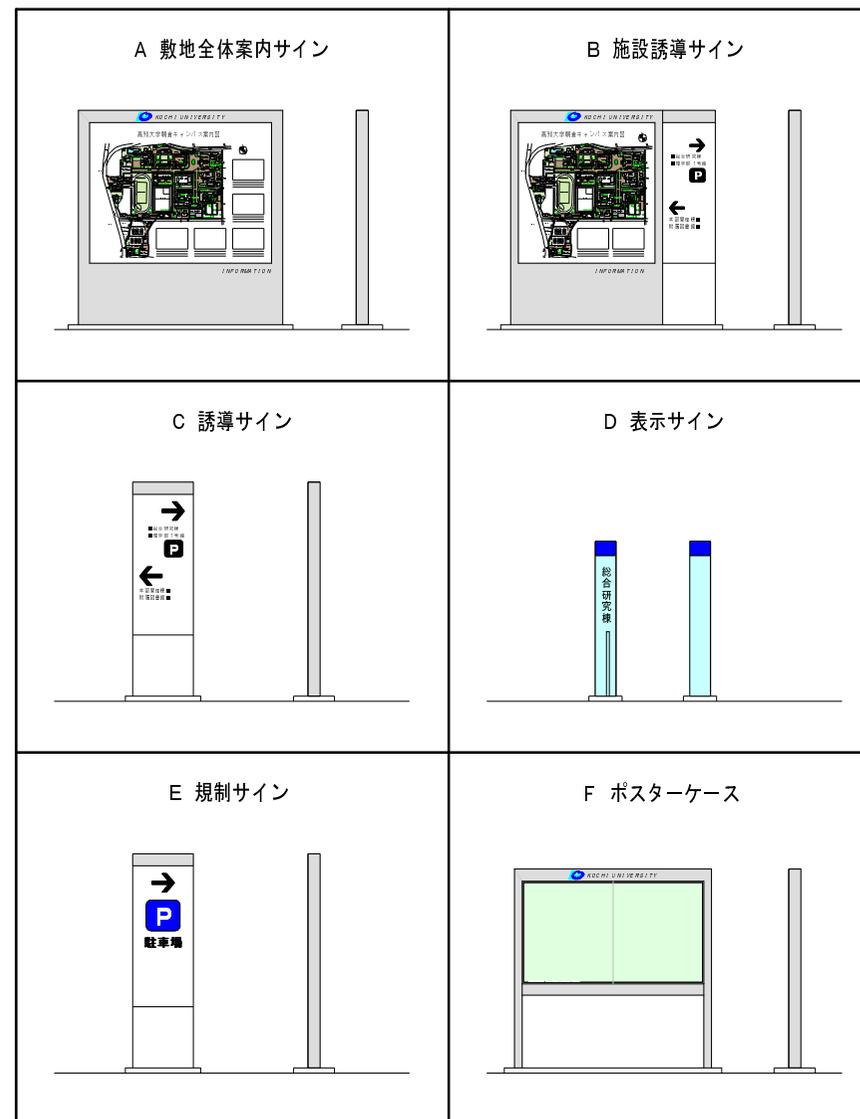
■サインキープラン

- A 敷地全体案内サイン ——— 建物の概要、敷地全体構成等を案内ガイドするサインで、平面マップ・フォト・説明文で案内。
- B 施設誘導サイン ——— 建物の概要、敷地全体構成等を案内ガイドするサインで、設置場所周辺の拡大マップを併記し、設置場所から各建物への誘導案内を表示する。
- C 誘導サイン ——— ある一定の場所及び現在位置から定められた目的場所へ導く為のサインで、各施設にポイントカラーを付け、わかりやすい誘導を表示。
- D 表示サイン ——— 案内系サイン・誘導系サインに表示した施設名称とペイントカラーで表示した棟別表示。
- E 規制サイン ——— 交通規制関係・車両誘導の他、注意禁止的サインを表現したサイン
- F ポスターケース ——— 大学の掲示・告示また、学生間のコミュニティーの為のもので、管理運営・利用者運営を案内。

* 本編のキャンパスサイン計画では、A敷地全体案内サイン、C誘導サイン、E規制サイン、Dポスターケースについて計画する。



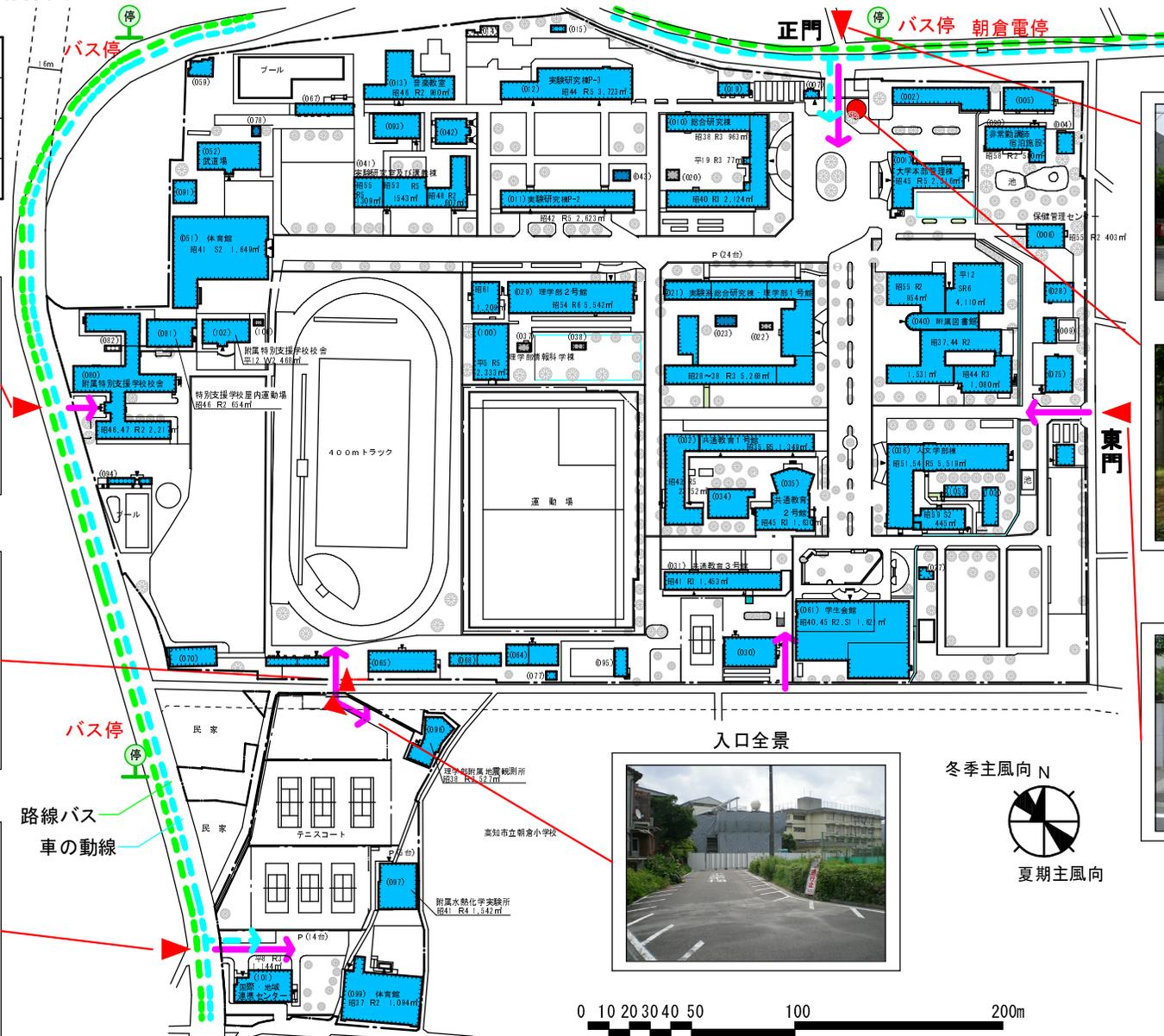
■サインの種類



キャンパス サイン計画

■朝倉キャンパスの主要動線図

	路線バス・電車
	車の動線
	歩行者の動線
	バス・電車停留所



入口全景



入口全景



入口全景



正門全景



敷地全体案内板



東門全景



冬季主風向 N



夏期主風向

0 10 20 30 40 50 100 200m

キャンパス サイン計画

■物部キャンパスの主要動線図

入口全景



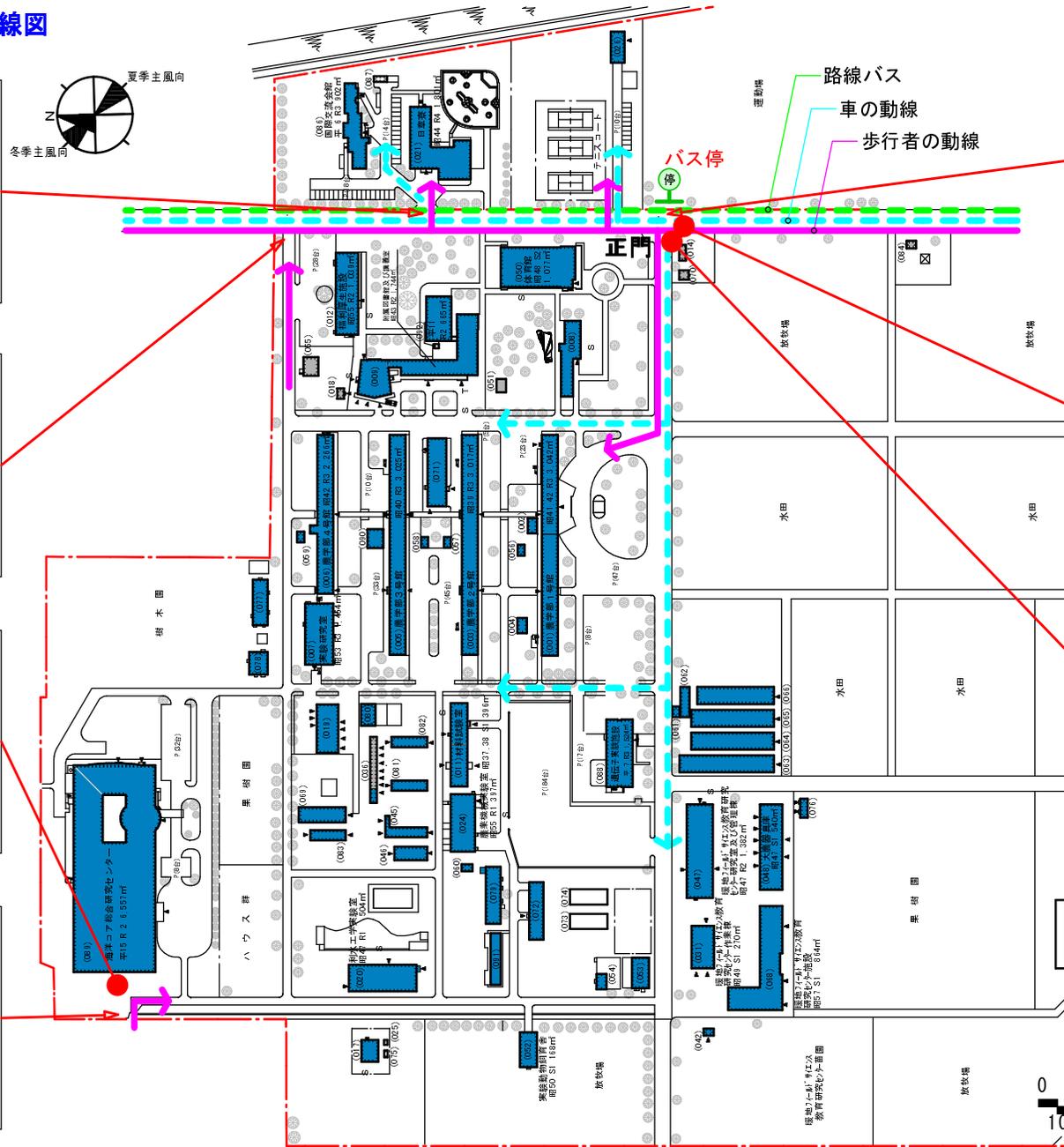
入口全景 (出口専用)



正門の総合案内板



入口全景



正門全景



正門の総合案内板 (1)



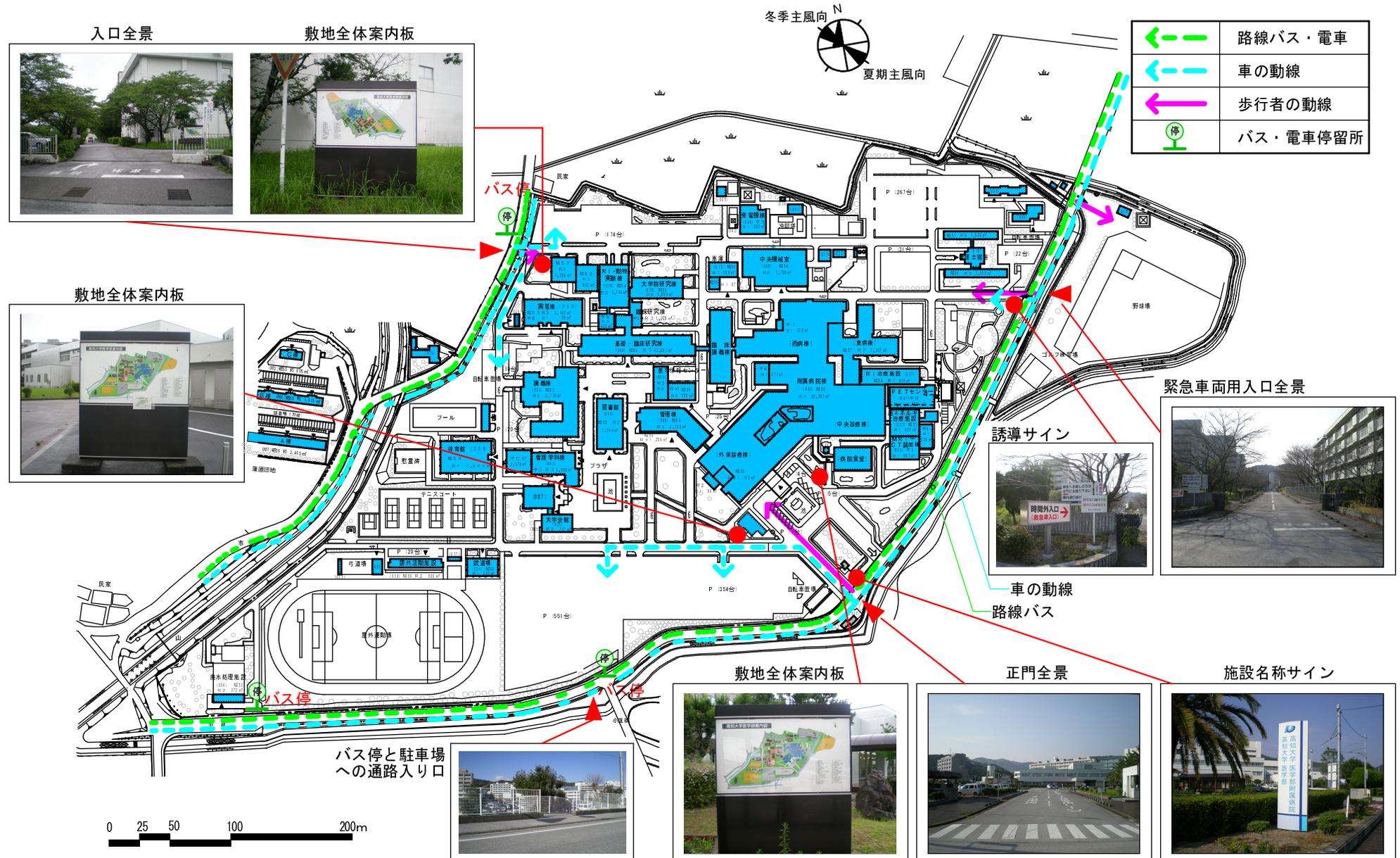
正門の総合案内板 (2)



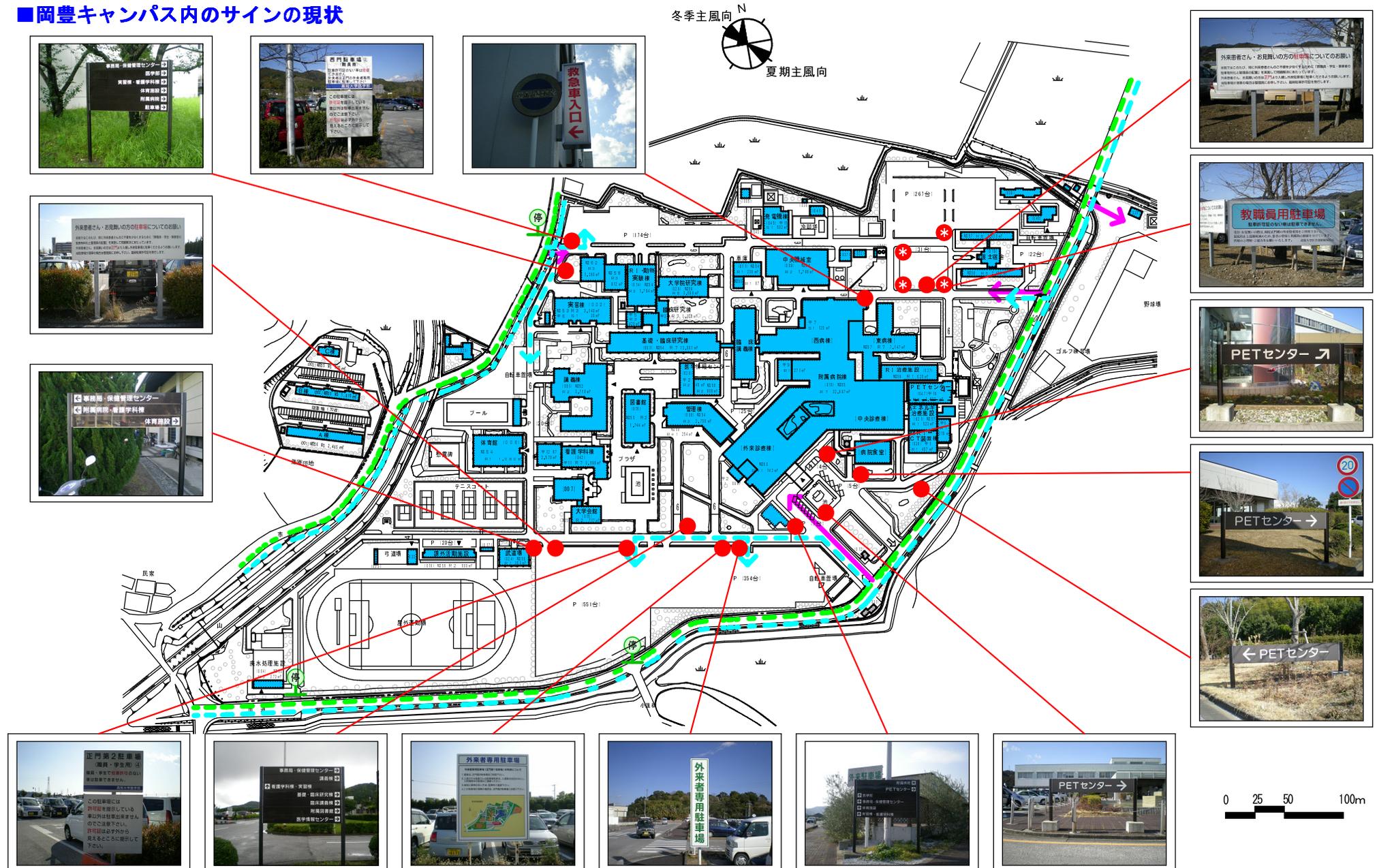
	路線バス・電車
	車の動線
	歩行者の動線
	バス・電車停留所

キャンパス サイン計画

■岡豊キャンパスの主要動線図



■岡豊キャンパス内のサインの現状



キャンパス サイン計画

■キャンパス内のサインの種類 [1]

A 敷地全体案内サイン (朝倉)



A 敷地全体案内サイン (物部)



A 敷地全体案内サイン (岡豊)



O 施設案内サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



C 誘導サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



■キャンパス内のサインの種類 [2]

E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



E 規制サイン



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



F ポスターケース



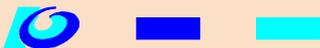
F ポスターケース



F ポスターケース

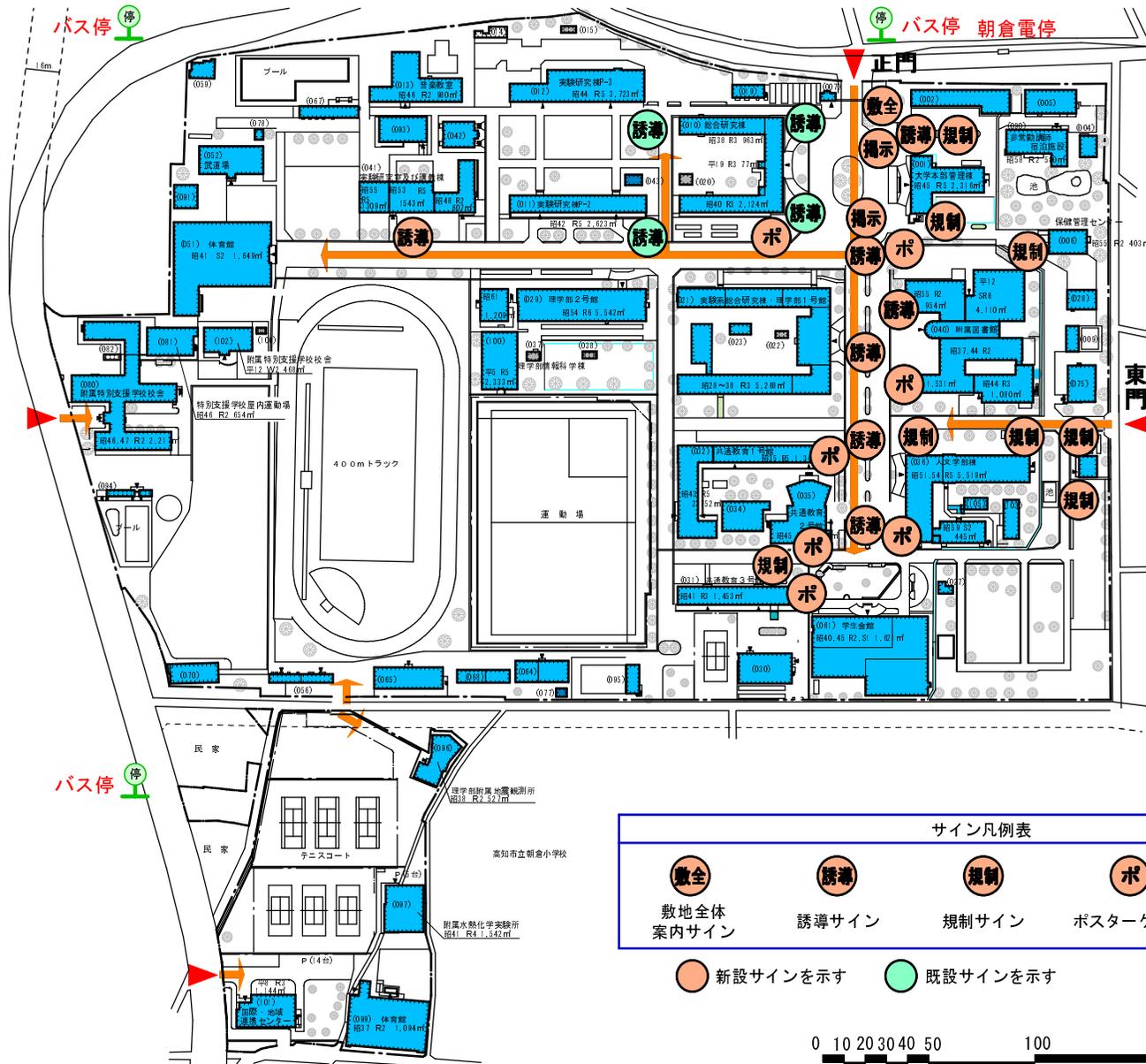


■現状の問題点と課題

サインの種類	サインの現状	現状の問題点	今後の課題
<p>■敷地全体案内サイン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝倉団地に1カ所、物部団地に1カ所、岡豊団地に3カ所設置されており、デザインそれぞれ異なっている。 ・夜間利用も考慮した照明機能が備えられていない。 ・英文表記はされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サインのデザインに大学のアイデンティティが見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置位置や新たな追加の検討を必要とする。 ・ロゴマークやシンボルカラーを使用する。  <ul style="list-style-type: none"> ・夜間利用も考慮し、照明機能を備えたものとする。 ・英文併記を標準とする。
<p>■誘導サイン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・整合性のとれたサインもあるが、各所にまだ規格外のサインも点在する。 ・近年に設置されたものは、一つ一つの情報がユニット式になっており、情報の更新がし易い。 ・英文併記はされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの施設を案内するには、地図情報の方が有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団地のなかでも比較的多く整合性のとれた既設サインに統一していくこと。
<p>■規制サイン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスの各所に種々雑多あり、統一されたものではなく、老朽したものなど安易なサインもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の種々雑多なサインは、表示内容、デザインがバラバラである。 ・老朽、破損したサインが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観へ配慮した設置が必要。 ・老朽したサインの交換が必要。 ・ピクトグラム等の活用により、認知度を高める。 ・赤文字は、緊急性の高い情報に利用されるが安易な使用避ける必要がある。
<p>■ポスターケース</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的近年に設置されたものと、旧式の老朽したものも見られ美観を損なっているものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターケースに大学のアイデンティティが見られない。 ・老朽し、美観を損なうポスターケースが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽した掲示版は新しいものに更新する必要がある。 ・夜間利用も考慮し、照明機能を備えたものとする。

キャンパス サイン計画

■朝倉キャンパス サイン計画



新設サイン数量表

形式	数量
敷地全体案内サイン	1箇所
誘導サイン	7箇所
規制サイン	8箇所
ポスターケース	7箇所
脱着式掲示板	2箇所

サイン凡例表

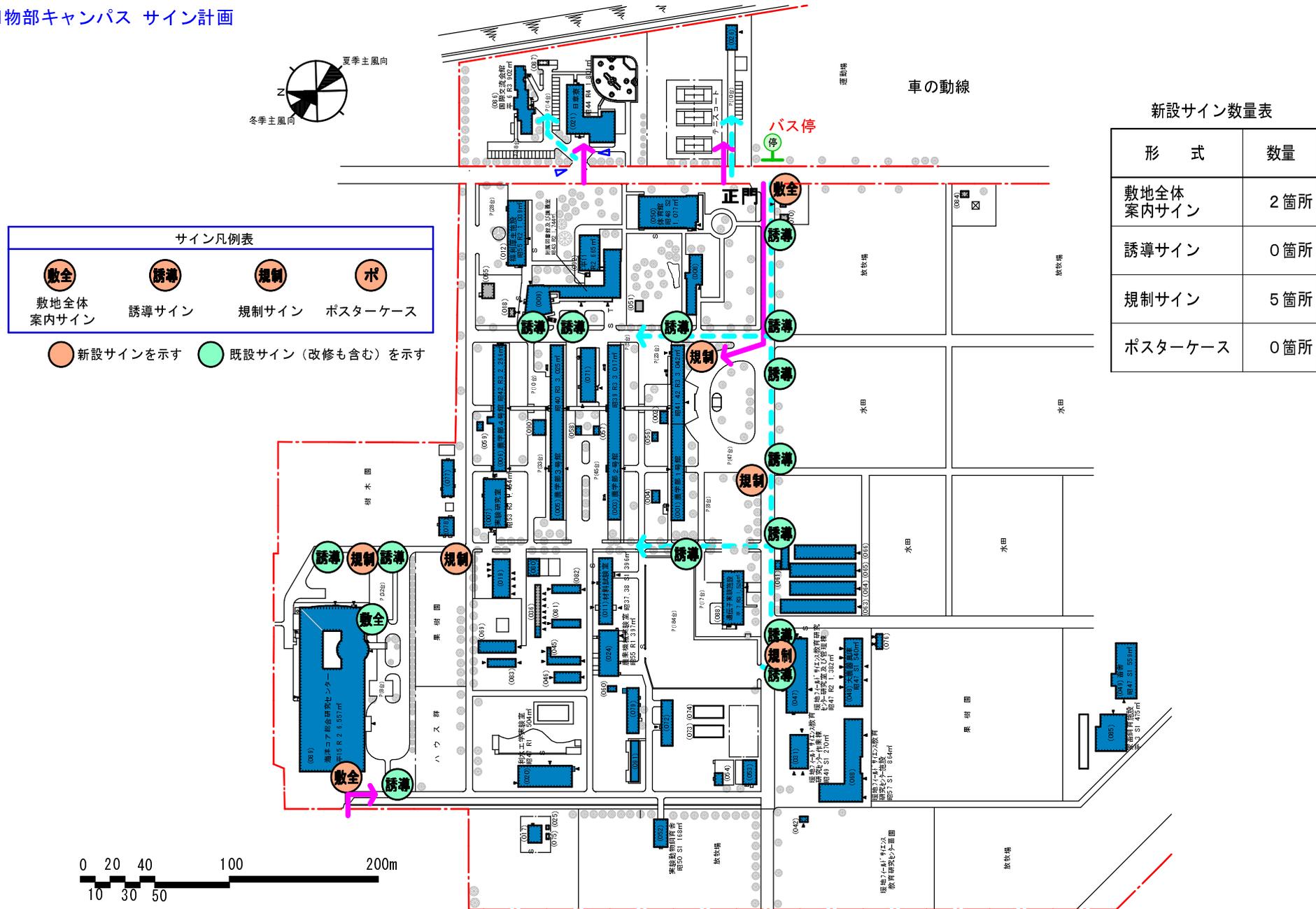
敷全	誘導	規制	ポ	掲示
敷地全体案内サイン	誘導サイン	規制サイン	ポスターケース	脱着式掲示板

● 新設サインを示す ● 既設サインを示す



キャンパス サイン計画

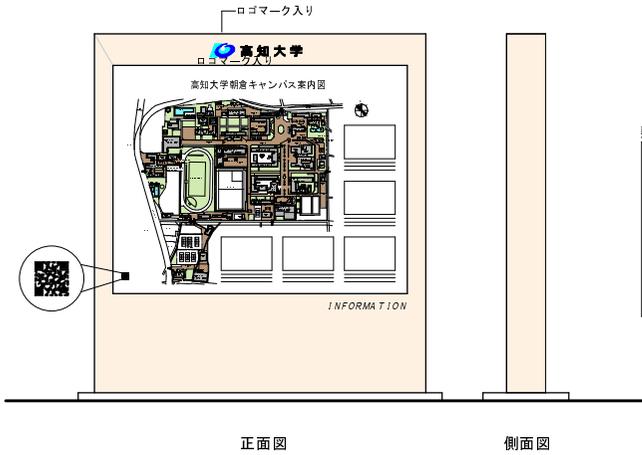
■物部キャンパス サイン計画



キャンパス サイン計画

■サインの基本デザイン (案)

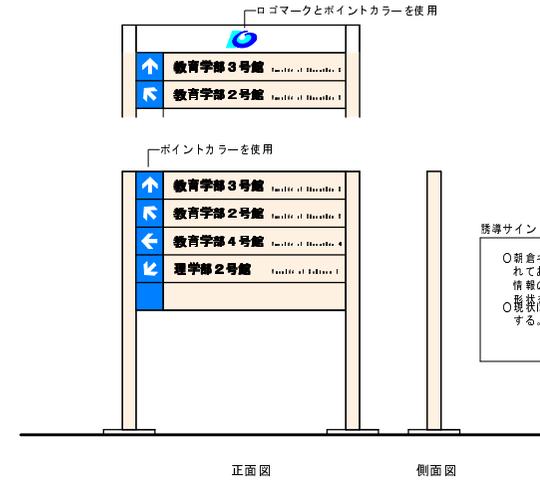
敷全 敷地全体案内サイン



- 敷地全体案内サイン
- キャンパス内の敷地全体案内サインは全てサイン相互の整合性、形状が異なるため、標準化が求められる。
 - 敷地全体案内サインの上部枠には高知大学のロゴマークを付けて大学の個性を強調させる。
 - 敷地全体案内サインは夜間利用も想定し、照明機能を備えたものとする。
 - 英文併記を基本とする。

・建物や施設の概要、敷地全体構成や施設内のフロア等を案内ガイドするサインで、平面マップ・フォト・説明文で案内
 ・バーコードで端末により、更に詳しい案内を確認

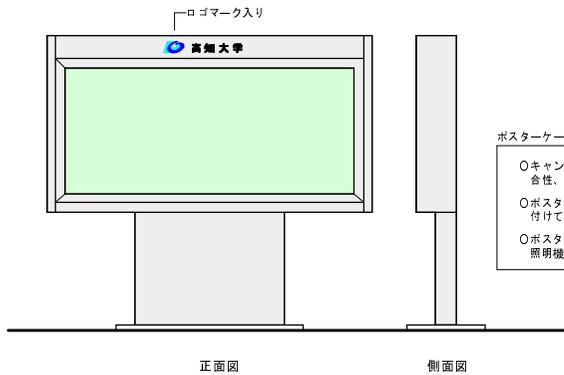
誘導 誘導サイン



- 誘導サイン
- 新倉キャンパスには上記の形状のものの一部が設置されており、一つ一つの情報がユニット式になっており、情報の更新がしやすいため、基本的にこの誘導サインの形状は変更しない。
 - 現状は英文併記がないため、今後は英文併記を基本とする。

・目的場所に行く為のサインで、各種にポイントカラーを付け分かりやすく誘導する。

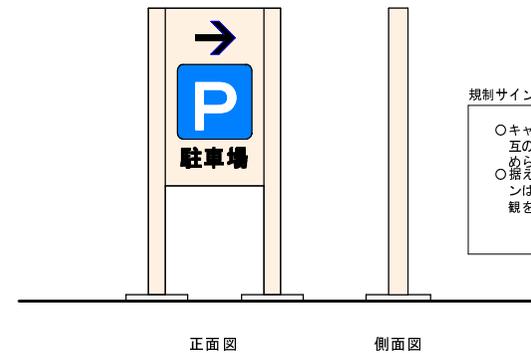
ポスターケース



- ポスターサイン
- キャンパス内のポスターケースは全てサイン相互の整合性、形状が異なるため、標準化が求められる。
 - ポスターケースの上部枠には高知大学のロゴマークを付けて大学の個性を強調させる。
 - ポスターケースの中で夜間利用も想定できるものは、照明機能を備えたものとする。

・大学サイドからの提示・公告また、学生間のコミュニティの為のもので、管理運営・利用運営をおこなう。

規制 規制サイン



- 規制サイン
- キャンパス内の規制サインは全てサイン相互の整合性、形状が異なるため標準化が求められる。
 - 据え置き型の規制サインや単柱の規制サインは、サイン本体が傾斜し安定感がなく美観を損なうため、二本支柱の形式とする。

・交通関係・車両誘導の他、注意禁止のサイン



高知大学キャンパスマスタープラン

平成23年3月

作成 高知大学 財務部 施設企画課
施設整備課